

科目名	科目区分	単位	学年	科目概要	到達目標（成績評価A）	単位修得目標（成績評価C）
日本事情（留学生対象）	国際学部 外国語等科目	2	1	日本の歴史や文化について学び、留学生として必要な日本に関する知識を養うことを目的とする。日本の歴史、文化についての基礎的な知識を得るとともに、日本人の生活習慣、ものの見方や行動様式などについての文献を読み、自国の状況と照らし合わせながら、理解を深める。	1. 外国人留学生が日本で学生生活・社会生活を送る上で必要な、日本の社会・風俗・習慣などにつき、参考文献を通して知識を得、一定の見識を養うことができる（知識・理解）。また、その知識・知見を或る程度、説明することができる。（知識・理解） 2. 口頭発表のために必要な参考資料を収集する方法を十分に会得している（技能）（情報収集）。 3. レジュームの作成法につき、習熟している（技能）。	1. 外国人留学生が日本で学生生活・社会生活を送る上で必要な、日本の社会・風俗・習慣などにつき、参考文献を通して知識を得、一定の見識を養うことができる（知識・理解）。 2. 口頭発表のために必要な参考資料を収集することができる（技能）（情報収集）。 3. レジュームの作成法につき、一定程度会得している（技能）。
日本語 IA（留学生対象）	国際学部 外国語等科目	1	2	研究のテーマ選び、資料収集、アウトラインの作成、レポート執筆までの各プロセスをタスク形式で進めていく。また、それぞれのプロセスにおいて必要な日本語の表現や規則について学ぶ。	自分でテーマを選び、テーマに関する資料を収集・分析し、レポートや論文などの論理的な文章を日本語で書くスキルに習熟することができる。（技能）	自分でテーマを選び、テーマに関する資料を収集・分析し、レポートや論文などの論理的な文章を日本語で書く基本的なスキルを身につけることができる。（技能）
日本語 IB（留学生対象）	国際学部 外国語等科目	1	2	自分で選んだテーマにしたがって口頭発表を行い、相互評価を行う。その他、情報交換、意見交換の発表の仕方、質疑応答の仕方について理解したうえで、練習を行う。	・聞き手を意識しながら、論理的な内容を明確に伝えるスキルに習熟することができる。（技能） ・口頭発表の内容を十分に理解し、テーマに沿って的確に質疑応答ができる。（技能）	・聞き手を意識しながら、論理的な内容を明確に伝える基本的なスキルを身につけることができる。（技能） ・口頭発表の内容を概ね理解し、テーマに沿って質疑応答ができる。（技能）
日本語 IIA（留学生対象）	国際学部 外国語等科目	1	2・3・4	ビジネスマナー、日本文化に関する情報を理解し、出身文化との違いを把握したり、他文化と比較し、理解を深める。また、各週、または隔週で、日本語の言語行動をいくつか機能別に復習し、ビジネス場面を念頭に練習を行う。	日本のビジネスマナーを十分に理解し、ビジネス場面特有の語彙や表現に習熟し、運用できる。（技能）	日本のビジネスマナーを理解し、基本的なビジネス場面特有の語彙や表現を身につけ、運用できる。（技能）
日本語 IIB（留学生対象）	国際学部 外国語等科目	1	2・3・4	電話やメール、ビジネス文書など仕事で使用される日本語を取り上げ、ビジネス上のコミュニケーションの特徴について学ぶ。また、さまざまな資料を用いて日本人の仕事観についても理解を深める。	電話やメールなどで使用されるビジネス場面特有の表現を十分に理解し、それを場面に応じて適切に運用することができる。（技能）	電話やメールなどで使用される基本的なビジネス場面特有の表現を理解し、それを場面に応じて運用することができる。（技能）
社会言語学	国際学部 専門科目	2	1・2	社会言語学は、ある社会における言語特徴を調べるために、言語の多様性・その機能など人間言語の本質をより明らかにしようとする言語研究の分野である。この授業では社会との関連において言語に関する基本的な概念や考え方について理解できることを目標とする。人間の意思伝達において言語と社会文化的な諸要素との相互影響について学習する。取り上げるテーマは、言語の変異に焦点を当てて、人間の言語能力が社会でどのように表現されているか、その複雑な関係について具体的に理解する。	・社会と言語の関係について、自身の身近な例をもとに理解することができる。（知識・理解） ・日本語教師を目指す者は、関連する理論や用語の概念を理解できるようになる。（知識・理解）	・社会と言語の関係について、最低限、理解することができる。（知識・理解） ・日本語教師を目指す者は、関連する理論や用語の概念をおおむね理解できるようになる。（知識・理解）
英語学概論	国際学部 専門科目	2	1・2	英語という言語がどのように生まれ発展してきたか？英語にはどんな文法的特徴があるのか？実際の会話では、どのように使用されているのか？などを総合的・体系的に学習する。英語の歴史については、古英語、中英語、近代英語のそれぞれの特徴を、また文法については音声学、音韻論、形態論、統語論、意味論、さらに会話における使用については、語用論、応用言語学、社会言語学について理解する。語用論については発話行為や談話分析などを、また応用言語学についてはことばと脳の関係や第二言語習得なども理解する。	1. 日々のコミュニケーションを学問という窓を通して分析的に見つめ直すことができる。（関心・意欲・態度） 2. 英語のコミュニケーションの諸相を概観しながら、コミュニケーションの背後にあるメカニズムを体系的に考えることができるようになる。（思考・判断・表現） 3. 全15回の講義を通して自分自身の英語学習を振り返り、より効果的な学習ができるようヒントを少しでも多く得ることができるようになる。（知識・理解）	1. 日々のコミュニケーションについて見つめ直すことができる。（関心・意欲・態度） 2. 英語のコミュニケーションの諸相を概観しながら、コミュニケーションの背後にあるメカニズムを体系的に考えることができるようになる。（思考・判断・表現） 3. 全15回の講義を通して、英語学習についての何等かのヒントを得ることができるようになる。（知識・理解）
対照言語学	国際学部 専門科目	2	1・2	主に英語と日本語の間に見られる相違点と共通点について考察する。特に単語（語句）の意味や文の構造に関わる課題を取り扱い、英語で書かれた文章とその日本語訳や、日本語で書かれた文章の英訳を資料にし、それから発見できる対応関係のパターンを考える。日英の表現法の相違について考察し、それらの相違点について、それぞれの言語構造に基づいたものなのか、文化的背景を反映しているものなのかを検討し、言語構造の相違点を明らかにするだけでなく、言語表現の背後に潜む思考様式や論理、価値観などについても、包括的に比較検討する。	・言語の現象を把握し、客観的に考えるための基礎的な知識を身につけることができる。（知識・理解） ・日本語と英語のさまざまな違いを発見し、理解することができるようになる。（思考・判断・表現）	・言語の現象を把握し、客観的に考えるための基礎的な知識を身につけることができる。（知識・理解） ・日本語と英語の違いを理解することができる。（思考・判断・表現）
ジェンダー論 I（表象）	国際学部 基礎科目	2	1・2	日常的に目にする美術作品、写真、映画、アニメ、漫画、あるいは商業的目的で作られるポスターやコマーシャル・フィルムなどのなかに当たり前のように刷り込まれている文化的な性差を検証し、そうした性差がどのように作られてきたのか歴史的背景や地域による差異などを多角的に考察する。こうした表象がそれぞれの文化で「男性らしさ」「女性らしさ」というイメージを形成するのに果たした役割がいかに大きいかを実際の作例で検証することで現代の文化や社会をジェンダーという枠組みで再考することの意義を深く理解する。	・それぞれの日々を生きる存在としての人間の精神、その積み重ねとしての日常と歴史を表現の対象とする芸術作品を通して、ジェンダー理論を具体的な実感を伴い理解することが出来るようになる。（知識・理解） ・そして、自分の身近に存在するその他の事象も習得したジェンダー理論を応用して、分析出来るようになる。（思考・判断・表現）	それぞれの日々を生きる存在としての人間の精神、その積み重ねとしての日常と歴史を表現の対象とする芸術作品を通して、ジェンダー理論を具体的な実感を伴い理解することが出来るようになる。（知識・理解）
ジェンダー論 II（法律・経済と労働）	国際学部 基礎科目	2	1・2	近年、女性の社会進出が目覚ましいと言われる。女性の家庭外での雇用就労が増え、自立した女性の生き方が可能になってきた。法制度も改正が続いている。だがそうした過程の進行は、その一方で、少子化の深刻化等さまざまな問題を生ぜしめている。なぜそうなるのか。またそれらに対し、どのような対策がとられてきたのか。授業では、女性労働を歴史的に考察し、女性が働くということそのものを根源的に問い直し、近年の女性労働がどのように変化してきたか、そこにはどのような問題、課題があるのか、またそうした女性労働に関わる法制度はどのように改正されてきたか等、日本の状況を中心に考察し、加えて必要に応じ、諸外国との比較も行う。経済・社会・法律の観点から、女性が働くことについての包括的な理解と知識を習得する。	・ジェンダーに大きく規定されてきた女性の生き方、働き方が、経済社会の進展とともにどう変化してきたか、現在どうなっているか、そこにはどのような問題があるのか等について理解することができる。（知識・理解） ・女性労働に関連する法律の知識を修得することができる。（知識・理解） ・授業で習得した女性労働に関する歴史・法制度を踏まえ、女性が働くということについての自らの考えを確立し、日本が抱える課題の解決方法を提案することができる。（思考・判断・表現）	・ジェンダーに大きく規定されてきた女性の生き方、働き方が、経済社会の進展とともにどう変化してきたか、現在どうなっているか、そこにはどのような問題があるのか等について理解することができる。（知識・理解） ・女性労働に関連する法律の知識を修得することができる。（知識・理解）

科目名	科目区分	単位	学年	科目概要	到達目標（成績評価A）	単位修得目標（成績評価C）
ジェンダー論Ⅲ (セクシュアリティ)	国際学部 基礎科目	専門 2	1・2	昨今の日本社会において、「ジェンダー・フリー」の言葉の使用をめぐって、「男らしさ」「女らしさ」を不問に付すことに関して、論議を呼んでいる。そもそも「男」「女」は明確に分けられるのである。この授業では、性的存在としての個人の自由意志や性的人権を考察し、このセクシュアリティにおける性的自立について考える。ジェンダーとセクシュアリティに関する思い込みを解体するような理論的枠組みを学んだ上で、セクシュアル・マイノリティ当事者の声、マスメディアや映画などの表象文化を通してジェンダー、セクシャリティ、セクシャルマイノリティに対する知識を得る。	・ジェンダーとセクシュアリティについて、基本的な知識を習得することが出来る。(知識・理解) ・セクシャルマイノリティ(LGBT)に関する世界的潮流についての知識を習得することが出来る。(知識・理解)。 ・講義で学んだジェンダーとセクシャリティに関する理論を応用して、世の中の様々な事象を自分で分析・考察出来る。(思考・判断・表現) ・日本社会におけるセクシュアル・マイノリティの問題点を指摘することが出来る。(思考・判断・表現)	・ジェンダーとセクシュアリティについて、基本的な知識を習得することが出来る。(知識・理解) ・セクシャルマイノリティ(LGBT)に関する世界的潮流についての知識を習得することが出来る。(知識・理解)。 ・日本社会におけるセクシュアル・マイノリティの問題点を指摘することが出来る。(思考・判断・表現)
ジェンダー論Ⅳ (地域と階層)	国際学部 基礎科目	専門 2	1・2	21世紀に入り、経済のグローバル化が進行し、国境を越えて経済的依存・相互影響が広がっている。そのプロセスの中で、国や地域の格差は拡大し、高度経済発展をしている中心的な国・地域は途上国などの周辺地域を経済的・政治的に支配していく。その過程で貧困層が増大し、自然環境の破壊が進む。このような状況下で、世界の女性はどういう問題に遭遇しているのだろうか。この授業では、さまざまな地域における女性の生産労働、再生産労働、開発参加、貧困、福祉、エンパワメントなどの問題を考察する。	・女性/男性がおかれた社会的状況は、各地域でどのような相違があるのか、具体的には「ジェンダー」、「階級」、「カースト・民族」、「年齢」といった属性が、個人々の社会的達成にどのような影響を与えているのかを理解することが出来る。(知識・理解) ・世界の様々な地域の女性を取り巻く社会問題を読み解き、行動する力を養うことが出来る。(関心・意欲・態度)	・女性/男性がおかれた社会的状況は、各地域でどのような相違があるのか、具体的には「ジェンダー」、「階級」、「カースト・民族」、「年齢」といった属性が、個人々の社会的達成にどのような影響を与えているのかを理解することが出来る。(知識・理解)
*GSE Introductory Research Seminar	国際学部 基礎科目	専門 2	1	GSEプログラムでの学習にあたっての基本的な知識とスキルの修得によって、2年次以降のGSE基礎演習、国際専門演習のより専門的な学習への橋渡しを行う。研究テーマの設定の仕方、文献資料の収集と整理方法、文献の読み方、研究発表の方法、ディベートの実践、論文やレポート執筆のための基礎的知識と論旨の組み立て方などを具体的テーマに沿って学ぶ。最終的に各自の関心に従って選択したテーマで小論文を完成させる。	教養・基礎ゼミナールで学んだ大学で学ぶための基本的技術を実践的に運用し、英語による文献検索、資料収集、文献の批判的読解、発表、討論、レポートの作成などを、十分できるようになる。(思考・判断・表現)	教養・基礎ゼミナールで学んだ大学で学ぶための基本的技術を実践的に運用し、英語による文献検索、資料収集、文献の批判的読解、発表、討論、レポートの作成などを、最低限できるようになる。(思考・判断・表現)
国際文化論	国際学部 基礎科目	専門 2	1	国際関係を文化という視点から論じるとどうなるだろうか。急速にグローバル化する今日の世界においては、国境を超えた、政治、経済活動を含む広い意味での、文化のグローバル化が進行しているといえよう。こうしたグローバル化し、世界に共通といえるような、ある種普遍的ともいえる文化が広がる一方で、逆に特定の地域や固有の集団に独自の文化が再活性化されるといった現象も散見される。ここではそうした文化の、複雑な営み、多元的で重層的な諸相について、具体的な事例を検討しつつ、論じる。	昨今、顕著になってきた「文化のグローバル化」という現象に関する知識を深め、その複雑で重層的な諸相が理解できるようになる。	昨今、顕著になってきた「文化のグローバル化」という現象に関する知識を深め、その複雑で重層的な諸相が理解できるようになる。
国際関係論Ⅰ	国際学部 基礎科目	専門 2	1	国際社会の秩序を形成している原則や規範について歴史的、理論的に考察し、社会科学の用語の正しい使用法を学びつつ、国際関係論の基礎概念を習得する。「主権」のような基礎概念が歴史的にどのように形成されてきたかを理解することに注力し、そうした基礎概念を今日のグローバル化の進展で起こる新しい課題の考察に活用する思考法を習得する。	1. 国際関係論の基礎概念について、社会科学の用語を用いて正確に説明できる。(知識・理解) 2. グローバリゼーションの進展によって起こる課題を見出し、国際関係論の基礎概念を用いて考察することができる。(思考・判断・表現)	1. 国際関係論の基礎概念について、基本的な事項を説明できる。(知識・理解) 2. グローバリゼーションの進展によって起こる課題を見出すことができる。(思考・判断・表現)
国際関係論Ⅱ	国際学部 基礎科目	専門 2	1	国際社会のなかで個々の国家などのアクター（行為主体）がとる対外政策（外交政策）の決定過程分析に必要な理論について理解し、具体的な事例でそれを用い、考察する。対外政策の主要理論であるリアリズム、リベラリズム、コンストラクティヴィズムの基本的な考え方を理解する。理論は実際に起こった歴史事象から析出されたものなので、授業ではビデオなども利用して、具体的な事例の分析を行ないながら考察する。	1. 対外政策の決定過程について理解し、国ごとの制度の違いを踏まえた説明ができる。(知識・理解) 2. 具体的な事例をもとに対外政策の決定過程について、主要な理論に従って分析を行い、レポートを作成することができる。(思考・判断・表現) 3. 対外政策の主要理論であるリアリズム、リベラリズム、コンストラクティヴィズムについて、代表的な論者をあげながら、それぞれの特徴を説明できる。(知識・理解)	1. 対外政策の決定過程について、基本的な事項を説明できる。(知識・理解) 2. 具体的な事例をもとに対外政策の決定過程について、レポートを作成することができる。(思考・判断・表現) 3. 対外政策の主要理論であるリアリズム、リベラリズム、コンストラクティヴィズムについて、基本的な事項を説明できる。(知識・理解)
国際関係史Ⅰ	国際学部 基礎科目	専門 2	1・2	ナショナリズムと国民国家、資本主義・市場経済と社会主義、植民地支配と脱植民地化、科学技術の発達、技術力および工業力に規定される現代の戦争の特質、大衆の政治参加・民主主義など、現代史における国家間の関係に多大な影響を及ぼした現象・運動に着目し、20世紀の国際関係史におけるダイナミックな変化に対する理解を深める。	19世紀末・20世紀はじめから今日に至るまで、国際関係の歴史や世界の様々な人々の生活に影響を与えてきた重要な思想・運動や社会の変動について理解できる。(知識・理解)	19世紀末・20世紀はじめから今日に至るまで、国際関係の歴史や世界の様々な人々の生活に影響を与えてきた重要な思想・運動や社会の変動に関する基礎的な事項について最低限理解できる。(知識・理解)
国際関係史Ⅱ	国際学部 基礎科目	専門 2	1・2	国際関係史Iでの国際関係史の大きな流れに関する理解を前提に、第一次世界大戦、戦間期、第二次世界大戦、「冷戦」期や第三世界における変動など、20世紀の国際関係史における主要な出来事を時系列的に学ぶとともに、歴史の事実とその背景となる政治、経済、文化などの要因に関する理解を深める。	20世紀の国際関係史における主要な出来事を、「国際関係史I」で学んだこれまでの国際関係の歴史の様々な特徴を念頭において再検討し、理解できる(知識・理解)	20世紀の国際関係史における主要な出来事に関する基礎的な事項を、「国際関係史I」で学んだこれまでの国際関係の歴史の様々な特徴を念頭において再検討し、最低限理解できる(知識・理解)
国際組織論	国際学部 科目	専門 2	2・3	国際連合が成立してから半世紀以上が経過し、国際組織の活動が報道されることは違和感はないに違いない。これらの活動は、各国のそれらと同様に国際社会にとり、重要な要素となる。国際組織の活動は現代社会の問題を考える上で、既に無くてはならない存在である。本講義は、国際社会の重要な行為主体となった国際組織について知見を深めることを目的とする。国際組織の成立史、その機能、法的な基盤、そして、直面する問題点などについて学習する。	国際組織の成立経緯について、国際社会の組織化を踏まえて、総合的に理解できる。国連の主要な活動(国際の平和と安全の維持、経済社会分野での国際協力等)について、国連憲章を解釈・適用することで説明することができる。地域的国際組織の形成と発展について国連と比較しつつ、その相違について述べることができる。	国際組織の成立経緯について、基本的な事項を理解する。国連の主要な活動(国際の平和と安全の維持、経済社会分野での国際協力等)について、基礎的な国連憲章の条文を理解する。地域的国際組織の形成と発展について概要を把握する。

科目名	科目区分	単位	学年	科目概要	到達目標（成績評価A）	単位修得目標（成績評価C）
国際法 I	国際学部 専門科目	2	2・3	国際社会は得てして、パワーポリティックス、力によって動いていると考えられがちである。しかし、それだけで国際社会は動いていない現象を見ることがある。大国であれ、中小国であれ、国際法に依拠した行動が求められる。本講義では、国家の行動の基準となる国際法を学ぶ講義である。特に、国際法の総論部分、すなわち、国際法の存在形態、国際法の主体である国家に焦点をあて、その形成、国家機関の国際法上の機能について学習する。	生来的国際法主体である国家の形成と変化に関する国際法規範を理解し、事例に適用できる。国家機関に関する国際法規範を理解し、国家管轄権の適用と限界について具体的事例を含め、説明できる。国際法規範の種類と成立について説明し、条約法条約の規範について解釈・適用できる。	生来的国際法主体である国家の形成と変化について基本的な国際法規範を説明できる。国家機関に関する基本的な国際法規範を説明できる。国際法規範の種類と形成要件について基本的事項を列挙できる。条約法条約の基本的条項を選択できる。
国際協力論	国際学部 基礎科目	2	1・2	開発途上国が抱える様々な問題を概観した後、これらの問題に対する国際社会の対応について、特に政府開発援助(ODA)の観点から考察する。その上で、わが国の開発援助の政策、現状と課題、JICAの協力概要について、事例を踏まえて考察する。また、アフリカを事例として、アフリカの概要や課題、援助の状況を紹介する。	・経済問題、紛争問題、難民問題、民族問題、地域問題、環境問題等、開発途上国が抱える様々な問題や、それらに対する国際社会の対応について理解できるようにする。(知識・理解) ・国際貢献のあり方や、個人として何をすべきか考えられるようになる。(思考・判断・表現)	・経済問題、紛争問題、難民問題、民族問題、地域問題、環境問題等、開発途上国が抱える様々な問題や、それらに対する国際社会の対応についての理解をある程度深めることができる。(知識・理解) ・国際貢献のあり方や、個人として何をすべきかある程度考えられるようになる。(思考・判断・表現)
国際協力とNPO	国際学部 専門科目	2	2・3	数のうえでも活動の範囲・質のうえでも近年めざましい発展をとげているNPO・NGO（非政府組織）や個人による国際協力、企業による国際協力について、その重要性和問題点や限界について理解を深めるとともに、個人として国際社会にどのような関わりを持つことができるかも考察する。様々なケーススタディからNPO・NGOによる国際協力の成功要因を抽出するなどを通じて、国際協力事業の実践活動にも資することを旨とする。	・世界には様々な人々が生活している。その状況を多角的に理解し、国際協力における、非営利組織(NPO)・非政府組織(NGO)の活動の特徴や役割を十分に理解することができる。(知識・理解) ・市民による国際協力について自ら問題意識を持って考えることができるようになる。(思考・判断・表現)	・世界には様々な人々が生活している。その状況を多角的に理解し、国際協力における、非営利組織(NPO)・非政府組織(NGO)の活動の特徴や役割の基本を理解することができる。(知識・理解) ・市民による国際協力について問題意識を持って考えることができるようになる。(思考・判断・表現)
国際経済学 I	国際学部 専門科目	2	2・3	今日、私達は、通信技術、輸送技術の進歩により、かつて類を見ないほどのグローバル化の進んだ世界にいます。少子・高齢化が進む、日本は、国外へ飛び出し、海外の市場を開拓する以外に今後生き残りの道はありません。そして、海外の市場を先頭に立って開拓するのは、他でもないあなたなのです。この講義は、これからグローバル経済の中で競争するあなたに、知識と知恵を習得してもらうためのものです。国際経済学は、国際貿易論(財・サービスの国際取引)と、国際金融論(資本の国際取引)により構成される学問です。この講義では、国際金融論の理論、為替レートを決定する背後にある理論・外国との金銭のやり取りを表す国際収支・財政政策や金融政策が為替レートに与える影響を分析するマンデル・フレミングモデルなどを学びます。この講義を通じて、国際金融に関する知識を取得するだけでなく、今後自分の力で国際経済を分析する力を養うことを目指します。	1. 為替レート決定に関する理論を理解する。(知識・理解) 2. 国際収支の仕組みを理解する。(知識・理解) 3. 変動相場制・固定相場制の下での財政政策・金融政策が与える影響をマンデル・フレミングモデルを使って分析できるようになる。(知識・理解)(思考・判断・表現)(技能) 4. 国際金融論に関する知識を身に付けることにより、経済学の面白さを味わう。(思考・判断・表現)(関心・意欲・態度) 5. 世界で何か出来事が起きたとき、それが世界や自国の経済にどのように影響するかを自らの力で分析できるようになる経済学的分析力が身につく。(思考・判断・表現)(技能)	1. 為替レート決定に関する理論を理解する。(知識・理解) 2. 国際収支の仕組みを理解する。(知識・理解) 3. 変動相場制・固定相場制の下での財政政策・金融政策が与える影響をマンデル・フレミングモデルを使って分析できるようになる。(知識・理解)(思考・判断・表現)(技能) 4. 国際金融論に関する知識を身に付けることにより、経済学の面白さを味わう。(思考・判断・表現)(関心・意欲・態度)
国際経済学 II	国際学部 専門科目	2	2・3	今日、私達は、通信技術、輸送技術の進歩により、かつて類を見ないほどのグローバル化の進んだ世界にいます。少子・高齢化が進む、日本は、国外へ飛び出し、海外の市場を開拓する以外に今後生き残りの道はありません。そして、海外の市場を先頭に立って開拓するのは、他でもないあなたなのです。この講義は、これからグローバル経済の中で競争するあなたに、知識と知恵を習得してもらうためのものです。国際経済学は、国際貿易論(財・サービスの国際取引)と、国際金融論(資本の国際取引)により構成される学問です。この講義では、国際経済学の国際貿易論の理論、貿易政策が経済に与える影響を中心に学びます。具体的に、講義ではグラフや多少の数式を使いながら国際貿易の古典理論から最新理論までを学ぶことにより、今現在進行形で起きている出来事や政策を自らの力で分析する力を養います。	1. 国際貿易の代表的な理論を学び、知識を広げるだけでなく、結論が導き出される過程を丁寧に説明できるようにする。(知識・理解)(思考・判断・表現) 2. 貿易政策(関税・数量制限・TPPをはじめとする貿易自由化)が異なる経済主体に与える影響をグラフや数式を使って客観的に分析出来るようになる。(知識・理解)(思考・判断・表現) 3. ミクロ経済学やマクロ経済学でも用いられる経済学の分析方法を使い慣れることにより、経済学の分析力を上げ、現在自分の身近に起きていることを経済学的に分析出来るようになり、経済学のおもしろさを実感する。(思考・判断・表現)(関心・意欲・態度)	1. 国際貿易の代表的な理論を学び、知識を広げるだけでなく、結論説明できるようにする。(知識・理解)(思考・判断・表現) 2. 貿易政策(関税・数量制限・TPPをはじめとする貿易自由化)が異なる経済主体に与える影響をグラフを使って客観的に分析出来るようになる。(知識・理解)(思考・判断・表現) 3. ミクロ経済学やマクロ経済学でも用いられる経済学の分析方法を使うことにより、経済学の分析力が向上することで、経済学のおもしろさを実感する。(思考・判断・表現)(関心・意欲・態度)
ミクロ経済学 II	国際学部 専門科目	2	2・3	ミクロ経済学 I では、①完全競争②合理的な行動をする個人という仮定の下での分析を中心に行ってきました。このミクロ経済学 II では、最初はこの2つの仮定の下での分析を進めていきますが、後半にこの2つの仮定を緩めた、独占・寡占の状況下での各経済主体の意思決定を分析するミクロ経済学の理論を学びます。この講義では、ミクロ経済学 I で習得した分析手法を復習しながら最新のミクロ経済学理論を学ぶことで、ミクロ経済学の分析手法の定着化と、情報のアップデートをすることを目的としています。	1. 完全競争の下での企業の利潤最大化・消費者の効用最大化の理論を復習することで、完全競争の理論を自分の知識として完全に習得する。(知識・理解)(思考・判断・表現) 2. 不完全競争下での理論を学ぶことにより、不完全競争下での理論の結果と分析に必要な手法を身に付ける。(知識・理解)(思考・判断・表現) 3. 完全競争下と不完全競争下の理論の結論の違いと、異なる結論に至る理由を説明出来るようになる。(知識・理解)(思考・判断・表現) 4. 経済学の理論は、仮定をを少し緩めるだけで、結論が大幅に変わることを体感することで、経済学理論研究のおもしろさを味わう。(思考・判断・表現)(関心・意欲・態度)	1. 完全競争の下での企業の利潤最大化・消費者の効用最大化の理論を復習することで、完全競争の理論を自分の知識として習得する。(知識・理解)(思考・判断・表現) 2. 不完全競争下での理論を学ぶことにより、不完全競争下での理論の問題が解けるようになる。(知識・理解)(思考・判断・表現) 3. 完全競争下と不完全競争下の理論の結論の違いが説明出来るようになる。(知識・理解)(思考・判断・表現) 4. 経済学の理論は、仮定をを少し緩めるだけで、結論が大幅に変わることを体感することで、経済学理論研究のおもしろさを味わう。(思考・判断・表現)(関心・意欲・態度)
地球環境論	国際学部 専門科目	2	2・3	現代国際関係に関する専門知識を広げる学びの一環として、地球環境問題の中でも最も注目度が高い地球温暖化問題について、科学、経済および政治の3つの側面から理解する。21世紀半ばまでには温室効果ガスを最低でも半減するための国際協力において、我が国が果たすべき役割について考察する。	1. 地球温暖化問題について、科学、経済および政治の3つの側面から十分に説明できる。(知識・理解) 2. 21世紀半ばまでには温室効果ガスを最低でも半減するための国際協力において、我が国が果たすべき役割について多面的な考察を示せる。(思考・判断・表現)	1. 地球温暖化問題について、科学、経済および政治の3つの側面から最低限の説明できる。(知識・理解) 2. 21世紀半ばまでには温室効果ガスを最低でも半減するための国際協力において、我が国が果たすべき役割について最低限の考察を示せる。(思考・判断・表現)
アジア太平洋の経済	国際学部 専門科目	2	2・3	アジアの経済成長は、20世紀後半の世界を特徴づける最も重要な出来事の一つであった。1997年のアジア通貨危機により幾つかの諸国が経済危機に見舞われたが、その後回復し、今、再び高成長を続けている。「世界の成長センター」として、「世界の工場」「世界の市場」として、とりわけ先進諸国がリーマンショック以降の経済停滞から脱却できないでいるのとは対照的に、アジアは世界経済での存在感を高めている。またASEANを中核とした地域的統合も急速に進展しつつある。授業では、このアジア経済の現状とその特徴、歴史的な経緯、抱える諸問題、また近年の国際的な統合・連携関係の進展等について、アジア全域、地域別、また主要国については各国別に概観し、アジア経済についての幅広い知識の習得、並びに包括的理解が出来るようになる。	・アジアの経済発展の現状とその特徴、歴史的経緯、国・地域別特殊性等について理解出来る。(知識・理解) ・アジアをめぐる経済連携、経済自由化の動向について理解出来る。(知識・理解) ・アジア地域、アジア諸国が直面する諸問題、諸課題について幅広い知識を習得し、包括的な理解出来る。(知識・理解)	・アジアの経済発展の現状とその特徴、歴史的経緯、国・地域別特殊性等について理解出来る。(知識・理解) ・アジアをめぐる経済連携、経済自由化の動向について理解出来る。(知識・理解) ・アジア地域、アジア諸国が直面する諸問題、諸課題について理解出来る。(知識・理解)

科目名	科目区分	単位	学年	科目概要	到達目標（成績評価A）	単位修得目標（成績評価C）
政治分析の基礎	国際学部 基礎科目	専門	2	1・2	国際社会関係の専門科目履修に向けた基礎学力を養うことを目指して、政治の基本的な仕組みはどうなっているか、何が政治を動かすのか、数字やデータに基づいて政治をどう捉えるかなどについて、最新のメディア情報、世論調査、公式統計などに触れながら理解する。	1. 政治の基本的な仕組みはどうなっているか、何が政治を動かすのか、数字やデータに基づいて政治をどう捉えるかなどについて最低限の説明ができる。（知識・理解） 2. 最新のメディア情報、世論調査、公式統計などのデータを最低限使える。（知識・理解）
比較文化論 I	国際学部 基礎科目	専門	2	1	地球が一つの共同体となりつつある今日、世界の多様な諸文化の中で生きる私たちにとって、文化の交流や相互理解が極めて重要な課題となっている。20世紀半ば頃から急速に発展したこの分野は、複数の文化を想定しつつ、比較という方法で、広い意味での文化現象を新たに捉え直そうとする試みといえよう。ここでは、この学問分野の成立の背景、歴史的発展、意義などをまず概略し、具体的な研究の事例を幾つか紹介しながら、そのなし得る貢献や可能性、限界や問題点を検討する。	世界の多様な諸文化を学びつつ、比較という手法を用いて自文化を含む様々な文化を相対化することで、文化の更なる理解を深めることができるようになる。
現代社会と歴史 I	国際学部 基礎科目	専門	2	1・2	原始から現代に至る日本史を概説する。そのため、原始・古代・中世・近世・近代・現代という大きな時期区分と、その下にある鎌倉時代などの時代区分を行い、各時代の特徴は何か、ある時代から次の時代への転換・推移の基本的な要因は何か、を中心に講義する。	日本史の時代区分・時期区分と、各時代の特徴、推移の基本的要因について、十分に理解し説明できる。（知識・理解・表現）
アジア太平洋の国際関係 I	国際学部 科目	専門	2	2・3	近現代のアジア太平洋地域の国際関係を、欧米諸国による開国から21世紀までの展開を理解し、冷戦やアジア諸国の民主化と経済発展、アジア地域の国際秩序の形成などを、歴史学が明らかにした史実に従いつつ、統計やモデルを用いて構造的に考察する。	近現代のアジア太平洋の国際関係を理解する上で不可欠な重要事件について理解し、各国間の交渉過程と地域秩序の変容を踏まえた説明ができる。（知識・理解）
アジア太平洋の国際関係 II	国際学部 科目	専門	2	2・3	冷戦終結後のアジア太平洋地域の国際関係の特徴を、超大国となりつつある中国のこの地域への影響力に注目しつつ、APECや東アジア共同体、TPPなどの国際経済統合の動向や、朝鮮半島、南シナ海、北方領土などの国際紛争の要因を国際政治経済学的な観点から分析し、あわせて今後の日本のとるべき外交指針について考察する。	1. 今日のアジア太平洋地域の国際関係について、国際政治経済学の理論やモデルを用いながら、基本的な特徴を説明できる。（知識・理解） 2. アジア太平洋地域が抱える課題を見出し、その将来の展望を述べる。（思考・判断・表現）
比較文化論 II	国際学部 基礎科目	専門	2	1	ある特徴的な同一の文化的題材について、国・地域・人種・宗教などの相違によってどのように違った捉え方がなされるのか調査し、それらを比較検討することにより見えてくる文化の様相に考察を加える。また、文化の比較にはどのようなアプローチ方法や分析方法があるかを提示する。	・文化を比較するアプローチや分析方法が理解できる。（知識・理解） ・具体的な文化比較を行うことができる。（思考・判断・分析） ・適切な分析方法を使って文化比較のレポートを作成できる。（技能）
国際法 II	国際学部 科目	専門	2	2・3	国際法の各論部分について、学習する。分野としては、陸地の帰属、国際化地域、宇宙空間などのエリアに関する国際法規を理解する。また海洋に関する国際法規について知る。国際経済法や国際環境法の基礎的事項を学習する。	国家領域の取得に関する国際法原則について、歴史的変遷を踏まえて総合的に説明することができる。国際化地域、国際公域に適用される国際社会共通の利益について、国際社会の歴史と関連付けて説明することができる。海洋法分野については、それぞれの海域についての沿岸国の権利義務について、国連海洋法条約を解釈適用して、具体的事例についても説明することができる。
社会情報分析の基礎	国際学部 基礎科目	専門	2	1・2	世論の国際比較データによる国ごとの価値観や政治文化の違いの分析方法を理解し応用する。マスメディアの議題設定効果、争点注目サイクルなどの分析概念を理解し応用する。内外の人口動態データを比較し、その経済活動や政治への影響を考察する。以上の社会情報と関連する研究所や政府・国際機関やデータベースのデータをダウンロードし、散布図、ヒストグラム、一覧表など一目で分かる形に加工する、などの手法を理解し応用する。	1. 世論の国際比較データによる国ごとの価値観や政治文化の違いを十分に説明できる。（知識・理解） 2. マスメディアの議題設定効果、争点注目サイクルなどの分析概念を使いこなした説明ができる。（知識・理解） 3. 内外の人口動態データを比較し、その経済活動や政治への影響について、自分の考えを十分に説明できる。（思考・判断・表現） 4. 以上の社会情報と関連する研究所や政府・国際機関やデータベースのデータをダウンロードし、散布図、ヒストグラム、一覧表などを最低限盛り込んだ資料を、時間をかければ作成できる。（技能）
地域情報分析の基礎	国際学部 基礎科目	専門	2	1・2	この授業科目は、地誌学の包括的内容を教授する。地誌学とは地域の様々な事象を総合的に捉えて記述する地理学の一分野であり、地域を理解するための基礎的な学問である。そうした視座に立脚したうえで、地域論、空間論、景観論といった地域を地誌学的に説明するための基本的理論を講義する。さらに地域を分析するための様々な手法を教授する。	1. 地形図などの地図に記載された内容を正確に理解し、詳細に説明できる。（知識・理解） 2. 地域を地誌学的に説明するための基本的理論である地域論、空間論、景観論などを用いて、様々な地域を理論的かつ的確に説明できる。（知識・理解） 3. 統計、GISなどの専門的手法を用いて、地域を地図や文章で的確に表現できる（思考・判断・表現）。
映像文化論	国際学部 科目	専門	2	2・3	20世紀が始まるころに誕生した映画は、いまやもっとも重要な芸術形式のひとつにまで成長した。その「語り」の力は文学や美術と明らかに肩をならべるものになっているといっただろう。しかし映画は単に「表現」に注目するだけで理解できるわけではない。この科目では、(1)映画の表現技法（映画の言語）は人間の認識や他の芸術にどのような影響を与えたか、(2)映画産業は社会にどのような影響を与えたか、(3)映画とそれぞれの地域文化との関係はどのようなものか、以上の点を踏まえながら映画の社会史・文化史を講義する。	映像文化の発信者である制作者による講義を通して、制作の現場から撮影すること、映画制作の意味、映像表現の可能性等について考え、現代社会における映像文化の意義を理解する。受け身ではなく、作り手の側に立ってみることで、自らも積極的に映像文化を研究に取り入れて考えることができるようになる。
インターンシップ実習	国際学部 科目	関連	2	2・3	インターンシップとは大学生や大学院生が夏休みなどの休暇期間を利用して企業や官庁、NGO等の団体において無償で就業体験を積むことを指す。国際学部のインターンシップ実習は、 1. 希望企業・団体の選定 2. 希望受け入れ先との交渉（マッチング）、決定 3. マナー等に関する事前研修 4. 受け入れ先での実習 5. 実習に関する報告・単位認定の段階を踏んで行われ、インターンシップ委員会が認定可であると判断した場合は、2単位が与えられる。	企業・団体での業務を通して、社会活動を実体験し、自己を見つめなおすことにより、自分にたいする新たな視点を得ることができるようになる。（関心・意欲・態度）

科目名	科目区分	単位	学年	科目概要	到達目標（成績評価A）	単位修得目標（成績評価C）
日本の歴史Ⅰ	国際学部 科目 専門	2	2・3	古代から近世に至る日本を取り巻く国際・文化交流史を中心に講義する。東アジアを中心とした人とモノの移動に伴う政治・経済関係は、古代から近世にかけてどのように変動していったのか？をテーマに、国際・文化交流を担った人々の思想や、日本の社会・経済の状況と変化に注目していく。	・古代から近世に至る日本を取り巻く国際・文化交流史に関する基本的な事項について、十分に理解し説明できる。（知識・理解） ・古代から近世にかけての重要な出来事について歴史学の立場から十分に理解し説明できる。（知識・技能・表現）	古代から近世に至る、日本を取り巻く国際・文化交流史について、理解し、説明できる。重要な歴史上の出来事の詳細と背景を理解し、説明できる。（知識・理解・表現）
表象文化論Ⅰ（日本）	国際学部 科目 専門	2	2・3	日本の芸術は、この国だけで生まれ発展してきたものではなく、さまざまな外国文化の影響を受けながら、時間をかけて形づくられてきた。近世および近代の芸術を中心に、各時代にどのような外国文化の受容がおこなわれたのか、それがどのように取捨選択され、日本化されてきたのかを、日本美術史の流れのなかで考察していく。南蛮人によってもたらされたヨーロッパ文化、長い鎖国時代にも着実に浸透しつつけた異国のさまざまな文化、そして明治維新以降の急速な西歐化が日本の芸術にどのような変化をもたらしたか、その中で連続と受け継がれてきた日本美術の特質とは何かを考えていく。	日本の美術の特質や、時代的な変化、代表的な作品、国外の影響について理解することができる。	日本の美術の特質や、時代的な変化、代表的な作品、国外の影響について理解することができる。
日本の思想・宗教	国際学部 科目 専門	2	2・3	近代（幕末～昭和戦前・戦時期）の日本の思想・宗教について講義する。思想の担い手である人々が、時代状況（政治・経済・国際関係）と、どのように向き合ったのかを考察していく。	近代日本の思想・宗教に関する基本的な事項について、十分に理解し説明できる。（知識・理解・表現）	近代日本の思想・宗教に関する基本的な事項について、理解し説明できる。（知識・理解・表現）
日本の社会Ⅰ	国際学部 科目 専門	2	2・3	主に日本の近現代社会の発展を、政治・経済などとともに文化・教育の側面から考察する。文化・教育の発展の歴史を通して、「日本の社会」の歴史的発展を見ていく。またその場合、ジェンダー・〈女性〉の視点を重視する。	・日本の社会の成り立ちや歴史、またその特徴や性質等について十分に理解できる。（知識・理解） ・日本の社会について様々なテーマや問題点を考察できる。（思考・判断・分析） ・適切な分析方法を使って日本の社会についてのレポートを作成できる。（技能）	・日本の社会の成り立ちや歴史、その特徴や性質等についてある程度まで理解できる。（知識・理解） ・日本の社会について様々なテーマや問題点をある程度考察できる。（思考・判断・分析） ・分析方法を使って日本の社会についての、基本レベルのレポートを作成できる。（技能）
日本の社会Ⅱ	国際学部 科目 専門	2	2・3	「日本の社会」の歴史や現状を主に〈女性〉の側面から考察する。教育・就職・恋愛・結婚・趣味・娯楽・教養など幅広い領域にまたがるが、具体的事例やその表現作品などを通して問題点を追求していく。	・日本の社会や〈女性〉の現在に至るまでの歴史や状況が理解できる。（知識・理解） ・日本の社会について様々なテーマや問題点を考察できる。（思考・判断・分析） ・適切な分析方法を使って日本の社会についてのレポートを作成できる。（技能）	・日本の社会や〈女性〉の現在に至るまでの歴史や状況がある程度まで理解できる。（知識・理解） ・日本の社会について様々なテーマや問題点を基本レベルでは考察できる。（思考・判断・分析） ・分析方法を使った日本の社会についての、基本レベルのレポートを作成できる。（技能）
日本の政治経済	国際学部 科目 専門	2	2・3	日本の戦後史（占領期～高度経済成長～バブル経済崩壊期）の政治・経済・国際関係を中心に講義する。文献・映像資料を積極的に用い、現在と地続きの戦後史に関する理解を深めるとともに、現代社会がかかえる諸問題の原因と背景を考察する。	日本の戦後史に関する基本的な事項について、十分に理解し説明できる。（知識・理解・表現）	日本の戦後史に関する基本的な事項について、十分に理解し説明できる。（知識・理解・表現）
日本語学各論Ⅱ（音声・音韻）	国際学部 語等科目 外国	2	2・3	人間が言語音を作り出す際にどのような発音器官をはたらかせているか、言語音発生仕組みについて理解し、発音器官をどのように動かして、日本語の母音や子音が作り出されているかを確認する。また、IPA（国際音声記号）をもちいて日本語を表記し、他の言語の音声と日本語の音声の違いについても理解する。さらに、日本語の音韻的特徴（母音と子音がどのように組み合わせられて音節を構成しているか、拍という概念、促音や撥音、ガ行鼻濁音など）、アクセントやイントネーション、日本語音の地域差、日本語の音の歴史的な変遷についても理解する。	・言語音発生仕組みを十分に理解することができる。（知識・理解） ・国際音声記号（IPA）をもちいて日本語を表記し、他の言語の音声と対照させながら、日本語の発音の特徴を十分に説明することができる。（知識・理解）	・言語音発生の基本的な仕組みを理解することができる。（知識・理解） ・国際音声記号（IPA）をもちいて日本語を表記し、他の言語の音声と対照させながら、日本語の発音の基本的な特徴を説明することができる。（知識・理解）
日本語学各論Ⅲ（文法）	国際学部 語等科目 外国	2	3・4	日本語にはどのような文法規則があるか、具体的な例に基づいて理解する。さまざまな文法事項の中から日本語の特徴を考える際に重要であると思われる助詞のはたらきや文末表現について、具体的な用例を挙げながらその法則性を理解する。	日本語の特徴を、文法の側面（特に助詞のはたらきや文末表現）から具体例を挙げながら適切に説明することができる。（知識・理解）	日本語の特徴を、基本的な文法の側面（特に助詞のはたらきや文末表現）から説明することができる。（知識・理解）
中国の政治経済	国際学部 科目 専門	2	2・3	毛沢東は中華人民共和国の「建国の父」だが、「大躍進」政策や「文化大革命」によって、人々を苦しめたのも事実である。1970年代末から始まった、鄧小平の「改革開放」政策によって、中国はGDP世界第二位の経済大国に成長した。しかし、今日の中国社会はバラ色とはいえない。「先に豊かになれる者から豊かになれ」というスローガンによって富を得た人々と、取り残された人々との格差が広がってしまった。貧困層のあいだには「こんなことなら毛沢東時代に戻りたい」という悲鳴も上がり、中国人は、いままなお「毛沢東派」と「反毛沢東派」に分かれている。巨大経済圏構想「一帯一路」など最近の情勢にもふれながら、現代中国政治を理解するための基礎を学ぶ。	・中華人民共和国の歴史と重大事件について、十分に理解している。（知識・理解） ・中華人民共和国の指導者と政策について、十分に理解している。（知識・理解） ・中華人民共和国の政治・経済について、適切に説明することができる。（思考・判断・表現） ・中華人民共和国にかかえる諸問題について、十分な知識を有する（知識・理解）とともに、それらについて自分の見解を述べる（思考・判断・表現）。	・中華人民共和国の歴史と重大事件について、基本的に、理解している。（知識・理解） ・中華人民共和国の指導者と政策について、基本的に、理解している。（知識・理解） ・中華人民共和国の政治・経済について、自分なりに説明することができる。（思考・判断・表現） ・中華人民共和国にかかえる諸問題について、一定の知識を有する（知識・理解）とともに、それらについて自分の見解を述べる（思考・判断・表現）。
中国の文学	国際学部 科目 専門	2	2・3	詩が作られた社会背景・政治状況を理解したうえで、その折々の人々の感情（希望や悲しみ、怒りなど）を想像し、追体験する。そういう形で、詩の内容を少しでも生きたものとして捉えることを目的とする。神話時代から、戦国時代の最初の歌謡集、後漢から南朝時代の五言詩を経て、唐代の全盛期に至る中国の伝統詩（いわゆる漢詩）の名作を、時代の特色と合わせて鑑賞し、内容理解を深める。	1. 中国の詩を古代から中世にかけて概観したうえで、ほかの国と異なる中国の詩独自の奥深さや魅力を理解し、これを或る程度説明することができる（知識・理解） 2. 漢字文化について、関心を持ち、関連の文献を探ることができる（関心・意欲・態度）（情報収集）。	1. 中国の詩を古代から中世にかけて概観したうえで、ほかの国と異なる中国の詩独自の奥深さや魅力を理解している（知識・理解） 2. 漢字文化について、関心を持つことができる（関心・意欲・態度）
中国の思想・宗教	国際学部 科目 専門	2	2・3	中国文化のエッセンスとして、東アジア、さらにはヨーロッパにまで影響したのは『論語』と漢詩の名作です。両方とも、日本でも古くから愛読され、日本人の感情のあり方や倫理観に大きな影響を与えています。この授業では前者につき、それを斬新な視点で読みなおしたテキストを媒介として解説し、あわせて関連する中国文化のいろいろの問題について考え、理解を深めてゆきます。	1. 『論語』の読解を通じ、東アジアに今なお深い影響を与えている本書の内容の概略がわかり、その特色を説明できる（知識・理解）。 2. 『論語』の内容が現代日本人のものの見方や倫理観に大きく影響していることを実感し、そのことを自分のことばで説明できる（知識・理解）。 3. 関連の文献を探ることができる（情報収集）。	1. 『論語』の読解を通じ、東アジアに今なお深い影響を与えている本書の内容の概略がわかる（知識・理解）。 2. 『論語』の内容が現代日本人のものの見方や倫理観に大きく影響していることを実感できる（知識・理解）。 3. 関連の文献を探ることができる（情報収集）。
表象文化論Ⅱ（中国）	国際学部 科目 専門	2	2・3	中国の近現代の音楽を題材に取り上げながら、風土と音楽、宗教と音楽、言語と音楽について音楽学、民族音楽学、文化人類学、歴史学などの角度から分析・考察し、中国における西洋音楽の需要と音楽文化の発展を探る。本講義を通して中国文化をより深く理解するための手助けとなるようにしたい。	近現代中国における音楽文化について、授業内で提示されたさまざまな角度から考察し、その特色について理解し、一定程度説明することができる（知識・理解）。	近現代中国における音楽文化について、いくつかの角度から考察し、その特色について理解している（知識・理解）。

科目名	科目区分	単位	学年	科目概要	到達目標（成績評価A）	単位修得目標（成績評価C）
中国の社会 I	国際学部 専門科目	2	2・3	中国社会または中国政治の仕組みに関する基本知識を習得した上で、中華人民共和国成立後の変動を考察し、とりわけ改革開放後における社会の変容および社会階層の分化をテーマごとに学ぶ。	中国社会または政治制度に関する基本知識を身に付け、改革開放後における社会の変容および社会階層の分化を理解することができる。（知識・理解）	現代中国社会または中国政治の仕組みに関する基本知識を理解する。また経済発展が変えた現代社会の諸相から中国社会が普遍的に抱える問題を最低限に説明することができる。（知識・理解）
国際学入門Ⅱ	国際学部 基礎科目	2	1	国際学入門は、国際学部で学ぶことができる17の専攻分野の入口として位置付けられており、教員が輪講で授業を担当することによって、各専攻分野の学びを概観できるようになっている。この国際学入門Ⅱでは、コミュニケーション・スタディーズ・コースの専攻分野である「国際コミュニケーション」、「比較文化」、「表象文化」、「英語と文化」、「中国語と文化」、「フランス語と文化」、「ジェンダー」を学ぶ。	コミュニケーション・スタディーズ・コースの専攻分野について、中心となるテーマや研究領域、研究方法を十分に理解することができる。（知識・理解）	コミュニケーション・スタディーズ・コースの専攻分野について、中心となるテーマや研究領域、研究方法の基礎を理解することができる。（知識・理解）
世界の地誌Ⅱ（ヨーロッパ）	国際学部 基礎科目	2	1・2	ヨーロッパの全体像とそれを構成する個々の地域の地域性について、地誌学的に講義する。地誌学とは地域の様々な事象を総合的に捉えて記述する地理学の一分野であり、地域を理解するための基礎的な学問である。そうした視座に立脚したうえで、ヨーロッパを総合的に論じると同時に、個々の地域の地域差とその成立要因を解説する。	1. ヨーロッパの全体像を一つの文化地域としての確に説明できる。（知識・理解） 2. ヨーロッパ各地の多様性とそれが形成された背景を、理論的かつ的確に説明できる。（知識・理解） 3. 授業中の課題や事前・事後学修に積極的に取り組み、ヨーロッパの地誌を主体的かつ積極的に理解しようとする日常的に心掛けている。（関心・意欲・態度）。	1. ヨーロッパの全体像を一つの文化地域としてある程度説明できる。（知識・理解） 2. ヨーロッパ各地の多様性とそれが形成された背景を、ある程度説明できる。（知識・理解） 3. 授業中の課題や事前・事後学修に積極的に取り組み、ヨーロッパの地誌を理解しようと努めている。（関心・意欲・態度）。
ヨーロッパ地域論Ⅰ（イギリス）	国際学部 専門科目	2	2・3	イギリスはヨーロッパの一部でありながらも大陸のヨーロッパ諸国とは異なる意識をもつとともに、イングランド以外にスコットランド、ウェールズ、北アイルランドといった政治的、文化的に多様な地域から成り立っている。この講義では、こうしたイギリスの特徴を、歴史的な経緯をふまえて、政治的、社会的、文化的な観点から考える。	1. 現代イギリス社会の前提となる歴史的経緯について、対外関係や内部の多様性ととも理解し、具体的な例を挙げながら説明することができる。（知識・理解） 2. 1.で得られた理解をふまえ、日本との比較の視点から、具体的な事例を挙げて共通点と相違点を説明できるようになる。（思考・判断・表現）	1. 現代イギリス社会の前提となる歴史的経緯について、対外関係や内部の多様性ととも理解し、説明することができる。（知識・理解） 2. 1.で得られた理解をふまえ、日本との比較の視点から、共通点と相違点を説明できるようになる。（思考・判断・表現）
ヨーロッパ地域論Ⅱ（フランス）	国際学部 専門科目	2	2・3	フランスをおもなフィールドとして取り上げ、ヨーロッパ地域への理解をふかめる。現代のフランス社会の諸問題を取り上げ、フランス社会の特徴とは何であるか考える。「現代」というフランス社会の時代区分だが、1968年のいわゆる五月革命（l'Evenementdumai1968）以降の社会変動期以降を考えている。テーマとしては、外国人労働者問題や移民、深刻な失業問題の背景に潜む教育制度の問題、イスラーム、家族の変化、男女平等、パリティ制度などを取り上げる。	現代フランスの社会の基本的な成り立ちと諸問題を例を挙げて具体的に述べ、さらに自分の世界観を広げることができるようになる。（知識・理解）	現代フランスの社会の基本的な成り立ちと諸問題を最低限例を挙げて具体的に述べ、さらに自分の世界観を広げることができるようになる。（知識・理解）
ヨーロッパ地域論Ⅲ（ドイツ・中欧）	国際学部 専門科目	2	2・3	ドイツは地理的にヨーロッパの中心に位置するとともに、EUのなかでも政治的、経済的にも影響力の大きな国である。また、ドイツ語はドイツだけではなく、スイスやオーストリアなど周辺の国にも母語として使用されている言語である一方、現在では人口の20%が移民を背景とする出自を持っている。こうした言語、文化、政治、社会の重なりとズレに注目しつつ、ドイツの歴史と現在について解説する。	1. 現代ドイツの成り立ちについて、その特徴（連邦制、分断と統一、宗教、言語など）をふまえて具体的に説明することができる（知識・理解）。 2. 1.で得られた理解をふまえ、日本との比較の観点から、具体的な事例を挙げて共通点と相違点を説明できるようになる。（思考・判断・表現）	1. 現代ドイツの成り立ちについて、その特徴（連邦制、分断と統一、宗教、言語など）をふまえて説明することができる（知識・理解）。 2. 1.で得られた理解をふまえ、日本との比較の観点から、共通点と相違点を説明することができる。（思考・判断・表現）
ヨーロッパ地域論Ⅳ（地中海）	国際学部 専門科目	2	2・3	東地中海は古代から多くの文明の要衝としてさまざまな文化遺産を遺している。古代ギリシャ・ローマ時代に形成され、常にヨーロッパ文化の祖として尊重された古典古代の遺産とは何か、それはいかに継承されたのかを中世の東ローマ帝国の文化を通して学ぶ。中世の西ヨーロッパの世界にとって東ローマ世界は憧憬の対象であった。西ヨーロッパが東地中海から得たものは何か、またこの地域におけるローマ・カトリック、ギリシャ正教、イスラム教の3つの宗教のかかわりとその文化遺産について考える。アテネ、ローマ、コンスタンティノーブル、ベネチア、パレルモ等の都市を中心にそこに重層化された文化を読み解いていく。	現代イタリアの歴史や文化の変遷を、日本との比較から考察することができるようになる。	現代イタリアの歴史や文化の変遷を、日本との比較から考察することができるようになる。
英語圏の文学	国際学部 専門科目	2	2・3	ヨーロッパの英語圏、すなわちイギリスとアイルランドの文学を概観する。両国とも、自らが世界に誇れる文化として、まず「文学」を挙げると言われる。その文学の豊かさ、深さ、面白さを、一端でも実感できるように、実際の作品からの引用を多く使い、同時に文学史的要素を組み込んで、作品と時代思潮や社会背景との関係も解説していきたい。また、ジャンルの観点からも、詩、小説、戯曲、随筆等、半期授業に許される限り多岐に亘るよう配慮したい。今日多くの著名な文学作品が映画化されていることに鑑み、映像資料も適宜利用していく予定である。	イギリスとアイルランドの文学を対象とし、その多様性—豊かさ、深さ、面白さを実感することができる。（思考・判断・表現）作品と時代思潮や社会背景との関係を深く理解できるようになる。（知識・理解）	イギリスとアイルランドの文学を対象とし、その多様性—豊かさ、深さ、面白さを実感することができる。（思考・判断・表現）作品と時代思潮や社会背景との関係について最低限の知識を得ることができるようになる。（知識・理解）
ヨーロッパ大陸の文学	国際学部 専門科目	2	2・3	ヨーロッパ文化の中で、英語圏を除く他の言語圏（ドイツ語圏、あるいはフランス語・イタリア語・スペイン語などのラテン語系の言語圏）の文学を扱う。伝統ある文学の世界に視界が開けるように、翻訳や映像も併用しながら講義を進める。大陸の諸言語圏の文学作品の基本的な特徴を理解させることを主眼とするが、個々の文学作品を通じて時代思想や社会背景についても講義し、ヨーロッパ文化への理解を深める。	フランス語圏の文学を通して、ヨーロッパの歴史、社会、思想を知り、説明することができるようになる。（知識・理解）	フランス語圏の文学を通して、ヨーロッパの歴史、社会、思想を知り、最低限説明することができるようになる。（知識・理解）
ヨーロッパの歴史Ⅰ	国際学部 専門科目	2	2・3	この講義では、近代以前のヨーロッパの歴史を対象とする。キリスト教が広がっていった一方で、ユーラシアの他の地域のように巨大な統一帝国が形成されず、諸国がひしめき合う体制が続いたこと、そしてそのような分裂と統一の交差するなかで近世以降対外進出を進め、富を蓄積していくことになったこと、さらにこうした変化がヨーロッパ諸地域の社会のあり方に与えた影響など、現代ヨーロッパを理解するうえでも重要な論点について考察する。	近代以前のヨーロッパの歴史について、その特徴を正確に理解し、具体的な事例を基に説明することができる。（知識・理解）	近代以前のヨーロッパの歴史について、その特徴を理解し、説明することができる。（知識・理解）

科目名	科目区分	単位	学年	科目概要	到達目標（成績評価A）	単位修得目標（成績評価C）
コミュニケーション論Ⅶ（ヨーロッパ）	国際学部 専門科目	2	2・3	ヨーロッパ諸言語（イギリス英語、フランス語、ドイツ語、スペイン語など）とその背景となる文化との関わりについてそれぞれの特徴を理解する。さらに各地における言語政策、多言語主義教育、言語計画、言語帝国主義、言語拡散政策、言語純化主義、言語紛争などについて学習する。具体的にはヨーロッパの言語事情とEU言語政策、ベルギーとカタール、バスクの言語事情、ヨーロッパの地域言語とアルザス、ヨーロッパの多言語状況とイギリス、フランスの言語政策などを考察する。	・地域を単位としてヨーロッパの歴史と現在を考察することができる。（知識・理解） ・ヨーロッパをより重層的に理解するとともに、地域的多様性がヨーロッパというコミュニケーション空間においてどのような役割をはたしているかについて理解を深めることができる。（知識・理解）	・ヨーロッパの歴史と現在を考察することができる。（知識・理解） ・地域的多様性がヨーロッパというコミュニケーション空間においてどのような役割をはたしているかについて理解を深めることができる。（知識・理解）
ヨーロッパの社会Ⅰ	国際学部 専門科目	2	2・3	国境を越えた人口移動と、多文化社会の問題が関係付けられるようになったのは、古いことではない。人口移動、とくに国際移民の研究では、1960年代、1970年代のヨーロッパにおける外国人労働者の定着や、アメリカにおける中南米やアジア諸国からの移民の流入によって、多文化社会の視点から人口移動が論じられるようになった。また一つの社会の中に多数の文化が存在することを善しとする多文化主義が登場したのも1970年代以降のことである。ヨーロッパをフィールドとするこれらの現象を取り扱った基本的な研究を取り上げ、検討しながら、社会的な理解を深めたい。	多文化状況を経験しているフランス社会の統合の在り方を説明し、日本との比較から考え、関心を持つことができるようになる。	多文化状況を経験しているフランス社会の統合の在り方を最低限説明し、日本との比較から考え、関心を持つことができるようになる。
ヨーロッパの国際関係Ⅰ	国際学部 専門科目	2	2・3	国際関係史のなかでも、古典外交を成立させ、その後の国際社会の発展の基礎を作った意味で重要なヨーロッパ外交史の基礎知識を身につける。基本的にウィーン会議以降の時代を対象とし、史料研究に基づく歴史学の成果を用いながら分析する。特に、ヨーロッパ外交史上の主要事件について、各国の対応とヨーロッパ全体の構造変化を同時に論じる能力を習得する。	ヨーロッパ外交史の主要事件を歴史学の研究成果に従って、各国の対応とヨーロッパ全体の構造変化に触れつつ、総合的に説明できる。（知識・理解）	ヨーロッパ外交史の主要事件を歴史学の研究成果に従って基本的な事項を説明できる。（知識・理解）
ヨーロッパの社会Ⅱ	国際学部 専門科目	2	2・3	ヨーロッパは、そこに住む人々の社会的営為により生産された空間、いわゆる社会空間であるとみなすことができる。この授業では、社会空間という視点から、ヨーロッパ各地の都市や農村を説明する方法を教授する。社会空間を説明する理論として、地域論、空間論、景観論などの地理学的諸理論を採用する。	1. 地域論、空間論、景観論の専門的な用語を詳細に説明できる。（知識・理解） 2. 社会空間に関連した様々な専門的な用語を用いて、個々の都市や農村の特徴を詳細に説明できる。（知識・理解） 3. 授業中の課題や事前・事後学修に積極的に取り組み、ヨーロッパの社会空間を主体的かつ積極的に理解しようとして心掛けている。（関心・意欲・態度）。	1. 地域論、空間論、景観論の用語を説明できる。（知識・理解） 2. 社会空間に関連した用語を用いて、個々の都市や農村の特徴を説明できる。（知識・理解） 3. 授業中の課題や事前・事後学修に積極的に取り組み、ヨーロッパの社会空間を理解しようと努めている。（関心・意欲・態度）。
表象文化論Ⅲ（ヨーロッパⅠ）	国際学部 専門科目	2	2・3	美術作品は、直接我々の感性に働きかけてくる鑑賞の対象であると同時に、各時代の人間や社会を映し出す鏡でもある。そこに読みとれるものは信仰、死生観、自然観、生活習慣などさまざまな面に及び、美術はまさに文化の集大成であるといえよう。本講義ではヨーロッパ文化の精神的な土台をなすキリスト教美術の成立からその発展過程を見る。古代のギリシャ・ローマ神話を描いた世界からキリスト教独特の表現がどのように作られるのか、キリスト教の教義における言葉とその理念の視覚化における原理をさぐる。時代的にはキリスト教美術が主体であった古代末期からバロック時代までを対象とする。	ヨーロッパ文化を芸術作品を通して学ぶ。ヨーロッパにどのような芸術作品が生みだされてきたか、それをどのように見て考えたらあたらなヨーロッパ文化像が見えてくるのか。芸術作品を実際に見ることの大切さ、それを手がかりにいかにか考えるか、さまざまな角度から芸術作品を考える方法を学び、自分の目で見て考える習慣を身につけることができるようになる。	ヨーロッパ文化を芸術作品を通して学ぶ。ヨーロッパにどのような芸術作品が生みだされてきたか、それをどのように見て考えたらあたらなヨーロッパ文化像が見えてくるのか。芸術作品を実際に見ることの大切さ、それを手がかりにいかにか考えるか、さまざまな角度から芸術作品を考える方法を学び、自分の目で見て考える習慣を身につけることができるようになる。
表象文化論Ⅳ（ヨーロッパⅡ）	国際学部 専門科目	2	2・3	19世紀のロマン主義以降20世紀の初頭までの美術作品を通して個々の内面化していくヨーロッパの芸術家たちの精神の奇跡を辿る。アカデミックな表現と訣別して独自の表現を生み出そうとした活動を、ロンドン、パリ、ウィーン、ミュンヘン、ベルリンなどを中心としてみていく。19世紀末から兩大戦間の時代までの美術家、建築、美術作品を詳細に検討することによってそこから個々の芸術家の内面化する精神的世界、それをとりまく社会を考察する。この時代におけるヨーロッパからの外に向ける視線（オリエンタリズム、ジャポニズム）や内向きな視線が後押しをするナショナリズムなど、政治的な問題も含み個々の地域を越えた同時代性を捉えつつ多角的に考察を進める。	ヨーロッパの文化を聖堂建築から考える。歴史的な事実とその中に込められた時代精神をどのように読むかについてその方法と実践ができるようになる。	ヨーロッパの文化を聖堂建築から考える。歴史的な事実とその中に込められた時代精神をどのように読むかについてその方法と実践ができるようになる。
ヨーロッパ文化論Ⅺ（比較文化）	国際学部 専門科目	2	3・4	日仏文化について、芸術の世界を通じて比較考察する。特に両国間の文化的影響に注目する。1—ジャポニズム。オルセー美術館の印象派コレクションと日本の浮世絵の関係を紹介する。2—藤田嗣治とPaul Jacouletの比較。パリで活躍した大勢の日本人画家の中から藤田嗣治（Leonard Fujita）を紹介する。1886年に東京に生まれた藤田は西洋画を学んだ後1913年にパリへ渡り、独自のスタイルを生み出した。1968年に、亡くなる前に洗礼を受け、フランス国籍も獲得した。一方、Paul Jacoulet（ポール・ジャクレ） [1896-1960] は幼い頃に親に連れられて来日し、日本で活躍したフランス人画家である。版画の技術は1907年から学び、肖像画家として愛好された。藤田の生涯、各時期の作品、ジャクレの独特の世界を紹介し、両者の比較を行う。3—日仏色彩感覚の比較。Chanelの赤と日本の赤を例に取り上げ、フランスと日本の色彩感覚について考える。	日仏文化交流について、絵画を中心とする美術の分野を通して理解できるようになる。	日仏文化交流について、絵画を中心とする美術の分野を通して理解できるようになる。
国際学入門Ⅲ	国際学部 基礎科目	2	1	国際学入門は、国際学部で学ぶことができる17の専攻分野の入口として位置付けられており、教員が輪講で授業を担当することによって、各専攻分野の学びが概観できるようになっている。この国際入門Ⅲでは、グローバル・スタディーズ・コースの専攻分野である「国際関係」、「国際法」、「国際経済・ビジネス」、「国際協力・国際公共政策」、「グローバルイノベーション」を学ぶ。	グローバル・スタディーズ・コースの専攻分野について、中心となるテーマや研究領域、研究方法を十分に理解することができる。（知識・理解）	グローバル・スタディーズ・コースの専攻分野について、中心となるテーマや研究領域、研究方法の基礎を理解することができる。（知識・理解）

科目名	科目区分	単位	学年	科目概要	到達目標（成績評価A）	単位修得目標（成績評価C）
アメリカの思想・宗教	国際学部 専門科目	2	2・3	今日アメリカについてのニュースを見ると、政治経済や外交問題だけでなく、移民問題や人種暴動、同性婚など日本ではあまり話題とされない問題についての報道が目につく。そのような事柄が社会問題となる背景には、アメリカ特有の歴史的経緯に加え、あるべき社会の姿をめぐるアメリカ人同士の考え方や意見の対立がある。アメリカの人々は国家観や経済観、人種、性、道徳など、さまざまな問題をめぐって「保守」と「リベラル」に分かれて対立していると言われる。こうした対立は「文化戦争」(culture war)と呼ばれ、アメリカの社会と政治を大きく揺さぶっている。この授業では、アメリカ合衆国でこうした対立がなぜ生じ、どのような議論がなされているのか、①政府の役割、②宗教、③移民、④人種、⑤ジェンダー・セクシュアリティの5点に着目して、今日のアメリカ社会が抱える問題についての歴史的経緯と議論の基本的枠組みを学ぶ。	・アメリカという国を成り立たせている思想的前提や歴史的経緯を踏まえた上で、現在の社会的状況や議論を理解することができるようになる。（知識・理解） ・アメリカ社会や政治についてのニュースや論説を読んで、その内容と歴史的・社会的背景が理解できるようになる。（知識・理解） ・アメリカの議論を学ぶことで、日本の類似の社会問題との比較ができるようになる。（思考・判断・表現）	・アメリカという国を成り立たせている思想的前提や歴史的経緯を踏まえた上で、現在の社会的状況や議論を最低限理解することができるようになる。（知識・理解） ・アメリカ社会や政治についてのニュースや論説を読んで、その内容と歴史的・社会的背景が最低限理解できるようになる。（知識・理解） ・アメリカの議論を学ぶことで、日本の類似の社会問題との比較が最低限できるようになる。（思考・判断・表現）
世界の地誌Ⅲ（アメリカ）	国際学部 専門基礎科目	2	1・2	アメリカの全体像とそれを構成する個々の地域の地域性について、地誌学的に講義する。地誌学とは地域の様々な事象を総合的に捉えて記述する地理学の一分野であり、地域を理解するための基礎的な学問である。そうした視座に立脚したうえで、アメリカを総合的に論じると同時に、個々の地域の地域差とその成立要因を解説する。	1. アメリカの全体像を一つの文化地域としての確に説明できる。（知識・理解） 2. アメリカ各地の多様性とそれが形成された背景を、理論的かつ的確に説明できる。（知識・理解） 3. 授業中の課題や事前・事後学修に積極的に取り組み、アメリカの地誌を主体的かつ積極的に理解しようと日常的に心掛けている。（関心・意欲・態度）。	1. アメリカの全体像を一つの文化地域としてある程度説明できる。（知識・理解） 2. アメリカ各地の多様性とそれが形成された背景を、ある程度説明できる。（知識・理解） 3. 授業中の課題や事前・事後学修に取り組み、アメリカの地誌を理解しようと努めている。（関心・意欲・態度）。
アメリカの歴史Ⅰ	国際学部 専門科目	2	2・3	現代世界におけるアメリカ合衆国の今日なお圧倒的な影響力にもかかわらず、一般にアメリカの過去や歴史についての関心は薄い。「アメリカには歴史がほとんどない」といった声もよく聞かれる。さらには、研究者たちの間ですら、「アメリカの世紀」と呼ばれた20世紀以降はともかく、その世界史的役割が真剣に考察されることも少ない。しかし、1492年のコロンブスによる「発見」以来、500年に及ぶ歴史を通じて、アメリカは近代世界が姿を現わす過程で無視できない役割を果たしてきた。本講義は、アメリカという地域が世界の様々な地域とどのような関係を持ちながら形成されてきたのか、そして世界にどのような影響を及ぼしたのか、という観点から、アメリカ史の展開を世界史のなかに位置づけながら、その流れを理解することを目的とする。とりわけ、国際関係や世界経済との関わりとともに、具体的なモノやイメージを通じた文化の相互作用という観点からアメリカ史を学ぶ。	・現在のアメリカを形づくった歴史的な過去を長期的なタイムスパンの中で理解できるようになる。（知識・理解） ・イメージや映像、映画などの利用を通じてアメリカ史の具体的なイメージを掴み、解説できるようになる。（思考・判断・表現）	・現在のアメリカを形づくった歴史的な過去を長期的なタイムスパンの中で最低限理解できるようになる。（知識・理解） ・イメージや映像、映画などの利用を通じてアメリカ史の具体的なイメージを最低限掴み、解説できるようになる。（思考・判断・表現）
アメリカの歴史Ⅱ	国際学部 専門科目	2	2・3	前期のアメリカの歴史Ⅰに引き続き、本講義では19世紀末から今日までのアメリカ合衆国の歴史を学ぶ。アメリカ社会は19世紀末から20世紀初頭の世紀転換期に大きな社会変動を経験し、20世紀を通じて現代世界を特徴付ける多くの現象や問題を生み出した。摩天楼を擁する大都市の出現、移民の流入、女性の社会進出、消費とライフスタイルの変化、経済格差や人種問題といった諸現象は、アメリカに限られない今日の世界が直面する問題である。また、この時期に合衆国は政治・経済・文化のあらゆる面で国際社会に影響を及ぼす覇権国家となる。第二次大戦以降の日米関係や今日の映画やドラマ、音楽、ファッション等に代表されるアメリカ文化の影響力は、こうした長期的なタイムスパンに立って始めてその意味を理解することができる。ビジュアル・イメージや映像も利用しながら、現代アメリカ社会が立ち現れ、世界的影響力を行使するようになる過程を辿っていく。	・20世紀以降のアメリカ社会の展開を長期的なタイムスパンの中で理解できるようになる。（知識・理解） ・イメージや映像、映画などの利用を通じてアメリカ史の具体的なイメージを掴み、解説できるようになる。（思考・判断・表現）	・20世紀以降のアメリカ社会の展開を長期的なタイムスパンの中で最低限理解できるようになる。（知識・理解） ・イメージや映像、映画などの利用を通じてアメリカ史の具体的なイメージを最低限掴み、解説できるようになる。（思考・判断・表現）
国際基礎演習Ⅰ	国際学部 専門科目	2	2	専門分野の入門的な文献、資料の講義を行い、専門研究の基礎を固める。専攻分野を視野に入れた、基本的知識を習得するための文献購読や時事的資料の収集・購読をゼミナール形式で行う。文献を正確に読み、そこから得た知識を整理し、問題意識をもって考察する。最終的には具体的な資料をもとに小論文等を執筆し、統括する。	・専攻分野に関連した、入門的な文献や資料の講義を行い、専門分野の基礎的知識を十分に習得することができる。（知識・理解） ・資料の読解力を修得し、専門研究の基礎を十分に固めることができるようになる。（思考・判断・表現）	・専攻分野に関連した、入門的な文献や資料の講義を行い、専門分野の最低限の基礎的知識を習得することができる。（知識・理解） ・資料の読解力を修得し、専門研究の最低限の基礎を固めることができるようになる。（思考・判断・表現）
国際基礎演習Ⅱ	国際学部 専門科目	2	2	専門分野の入門的な文献、資料の講義を行い、専攻プログラムの視野を広げ、専門研究の基礎を固める。専門分野の基礎的知識を習得するための文献購読や時事的資料の収集・購読をゼミナール形式で行う。文献を正確に読み、そこから得た知識を整理し、問題意識をもって考察する。最終的に具体的な資料をもとに小論文等を執筆し、総括する。	・「国際基礎演習Ⅰ」で学んだことを踏まえ、専攻分野に関連した専門分野の基礎的知識を十分に習得することができる。（知識・理解） ・資料の読解力を修得し、専門研究の基礎を十分に固めることができるようになる。（思考・判断・表現）	・「国際基礎演習Ⅰ」で学んだことを踏まえ、専攻分野に関連した専門分野の最低限の基礎的知識を習得することができる。（知識・理解） ・資料の読解力を修得し、専門研究の最低限の基礎を固めることができるようになる。（思考・判断・表現）
英語中級ⅠA	国際学部 外国語等科目	1	1	多様な状況で英語の聞き取り能力を向上させることを目的とする。英語によるコミュニケーションが成り立つには、自分の考え・意見を表現する力と共に、相手の言うことを聞き取る能力が必要である。この英語の聞き取りには、慣れが大切であるので、授業ではネイティブ・スピーカーの録音テープをたくさん聞き、ビデオも用いて、発音・イントネーションのみならず、語彙・慣用表現に関する能力を向上させる。さらに、相手の文化的背景についても理解する。	・コミュニケーションと異文化理解の手段としての英語の中級運用能力を養うことができる。（技能） ・特に英語を聞き読み取る能力を向上させることができる。（技能）	・英語の中級運用能力を養うことができる。（技能） ・英語を聞き読み取る能力をある程度、向上させることができる。（技能）
英語中級ⅠB	国際学部 外国語等科目	1	1	中級ⅠAの履修を踏まえて、多様な状況で英語の聞き取り能力をさらに向上させることを目的とする。英語によるコミュニケーションが成り立つには、自分の考え・意見を表現する力と共に、相手の言うことを聞き取る能力が必要である。この英語の聞き取りには、慣れが大切であるので、授業ではネイティブ・スピーカーの録音テープをたくさん聞き、ビデオも用いて、用いて、発音・イントネーションのみならず、語彙・慣用表現に関する能力を向上させる。さらに、相手の文化的背景についても理解する。	・コミュニケーションと異文化理解の手段としての英語の中級運用能力を養うことができる。（技能） ・特に英語を聞き読み取る能力を向上させることができる。（技能）	・英語の中級運用能力を養うことができる。（技能） ・英語を聞き読み取る能力をある程度、向上させることができる。（技能）

科目名	科目区分	単位	学年	科目概要	到達目標（成績評価A）	単位修得目標（成績評価C）
英語中級 II A	国際学部 外国語等科目	1	1	In this course you will learn some of the basic skills in English writing, including how to get ideas, how to organize your ideas into a paragraph, and how to edit your writing. This course should be taken before Eigo Chukyu IIB.	Students will be able to write a cohesive, well-organized paragraph in English with fluency and accuracy. More advanced students will also be able to write successful short essays	Students will improve their ability to write a cohesive, well-organized paragraph in English with fluency and accuracy.
英語中級 II B	国際学部 外国語等科目	1	1	In this course you will learn some of the basic skills in English writing, including how to get ideas, how to organize your ideas into a paragraph, and how to edit your writing. This course should be taken after Eigo Chukyu IIA.	Students will be able to write a cohesive, well-organized paragraph in English with fluency and accuracy. More advanced students will also be able to write successful short essays	Students will improve their ability to write a cohesive, well-organized paragraph in English with fluency and accuracy.
英語上級 I A	国際学部 外国語等科目	1	2	In this course you will explore various themes while improving your fluency and accuracy in spoken English. Activities will include extended listening, conversation and discussion. This course should be taken before Eigo Jokyū IB.	Students will be able to speak fluently and accurately in English on a variety of topics	Students will improve their ability to speak fluently and accurately in English on a variety of topics.
英語上級 I B	国際学部 外国語等科目	1	2	In this course you will explore various themes while improving your fluency and accuracy in spoken English. Activities will include extended listening, conversation and discussion. This course should be taken after Eigo Jokyū IA.	Students will be able to speak fluently and accurately in English on a variety of topics	Students will improve their ability to speak fluently and accurately in English on a variety of topics.
英語上級 II A	国際学部 外国語等科目	1	2	In this class you will learn how to write short, well-constructed essays in English, and improve your grammar and vocabulary skills. This course should be taken before Jokyū IIB.	Students will be able to write a successful expository essay in English, with an introduction, a body and a conclusion, and a well-supported thesis.	Students will learn how to write an expository essay in English, with an introduction, a body and a conclusion, and a well-supported thesis.
英語上級 II B	国際学部 外国語等科目	1	2	In this class you will learn how to write short, well-constructed essays in English, and improve your grammar and vocabulary skills. This course should be taken after Eigo Jokyū IIA.	Students will be able to write a successful expository essay in English, with an introduction, a body and a conclusion, and a well-supported thesis.	Students will learn how to write an expository essay in English, with an introduction, a body and a conclusion, and a well-supported thesis.
英語上級 III A	国際学部 外国語等科目	1	2	英文の要旨や大意を正確に把握できるように英語の読解力を養成する授業である。対象は、2年生で各文化圏や国際社会の様々な問題について書かれた英文を多く読み、速読ができるように体系的な読解の練習を行う。また、英文全体の論理的展開に着目しながら内容を要約し、それについての解釈や意見を発表することで、語彙力や表現力の向上をはかる。異なる文化や社会を理解する目を養い、国際的な視野を広げることも目指したい。	徹底した英文読解訓練を通して、英語運用力、とりわけリーディングにおける上級能力を養うことができる。（技能）	徹底した英文読解訓練を通して、英語運用力、とりわけリーディングにおける能力を最低限身につけることができる。（技能）
英語上級 III B	国際学部 外国語等科目	1	2	上級III Aの履修を踏まえて、英文の要旨や大意をさらに正確に把握できるように英語の読解力を養成する授業である。対象は、2年生で各文化圏や国際社会の様々な問題について書かれた英文を多く読み、速読ができるように体系的な読解の練習を行う。また、英文全体の論理的展開に着目しながら内容を要約し、それについての解釈や意見を発表することで、語彙力や表現力の向上をはかる。異なる文化や社会を理解する目を養い、国際的な視野を広げることも目指したい。	徹底した英文読解訓練を通して、英語運用力、とりわけリーディングにおける上級能力を養うことができる。（技能）	徹底した英文読解訓練を通して、英語運用力、とりわけリーディングにおける基礎的能力を養うことができる。（技能）
資格英語 I (TOEIC)	国際学部 外国語等科目	1	2・3	TOEICテストの問題形式に即したテキストを用いて、実践的コミュニケーション能力の向上を目的とする。TOEICの各パートに頻出する出題パターンを解説しながら、実践に役立つ問題演習を中心に進める。またTOEICに頻出する種々のトピックからの語彙力・役に立つ表現力などをも増強させる。段階的にTOEICの問題傾向を把握し実践力をつけていくために、毎回小テストを行う予定である。	TOEICスコア400点以上を目指し、リスニングとリーディングの実践的な練習問題に取り組み、英語の運用能力を向上させることができる。（技能）	TOEICスコア400点以上を目指し、リスニングとリーディングの実践的な練習問題に取り組み、英語の最低限の運用能力を養うことができる。（技能）
資格英語 II (TOEIC)	国際学部 外国語等科目	1	2・3	TOEICテストの問題形式に即したテキストを用いて、実践的コミュニケーション能力の向上を目的とする。TOEICの各パートに頻出する出題パターンを解説しながら、実践に役立つ問題演習を中心に進める。またTOEICに頻出する種々のトピックからの語彙力・役に立つ表現力などをも増強させる。段階的にTOEICの問題傾向を把握し実践力をつけていくために、毎回小テストを行う予定である。	TOEICスコア500点以上を目指し、リスニングとリーディングの実践的な練習問題に取り組み、英語の運用能力を向上させることができる。（技能）	TOEICスコア500点以上を目指し、リスニングとリーディングの実践的な練習問題に取り組み、英語の運用能力を最低限身につけることができる。
資格英語 III (TOEIC)	国際学部 外国語等科目	1	2・3	TOEIC (Test of English for International Communication) は企業や各種機関で英語力を数値で測る方法として使われている。その需要はますます増えている。そのニーズに応える授業として、スコアを上げるための基礎力と応用力の向上を目指す。そのためにリスニングとリーディングの練習問題と取り組みながら、出題形式に慣れ、弱点を集中的に改善することで目標とするスコア達成を目指す。	TOEICスコア600点以上を目指し、リスニングとリーディングの実践的な練習問題に取り組み英語の総合的な運用能力を向上させることができる。（技能）	TOEICスコア600点以上を目指し、リスニングとリーディングの実践的な練習問題に取り組み英語の運用能力を最低限身につけることができる。（技能）
資格英語 IV (TOEFL)	国際学部 外国語等科目	1	2・3	TOEFL (Test of English as a Foreign Language) は英語の講義が理解できるか、レポートなどが書けるか、ディスカッションに参加して質疑応答ができるか、意見が述べられるかを数値で測る方法として使われている。「読む、聞く、話す、書く」の4要素が組み込まれた練習問題を活用して、出題の構成、形式、内容を理解し、実践に対処できることを目指す。	TOEFLの中級を目指し、リスニングとリーディングの実践的な練習問題に取り組み英語の運用能力を向上させることができる。（技能）	TOEFLの中級を目指し、リスニングとリーディングの実践的な練習問題に取り組み英語の運用能力を最低限身につけることができる。（技能）
時事英語 I (ジャーナル)	国際学部 外国語等科目	1	2・3	新聞や雑誌の政治、社会、文化面から時の話題となっている記事を選び、読む。精読、速読を組み合わせながら、構文、文体、語法に慣れ、内容を正確に理解することを目指す。併せて時事問題を通じてグローバルな視点で現代の情勢と異文化を理解できるようにする。	英字新聞・雑誌、オンラインニュースをはじめとする英文ジャーナルを読みこなすための基本を修得し、時事関連の記事を読みこなすことができるようになる。（技能）	英字新聞・雑誌、オンラインニュースをはじめとする英文ジャーナルを読みこなすための基本を修得し、時事関連の記事を最低限読みこなすことができるようになる。（技能）

科目名	科目区分	単位	学年	科目概要	到達目標（成績評価A）	単位修得目標（成績評価C）
時事英語Ⅱ (メディア)	国際学部 外国語等科目	1	2・3	大学の研究でも職業などでも英語の4技能が必要とされ、また国内・国際的情勢をも把握しなければならない。この授業では、最近の時事を扱った news/topicsに関する言語知識をまなび背景的情報などを考察することを目標とする。様々な時事に関する米ABC、CNN、world newsなどの教材・資料・ビデオ・CDを用いて、その構成・論理的展開・表現方法・社会文化的背景などについて学ぶ。	最新の時事問題・英語ニュース等の教材を用いて学ぶことによって、時事関連の英語が聞き取ることができるようになる。(技能)	最新の時事問題・英語ニュース等の教材を用いて学ぶことによって、時事関連の英語を最低限聞き取ることができるようになる。(技能)
英語特別演習Ⅰ (プレゼンテーション・ディスカッション)	国際学部 外国語等科目	1	3・4	Students will prepare for and make several short presentations in English. They will also practice English language discussion skills. The topics covered in the presentations and discussions will be varied and students will be encouraged to follow and research their own thematic interest areas. They will have opportunities to exchange information and opinions, develop their reading and listening skills and practice speaking in an academic environment.	By the end of this course, students will be able to: 1. gain skills to make short presentations in English. (技能) 2. develop general discussion skills in English. (技能) 3. do a research on their own thematic interest areas. (技能)	By the end of this course, students will be able to: 1. become familiar with making short presentations in English. (技能) 2. develop basic discussion skills in English. (技能) 3. do a research on their own thematic interest areas. (技能)
英語特別演習Ⅱ (アカデミック・リーディング)	国際学部 外国語等科目	1	3・4	学術的なテーマに関する様々なスタイルの英文を、精読と多読を併用しながら読み、その内容を正確かつ迅速に理解する能力を身につける。そのために、適宜、文法、構文、表現の理解度を確認する他、語彙力の拡大を図る。授業は演習形式で行い、英文内容に関する報告とそれに基づくクラスでの討論を中心に進める。英文から得られた知識、また、それを踏まえて自分自身で考えたことや、新たに調査したことを日本語・英語で表現する能力を養う。	1. 学術的なテーマに関する英文を正確かつ迅速に読み、その内容を説明する能力を身につけることができる。(技能) 2. 英文から得られた知識をもとに、自分自身で発展的な議論につなげたり、新たな調査・検討を加えることができる。(思考・判断・表現) 3. 自分自身で考えたことや調査・検討した内容を、口頭発表やライティングを通じて日本語と英語で表現することができる。(思考・判断・表現)	1. 学術的なテーマに関する英文を正確かつ迅速に読むために必要な文法、構文、表現、語彙を知識として定着させることができる。(知識・理解) 2. 英文から得られた知識をもとに、自分自身で発展的な議論につなげることができる。(思考・判断・表現) 3. 自分自身で発展的に考えたことを、口頭発表やライティングを通じて日本語と英語で表現することができる。(思考・判断・表現)
英語特別演習Ⅲ (アカデミック・リーディング)	国際学部 外国語等科目	1	3・4	学術的なテーマに関する様々なスタイルの英文を、精読と多読を併用しながら読み、その内容を正確かつ迅速に理解する能力を身につける。そのために、適宜、文法、構文、表現の理解度を確認する他、語彙力の拡大を図る。授業は演習形式で行い、英文内容に関する報告とそれに基づくクラスでの討論を中心に進める。英文から得られた知識、また、それを踏まえて自分自身で考えたことや、新たに調査したことを日本語・英語で表現する能力を養う。	1. 学術的なテーマに関する英文を正確かつ迅速に読み、その内容を説明する能力を身につけることができる。(技能) 2. 英文から得られた知識をもとに、自分自身で発展的な議論につなげたり、新たな調査・検討を加えることができる。(思考・判断・表現) 3. 自分自身で考えたことや調査・検討した内容を、口頭発表やライティングを通じて日本語と英語で表現することができる。(思考・判断・表現)	1. 学術的なテーマに関する英文を正確かつ迅速に読むために必要な文法、構文、表現、語彙を知識として定着させることができる。(知識・理解) 2. 英文から得られた知識をもとに、自分自身で発展的な議論につなげることができる。(思考・判断・表現) 3. 自分自身で発展的に考えたことを、口頭発表やライティングを通じて日本語と英語で表現することができる。(思考・判断・表現)
英語特別演習Ⅳ (アカデミック・ライティング) A	国際学部 外国語等科目	1	3・4	In this course you will practice writing academic essays in English. The course is demanding and you will have a lot of written work to do outside of class. You should take this course before taking Academic Writing B. Students who are interested in writing their graduation theses in English should take this course and Academic Writing B in their third year.	To learn how to write academic essays and a research paper with documentation	
英語特別演習Ⅴ (アカデミック・ライティング) B	国際学部 外国語等科目	1	3・4	In this course you will learn how to write a research paper with documentation. The course is demanding and you will have a lot of written work to do outside of class. Students who take this course should have taken Academic Writing A first. Students who are interested in writing their graduation theses in English should take this course and Academic Writing A in their third year.	To improve your speaking, listening, reading and writing skills as you study a particular academic subject.	
English Seminar	国際学部 外国語等科目	1	3・4	English Seminar is a content-based course in which you will improve your English ability as you study a particular academic topic. You will have extended opportunities to listen, speak, read and write in English that is academically appropriate in terms of both content and language in increasingly complex ways. The course is quite demanding.	Students will improve their English language speaking, listening, reading and writing skills as they study a particular academic subject.	Students will attempt to improve their English language speaking, listening, reading and writing skills as they study a particular academic subject.
フランス語初級A	国際学部 外国語等科目	1	1・2	この授業は教養科目として開講されている基礎フランス語(入門・表現)とは別に、フランス語を重点的に学習しようとする学生に対して提供される。フランス語に親しみながら、基礎的な発音の練習、リスニングの練習を行い、初歩的な会話を学ぶ。	基礎的な発音を聞き取り、自ら発音できるようになる。初歩的な会話をを行う。	基礎的な発音を最低限聞き取り、自ら発音できるようになる。初歩的な会話を最低限行う。
フランス語初級B	国際学部 外国語等科目	1	1・2	この授業は教養科目として開講されている基礎フランス語(入門・表現)とは別にフランス語を重点的に学習しようとする学生に対して提供される。Aの内容を踏まえて、初歩的な会話と書き言葉を学ぶ。	日常的な事柄についての会話、基礎的な発音を行い、初歩的な文法を運用する。仏検4級程度の内容を身につける。	日常的な事柄についての会話、基礎的な発音を最低限行い、初歩的な文法を最低限運用する。
フランス語中級Ⅰ(文法)A	国際学部 外国語等科目	1	2	主に初級文法の事項を確認しながら、フランス語の運用能力の向上を目指す。基礎事項の復習・整理から始め、1年次で学んだ文法事項をさらに深めてゆき、中級の文法に進んでいく。	仏検3級レベルの初級文法を使って、フランス語を運用する。	仏検3級レベルの初級文法を使って、最低限フランス語の意味を説明することができる。
フランス語中級Ⅰ(文法)B	国際学部 外国語等科目	1	2	Aの内容を踏まえて、初級文法の事項を確認しながら、フランス語の運用能力の向上を目指す。1年次で学んだ文法事項をさらに深めてゆき、中級の文法へ進んでゆく。	仏検3級レベルのフランス語の運用能力を身につける。	仏検3級レベルのフランス語の運用能力を最低限身につける。
フランス語中級Ⅱ(講読)A	国際学部 外国語等科目	1	2	ある程度まとまった量のフランス文が読める読解力・文法力を養成する。日常的に使われる表現、ボキャブラリーを増やし、簡単な文による長文の内容を理解できること、また基本的語句を正しく理解することをめざす。	仏検3級レベルの文章の読解をする。	仏検3級レベルの文章の最低限の読解をする。

科目名	科目区分	単位	学年	科目概要	到達目標（成績評価A）	単位修得目標（成績評価C）
フランス語中級Ⅱ（講読）B	国際学部 外国語等科目	1	2	Aの内容を踏まえて、ある程度まとまった量の文章が読める読解力・文法力を養成する。児童読み物などから始め、小説、随筆、新聞・雑誌の記事などさまざまなジャンルの文章を段階を追って進んでゆく。	仏検3級レベルの読解を行う。	仏検3級レベルの最低限の読解を行う。
フランス語中級Ⅲ（会話）A	国際学部 外国語等科目	1	2	初級レベルでの学習内容をもとに、中級レベルの会話を学ぶ。日常的なボキャブラリーを増やし、会話に必要なリスニング力も向上させる。	仏検3級レベルの会話を行う。	仏検3級レベルの最低限の会話を行う。
フランス語中級Ⅲ（会話）B	国際学部 外国語等科目	1	2	Aの内容を踏まえて、中級レベルの会話を学ぶ。ボキャブラリーを増やし、会話に必要なリスニング力も向上させる。日常のさまざまな場面に応じて、自分の意思をはっきりと表現できるような、ある程度まとまった内容を話す練習を行う。	左記の内容の仏検3級レベルの会話を行う。	仏検3級レベルの最低限の会話を行う。
フランス語特別演習Ⅴ（上級講読）	国際学部 外国語等科目	1	3・4	中級レベルでの学習をもとに上級レベルの読解力を養う。フランスの文学作品をテキストに講読を行う。	仏検準2級レベルの読解力を目指す。	
フランス語特別演習Ⅵ（上級講読）	国際学部 外国語等科目	1	3・4	Vの内容を踏まえて、上級レベルの読解力を養う。フランスの文学作品をテキストに講読を行う。熟読しながら、文学作品を、味わえるような、文法、語彙、表現の拡充に努める。	仏検2級レベルの読解力を目指す。	
フランス語特別演習Ⅶ（総合）	国際学部 外国語等科目	1	3・4	中級文法と幅広い語彙を身に付けたいうえで、読解、会話、作文の各分野の応用練習を行う。高度で豊かな語学力を養う。Ⅶでは主に会話の練習を行う。	仏検2級レベルのフランス語力を身につける。	
フランス語特別演習Ⅷ（総合）	国際学部 外国語等科目	1	3・4	中級文法と幅広い語彙を身に付けたいうえで、読解、会話、作文の各分野の応用練習を行う。高度で豊かな語学力を養う。Ⅷでは主に、読解と作文の練習を行う。	仏検2級レベルのフランス語力を身につける。	
中国語初級A	国際学部 外国語等科目	1	1・2	教養教育科目の基礎中国語（入門）を履修している学生を対象に基礎発音・リスニングの応用的な練習を行うとともに初級会話を学ぶ。	・基礎発音が正確にできるようになり、発音を表記する表音ローマ字が正確に表記できる。また、短い会話文が暗誦できる。（技能） ・基礎的な日常会話とそれに対応するリスニングができる。（技能）	・基礎発音が正確にできるようになり、発音を表記する表音ローマ字が正確に表記できる。（技能） ・基礎的な日常会話とそれに対応するリスニングができる。（技能）
中国語初級B	国際学部 外国語等科目	1	1・2	教養教育科目の基礎中国語（表現）を履修している学生を対象に基礎発音・リスニングの応用的な練習を行うとともに初級会話を学ぶ。	・基礎発音が正確にできるようになり、発音を表記する表音ローマ字が正確に表記できる。また、短文・短い会話文が暗誦できる。（技能） ・基礎的な日常会話とそれに対応するリスニングができる。（技能）	・基礎発音が正確にできるようになり、発音を表記する表音ローマ字が正確に表記できる。（技能） ・基礎的な日常会話とそれに対応するリスニングができる。（技能）
中国語中級Ⅰ（文法）A	国際学部 外国語等科目	1	2	日本語や英語と異なり、語尾変化がなく語順によって意味が決まるという中国語の特質（即ち文法）を理解することを主眼とする。Aでは初級レベルでの学習内容をもとに既習の基本文型を復習、整理し、新たな基本文型を学び、実践的な応用練習を行う。合わせて表音ローマ字を伴わない漢字のみの文を音読できるよう練習を行う。	・基本文型を体系的に理解し、実践的に使うことができる。（技能） ・漢字のみの文を正しい発音で音読できる。（技能）	・基本文型を体系的に理解し、文型を用いた練習ができる。（技能） ・漢字のみの文を正しい発音で音読できる。（技能）
中国語中級Ⅰ（文法）B	国際学部 外国語等科目	1	2	日本語や英語と異なり、語尾変化がなく語順によって意味が決まるという中国語の特質（即ち文法）を理解することを主眼とする。BではAでの学習内容をふまえて更に高度の文型を学び、実践的な応用練習を行う。合わせて、漢字のみの文を音読し、読解できる練習を行う。	・基本文型を体系的に理解し、実践的に使うことができる。（技能） ・漢字のみの文を正しい発音で音読できる。（技能）	・基本文型を体系的に理解し、文型を用いた練習ができる。（技能） ・漢字のみの文を正しい発音で音読できる。（技能）
中国語中級Ⅱ（講読）A	国際学部 外国語等科目	1	2	初級レベルのテキストは会話体のもので多く、長文の読解力がつきにくい。この不足を補うために、文章の講読を行う。児童用の読み物から新聞、文学作品など様々なジャンルの文章を段階を追って学んでいく。Aでは中国の児童読物、新聞記事などを教材とする。	・漢字のみで書かれた教材を辞書を引きながら音読・読解できる。（技能） ・テキスト文にこめられた作者の意図・心情を理解できる。（思考・理解）	・漢字のみで書かれた教材を辞書を引きながら音読・読解できる。（技能）
中国語中級Ⅱ（講読）B	国際学部 外国語等科目	1	2	中国語の基礎を固め、かつ的確な表現を身につけるため、テキストに沿って文法のポイントや表現法の理解を深めてゆきます。受講生全員の理解を確実にし、かつ到達度を均質にするため、毎回、極力全員が何らかの発言（和訳、朗読など）をします。	1. 中国語を1年間学んだ基礎の上に、基本文法をさらに体系的に学び、文法的基礎力、長文読解力を十分に会得している（中検3級レベル）（技能）（知識・理解）。 2. なじみ深い童話の中国語版に接し、これを和訳することを通して、日中の感性・価値観の共通点・相違点について一定程度的見識を身につける（知識・理解）。	1. 中国語を1年間学んだ基礎の上に、基本文法をさらに体系的に学び、文法的基礎力、長文読解力を一定程度会得している。（技能）（知識・理解） 2. なじみ深い童話の中国語版に接し、これを和訳することを通して、日中の感性・価値観の共通点・相違点について一定程度的見識を身につける（知識・理解）。
中国語中級Ⅲ（会話）A	国際学部 外国語等科目	1	2	この授業は、日常生活や仕事の上でよく使われる会話の場面を設定し、基本的な表現を自分で正確に運用できるようになる。初級レベルの復習も踏まえながら、文法事項と表現法を解説しながら会話練習と作文練習を通して基礎的文法をしっかりと把握する。さらに、リスニングの訓練などで、中国語への理解能力の向上を目指す。	中国語の中級レベルの日常会話の表現を修得し、その実践的な会話とリスニングの力を身につけることができる。（技能）（知識・理解）	中国語の中級レベルの語彙や文法を理解し、その実践的な運用を一定程度行うことができる。（技能）（知識・理解）
中国語中級Ⅲ（会話）B	国際学部 外国語等科目	1	2	日常生活や仕事の上でよく使われる会話の場面を設定し、基本的な表現を自分で正確に運用できるようにする。また、リスニングの訓練などで、中国語への理解能力の向上を目指す。さらに、中国社会生活に密接に関連する中級レベルの記事を購読する。文法のポイントを解説しながら本文を読解し、また、翻訳や作文演習を中心とする練習問題を通して基礎的文法をしっかりと把握する。	・中国語の中級レベルの文法や構文を理解し、その実践的な会話と文法の力を身につけることができる。（知識・理解） ・中国語圏の文化に関する一般的な事象について、自身の文化とも比較しながら、正確に説明することができる。（技能）（知識・理解）	・中国語の中級レベルの文法や構文を理解し、その実践的な運用を一定程度行うことができる。（技能）（知識・理解）

科目名	科目区分	単位	学年	科目概要	到達目標（成績評価A）	単位修得目標（成績評価C）
中国語特別演習 I（上級会話）	国際学部 外国語等科目	1	3・4	中級レベルでの学習内容をもとに上級レベルの実践の場で役立つ中国語力を養うためにビジネス会話、ビジネス作文、通訳等の訓練を行う。合わせて中国人の思考方法、言語習慣等を学ぶ。Iではビジネス会話、ビジネス作文を中心に行う。	日常生活や仕事の上でよく使われる会話表現を正確に運用でき、より高度なコミュニケーション能力を身につけることができるようになる。合わせて中国語圏の文化に関する一般的な事象について、正確に説明することができる。	より高度なコミュニケーション能力を一定程度身につけることができる。
中国語特別演習 II（上級会話）	国際学部 外国語等科目	1	3・4	中級レベルでの学習内容をもとに上級レベルの実践の場で役立つ中国語力を養うためにビジネス会話、ビジネス作文、通訳等の訓練を行う。合わせて中国人の思考方法、言語習慣等を学ぶ。IIでは通訳を中心に行う。	より高度なコミュニケーション能力を身につけることができるようになる。合わせて中国語圏の文化に関する一般的な事象について、正確に説明することができる。	より高度なコミュニケーション能力を一定程度身につけることができる。
中国語特別演習 III（上級講読）	国際学部 外国語等科目	1	3・4	中国語を母語とせず、原則として中国語中級の単位を一つ以上取得済みの学生を対象としている。中国語の基礎をひとつとおり学んだ段階で、中国語の文章に挑戦してみようという授業である。文法や発音を復習し、聴き取り能力を高めながら、翻訳の仕方を丁寧に身につけていきたい。 具体的には、最新の中国事情を紹介した短文を速読する練習と、完成度の高い文学作品を精読する練習とを組み合わせる授業を進める。速読の練習としては、『時事中国語の教科書2020年度版』を読む。これは、最近の中国についての様々な話題を集めたテキストであり、この授業では、その前半部分を取りあげる。	・中国語で書かれた文章を理解し、発音もできる。（中検2級レベル）。 ・テキストの中国語を、適切な日本語に翻訳することができる。（知識・理解） ・テキストの中国語を、完璧に聴き取ることができる。（知識・理解） ・テキストの中国語を、正しい発音で音読することができる。（知識・理解） ・テキストで扱われている中国の社会状況について、十分に理解している。（知識・理解）	・テキストの中国語を、基本的に、日本語に翻訳することができる。（知識・理解） ・テキストの中国語を、基本的に、聴き取ることができる。（知識・理解） ・テキストの中国語を、音読することができる。（知識・理解） ・テキストで扱われている中国の社会状況について、一定の知識を有している。（知識・理解）
中国語特別演習 IV（上級講読）	国際学部 外国語等科目	1	3・4	中国語を母語とせず、原則として中国語中級の単位を一つ以上取得済みの学生を対象としている。中国語の基礎をひとつとおり学んだ段階で、中国語の文章に挑戦してみようという授業である。文法や発音を復習し、聴き取り能力を高めながら、翻訳の仕方を丁寧に身につけていきたい。 具体的には、最新の中国事情を紹介した短文を速読する練習と、完成度の高い文学作品を精読する練習とを組み合わせる授業を進める。速読の練習としては、『時事中国語の教科書2020年度版』の後半を読む。これは最近の中国についての様々な話題を集めた教科書である。	・中国語で書かれた文章を理解し、発音もできる。（中検2級レベル）。 ・テキストの中国語を、適切な日本語に翻訳することができる。（知識・理解） ・テキストの中国語を、完璧に聴き取ることができる。（知識・理解） ・テキストの中国語を、正しい発音で音読することができる。（知識・理解） ・テキストで扱われた文法について正しく理解し、重要単語もすべて記憶している。（知識・理解） ・テキストで扱われている中国の社会状況について、十分に理解している。（知識・理解）	・テキストの中国語を、基本的に、日本語に翻訳することができる。（知識・理解） ・テキストの中国語を、基本的に、聴き取ることができる。（知識・理解） ・テキストの中国語を、音読することができる。（知識・理解） ・テキストで扱われた文法について理解し、重要単語も記憶している。（知識・理解） ・テキストで扱われている中国の社会状況について、一定の知識を有している。（知識・理解）
中国語特別演習 VI（資格対策）	国際学部 外国語等科目	1	3・4	自らの中国語力を客観的に測る手段として中国語検定試験、HSK（中国語レベル試験）などがある。これを受験する学生に対して、その対策となる練習を行う。VIでは主にHSKについて文法問題、リスニング問題などの練習を行う。合わせて音読練習を行う。	より実践的な中国語力を身につけることができるようになる。”	
中国語特別演習 VII（総合）	国際学部 外国語等科目	1	3・4	「話す、聞く、読む、書く」の各分野の応用練習により、高度で豊かな語学力を養う。テーマを設けてのディベート・ディスカッションも取り入れる。VIIでは主に「話す、聞く」を総合した練習を行う。合わせて音読練習を行う。	より総合的な中国語力を身につけることができるようになる。”	
ドイツ語初級 A	国際学部 外国語等科目	1	1	この授業は、全学共通科目として開講されている「基礎ドイツ語（入門）」と並行して、ドイツ語を重点的に学習する意欲のある学生に対して提供されるものである。「基礎ドイツ語（入門）」では初級文法の学習が中心となるが、この授業では、それをふまえつつもオーラル・コミュニケーションとしての運用能力、すなわち「話せるドイツ語」を身につけることに重点が置かれることになる。	初歩レベルのドイツ語口語能力を身に付け、基本的な会話のやり取りを正確にできるようになる。（技能）	初歩レベルのドイツ語口語能力を身に付け、基本的な会話のやり取りを大きな困難なくできるようになる。（技能）
ドイツ語初級 B	国際学部 外国語等科目	1	1	この授業は、「ドイツ語初級A」の継続科目であり、全学共通科目として開講されている「基礎ドイツ語（表現）」と並行して、ドイツ語を重点的に学習する意欲のある学生に対して提供されるものである。「基礎ドイツ語（表現）」では初級文法の学習が中心となるが、それをふまえつつもオーラル・コミュニケーションとしての運用能力、すなわち「話せるドイツ語」を身につけることに重点が置かれることになる。	初級レベルのドイツ語口語能力の口語能力を身に付け、基本的な会話のやり取りを正確にできるようになる。（技能）	初級レベルのドイツ語口語能力を身に付け、基本的な会話のやり取りを大きな問題なくできるようになる。（技能）
ドイツ語中級 A	国際学部 外国語等科目	1	2・3・4	この授業は、初級レベルのドイツ語をすでに学習済みの学生を対象に開講される。初級と同様、同レベルの全学共通科目の「応用ドイツ語（総合）」と並行して、中級レベルのドイツ語の4技能についての運用能力を総合的に向上させる。	ドイツ語の初級文法を身に付け、基本文型を体系的に理解するとともに、コミュニケーションにおいても実践的に使うことができる。（技能）	ドイツ語の初級文法を身に付け、基本文型を理解するとともに、コミュニケーションにおいても大きな困難なく使うことができる。（技能）
ドイツ語中級 B	国際学部 外国語等科目	1	2・3・4	この授業は、「ドイツ語中級A」の継続科目であり、初級レベルのドイツ語をすでに学習済みの学生を対象に開講される。初級と同様、同レベルの全学共通科目の「応用ドイツ語（総合）」と並行して、この授業では、オーラル・コミュニケーション能力の向上に重点を置いた内容となる。	ドイツ語の初級文法を身に付け、基本文型を体系的に理解するとともに、コミュニケーションにおいても実践的に使うことができる。（技能）	ドイツ語の初級文法を身に付け、基本文型を理解するとともに、コミュニケーションにおいても大きな困難なく使うことができる。（技能）
イタリア語初級 A	国際学部 外国語等科目	1	1	この授業は、全学共通科目として開講されている「基礎イタリア語」と並行して、イタリア語を重点的に学習する意欲のある学生に対して提供されるものである。「基礎イタリア語」では初級文法の学習が中心となるが、ネイティブの講師によるこの授業では、それをふまえつつもオーラル・コミュニケーションとしての運用能力、すなわち「話せるイタリア語」を身につけることに重点が置かれることになる。	初歩レベルのイタリア語口語能力を身に付け、基本的な会話のやり取りを正確にできるようになる。（技能）	初歩レベルのイタリア語口語能力を身に付け、基本的な会話のやり取りを大きな困難なくできるようになる。（技能）
イタリア語初級 B	国際学部 外国語等科目	1	1	この授業は、全学共通科目として開講されている「基礎イタリア語」と並行して、イタリア語を重点的に学習する意欲のある学生に対して提供されるものである。「基礎イタリア語」では初級文法の学習が中心となるが、この授業では、それをふまえつつ、オーラル・コミュニケーションとしての運用能力、すなわち「話せるイタリア語」を身につけることに重点が置かれることになる。	初級レベルのイタリア語口語能力を身に付け、基本的な会話のやり取りを正確にできるようになる。（技能）	初級レベルのイタリア語口語能力を身に付け、基本的な会話のやり取りを大きな問題なくできるようになる。（技能）

科目名	科目区分	単位	学年	科目概要	到達目標（成績評価A）	単位修得目標（成績評価C）
イタリア語中級A	国際学部 外国語等科目	1	2・3・4	この授業は、初級レベルのイタリア語をすでに学習済みの学生を対象に開講される。初級と同様、同レベルの全学共通科目の「応用イタリア語」と並行して、中級レベルのイタリア語の4技能についての運用能力を総合的に向上させる。	イタリア語の初級文法を身に付け、基本文型を体系的に理解するとともに、コミュニケーションにおいても実践的に使うことができる。（技能）	イタリア語の初級文法を身に付け、基本文型を理解するとともに、コミュニケーションにおいても大きな困難なく使うことができる。（技能）
イタリア語中級B	国際学部 外国語等科目	1	2・3・4	この授業は、「イタリア語中級A」の継続科目であり、初級レベルのイタリア語をすでに学習済みの学生を対象に開講される。初級と同様、同レベルの全学共通科目の「応用イタリア語（総合）」と比べ、ネイティブの講師によるこの授業では、オーラル・コミュニケーション能力の向上に重点を置いた内容となる。	イタリア語の初級文法を身に付け、基本文型を体系的に理解するとともに、コミュニケーションにおいても実践的に使うことができる。（技能）	イタリア語の初級文法を身に付け、基本文型を理解するとともに、コミュニケーションにおいても大きな困難なく使うことができる。（技能）
日本語学概論 I	国際学部 外国語等科目	2	2・3	日本語がどのような特徴をもっているのかを意識的に考える。特に語彙（和語・漢語・外来語などの語種や位相語など）を中心に、文字、表記、音韻などの日本語の特徴について理解する。さらに、日本語の地域差、新たに起こりつつある日本語の変化についても理解する。	・日本語の音韻的、語彙的な側面の知識を修得し、日本語の特徴について具体例を挙げながら十分に説明することができる。（知識・理解） ・修得した知識を運用面でも活用できる。（技能）	・日本語の音韻的、語彙的な側面の基本的な知識を修得し、日本語の特徴について説明することができる。（知識・理解） ・修得した知識を運用面でも活用できる。（技能）
日本語学概論 II	国際学部 外国語等科目	2	2・3	日本語がどのような特徴をもっているのかを意識的に考える。特に文法の面を中心に、動詞の種類や授受表現、形容詞の特徴やコ・ソ・アの使い分けなど、日本語教育において必要な文法規則について理解する。	・日本語の文法的な側面の知識を修得し、日本語の文法的な特徴（特に活用や動詞の種類、授受表現、形容詞の特徴、コ・ソ・アの使い分け）について具体例を挙げながら十分に説明することができる。（知識・理解） ・修得した知識を運用面でも活用できる。（技能）	・日本語の文法的な側面の基本的な知識を修得し、日本語の文法的な特徴（特に活用や動詞の種類、授受表現、形容詞の特徴、コ・ソ・アの使い分け）について説明することができる。（知識・理解） ・修得した知識を運用面でも活用できる。（技能）
日本語学各論 I（文字・表記）	国際学部 外国語等科目	2	2・3	日本語が有している複雑な表記体系を理解し、漢字と仮名を中心にコンピュータ社会での漢字のあり方について考える。カタカナ表記の増加など、表記法の変化の要因について考え、今後日本語の表記法についても理解する。	日本語の文字・表記に関するいくつかの問題を、歴史的な変遷を含めて十分に理解し、説明することができる。（知識・理解）	日本語の文字・表記に関する基本的な問題を、歴史的な変遷を含めて理解し、説明することができる。（知識・理解）
日本語学各論 IV（日本語史）	国際学部 外国語等科目	2	3・4	日本語の歴史的な変化について、音韻、表記、語彙、文法、語法、待遇表現、文体などさまざまな観点からいくつかを取り上げて考えていく。近世から現代までの変化を中心に、現代日本語がどのようにして形成されてきたか、江戸語がどのような変化を経て東京語となったのか、近代日本語がどのような性格をもっているのかなどを理解する。さらに、日本語がこれからどのような方向へ変化しつつあるのかなどについても考える。	歴史上に残る言語資料を糸口に、日本語の歴史に関する知識を十分に理解し、説明することができる。（知識・理解）	歴史上に残る言語資料を糸口に、日本語の歴史に関する基本的な知識を理解し、説明することができる。（知識・理解）
国際入門演習	国際学部 基礎科目	2	1	大学での学習にあたっての基本的な知識とスキルを修得する。研究テーマの設定の仕方、文献資料の収集と整理方法、文献の読み方、研究発表の方法、ディベートの実践、論文やレポート執筆のための基礎的知識と論旨の組み立て方などを具体的テーマにそって修得する。最終的に各自の関心に従って選択したテーマで小論文を完成させる。	・現代世界の社会と文化についての基礎的な知識を十分に習得することができる。（知識・理解） ・現代世界の社会と文化について問題意識を持つことができる。（関心・意欲・態度） ・基礎ゼミナールで学んだ大学で学ぶための基本的技術を活用し、文献検索、資料収集、文献の批判的読解、発表、討論、レポートの作成などを十分に行うことができる。（思考・判断・表現）	・現代世界の社会と文化についての最低限の基礎的な知識を習得することができる。（知識・理解） ・現代世界の社会と文化について問題意識を持つことができる。（関心・意欲・態度） ・基礎ゼミナールで学んだ大学で学ぶための最低限の技術を活用し、基本的な文献検索、資料収集、文献の批判的読解、発表、討論、レポートの作成などができる。（思考・判断・表現）
現代社会と歴史 II	国際学部 基礎科目	2	1・2	「グローバル化」の時代といわれる現代社会が、どのような歴史的プロセスを経て形成されたのか。それぞれの地域がなぜ、どのようにして結びつくようになったのか。この世界の結びつき方の歴史とその現在への影響について、「モノ」を通して資本主義のあり方や、コミュニケーションの変化など、いくつかのトピックを取り上げながら考える。	「グローバル化」が現在に限られたものではなく、長い歴史的なプロセスのなかで展開し、変化してきたものであることを理解し、具体的な例を挙げながら説明することができる。（知識・理解）	「グローバル化」が現在に限られたものではなく、長い歴史的なプロセスのなかで展開し、変化してきたものであることを理解することができる。（知識・理解）
現代社会と思想・宗教 I	国際学部 基礎科目	2	1・2	我々は日々さまざまな問題を抱え、どのように生きてゆかという問いに直面している。この問いに向かい合うとき、過去の人々が人間というものをどのようにとらえ、どのように社会とかわかって来たかを知り、それに学ぶことは重要な手続きであると言える。この授業では主に中国を対象とし、儒教、老荘思想など伝統思想の形成と継承、日本など周辺諸国への影響、また、近代化の中での西欧思想の受容とそこに生じた矛盾などの問題を考察し、これらの事象から我々は何を学ぶべきかを探っていく。	1. 伝統的中国思想（とくに儒教・老荘思想）の特色の概略を理解し、説明することができる（知識・理解）。 2. 現代の中国・日本社会に生起する思想上・宗教上の問題を一定程度理解し、説明することができる（知識・理解）。 3. 東アジアが共有する思想上・宗教上の課題に興味を持ち、一定程度説明することができる（関心・意欲・態度）。	1. 伝統的中国思想（とくに儒教・老荘思想）の特色の概略を理解することができる（知識・理解）。 2. 現代の中国・日本社会に生起する思想上・宗教上の問題を一定程度理解することができる（知識・理解）。 3. 東アジアが共有する思想上・宗教上の課題に興味を持つことができる（関心・意欲・態度）。
現代社会と思想・宗教 II	国際学部 基礎科目	2	1・2	現代において、宗教と人間の思考は対立すると考えられることが少なくない。しかし、私たちが日々問題に直面したとき、どちらかを優先すれば解決するわけではない。人間を超えた存在を信じることと人間が自ら考えることとの間には、どのような関わりがあるのか。この講義では、主要宗教の基本事項とそこで人間の思考の位置づけを確認することを通して、両者の関係について考察をおこなう。	1. 主要宗教の基本事項とそこにおける人間の思考の位置づけを正確に理解する。（知識・理解） 2. 1.の理解をふまえ、宗教と人間の思考の関係について、自らの考えを表現することができる。（思考・判断・表現）	主要宗教の基本事項とそこにおける人間の思考の位置づけを理解することができる。（知識・理解）
現代社会と芸術 I	国際学部 基礎科目	2	1・2	19世紀からヨーロッパで美術は社会と日常生活の中で発展する。その発展の背景には様々な理由がある。1つに産業革命で豊かになったブルジョア達は自分の家に絵画や彫刻など装飾品として置く様になったことだ。また、市民は美術館やサロンへ足を運ぶようになる。この事情に基づいてこの授業では19世紀から現在にかけての芸術と社会の歴史を紹介する。1—美術館～例としてルーヴルの歴史と大ルーヴルの計画について、2—都市計画と芸術、3—芸術とビジネス例として最近出版されたベストセラー小説「ダ・ヴィンチ・コード」や「真珠の耳飾りの少女」について考える。この小説の影響を受け、人々の美術への関心が高まったが、実際に想像される芸術家のイメージと製作プロセスについて考えてみる。	古代文明の宗教・美術が理解できるようになる。	古代文明の宗教・美術が理解できるようになる。

科目名	科目区分	単位	学年	科目概要	到達目標（成績評価A）	単位修得目標（成績評価C）	
現代社会と芸術Ⅱ	国際学部 基礎科目	専門	2	1・2	（ヨーロッパの美術とジェンダー）ヨーロッパは長い歴史を通して多くの多様で豊かな芸術作品を生み出してきた。美術史の書物で語られる美術作品は、あたかも普遍的な価値をもったものとして受け取られがちである。しかし時代とともに人間社会の仕組みが変わり、そこに生きる人々のまなざしが変わってゆくと当然過去に絶対的な価値をもったものとされていたものに見直しがおこる。そもそも美術の歴史自体がその過去へのまなざしの変化をもの語るものである。現代における見直しの新機軸はジェンダ一論であろう。社会的・文化的な性差がいかにして形成されたかを見るのに美術ほど雄弁なものはない。本講義は新たなジェンダー的視点で過去の美術作品を読み直すと、今まで語られてこなかった歴史の別の世界が見えてくることを具体的な作品を分析することで明らかにする。そこから何故現代の社会でこうしたまなざしの見直しが必要であるかを考察する。	現代社会における視覚的表現をいかに捉えるか、無意識の中に刷り込まれる視覚的情報がいかに自分の意識を作り上げていくのかを考えることができるようになる。	現代社会における視覚的表現をいかに捉えるか、無意識の中に刷り込まれる視覚的情報がいかに自分の意識を作り上げていくのかを考えることができるようになる。
現代社会と文学Ⅰ	国際学部 基礎科目	専門	2	1・2	主に日本の近代・現代文学と現代社会との関わりを中心に検討し、そこから浮かびあがる問題・テーマについて幅広く考察する。また、「文学」以外にも広く現代社会と関わる文化や様々なジャンルの作品も積極的に活用する。	・文学のリアリティや表現力を理解し、現代社会の本質を認識できる。（知識・理解） ・文学が描く人間や社会背景の複雑なありようを抽出・分析することができる。（思考・判断・分析） ・適切な分析方法を使って文学と現代社会の関係についてのレポートを作成できる。（技能）	・文学のリアリティや表現力を理解し、現代社会の本質をある程度まで認識できる。（知識・理解） ・文学が描く人間や社会背景の複雑なありようの基礎的な抽出・分析ができる。（思考・判断・分析） ・分析方法を使って文学と現代社会の関係についての、基本レベルのレポートを作成できる。（技能）
現代社会と文学Ⅱ	国際学部 基礎科目	専門	2	1・2	「文学」は、それが誕生する時代の思潮や社会背景を反映し、同時に、いつの時代や社会にも通じる普遍性を持ちうる。古典や近代の作品も当時の社会状況を写し取り、その後の新たな解釈や評価を含みつつ、現代まで続いている。現代社会においてそれらの「文学」を解釈し考察することは、現代社会を読み解く鍵となり得る。その意味で、「文学」と現代社会の関係を読み解いていく。	・文学のリアリティや表現力を理解し、現代社会の本質を認識できる。（知識・理解） ・文学が描く人間や社会背景の複雑なありようを抽出・分析することができる。（思考・判断・分析） ・適切な分析方法を使って文学と現代社会の関係についてのレポートを作成できる。（技能）	・文学のリアリティや表現力を理解し、現代社会の本質をある程度まで認識できる。（知識・理解） ・文学が描く人間や社会背景の複雑なありようの基礎的な抽出・分析ができる。（思考・判断・分析） ・分析方法を使って文学と現代社会の関係についての、基本レベルのレポートを作成できる。（技能）
国際コミュニケーション論Ⅰ	国際学部 基礎科目	専門	2	1	国際的な場面において文化的背景が異なる人々がコミュニケーションをはかる際に生じる諸特徴について理解する。言語は単にコミュニケーションの道具ではなく、「物の見方」の道具でもあるという視点に立って、言語学の成果と方法をもとに、ことばを通して文化について学習する。	異文化コミュニケーションの諸理論について学習し、文化背景の異なる人々に対する開かれた心と態度、コミュニケーション方法を身に付けることができる。（技能）	異文化コミュニケーションの諸理論について学習し、文化背景の異なる人々に対する開かれた心と態度、コミュニケーション方法を理解することができる。（技能）
国際コミュニケーション論Ⅱ	国際学部 基礎科目	専門	2	1・2	世界各地に広がった多様な英語の変種を、世界諸英語（world Englishes）と呼び、世界は、ある地域における英語の使用度合いによって、次の3つに大別される。それらは1.母語としての英語を使用する英語国：イギリス、アメリカ、アイルランド、カナダ、オーストラリア、ニュージーランドなど、2.母語ではないが多言語状態で英語が第2言語や公用語として重要な役割を果たしてきた国や地域：インド、シンガポール、フィリピン、ナイジェリアなど、3.国際補助語としての英語の重要性を認識し、習得に熱心な国や地域：中国、日本、ロシア、イスラエル、スウェーデン、ドイツなどである。外国語としての使用地域の英語を含め、世界各地で使用されている英語は、多様な民族と地域の文化を反映している。このように多様な諸特徴を持つ国際語としての英語について、これらの3地域の諸特徴を理解する。日本人としてどのように英語に取り組むべきかを考える。	・多様な民族と地域の文化を反映している世界語（global language）としての英語の特徴を体系的に理解することができる。（知識・理解） ・日本人としてどのように英語に取り組むべきかを考えることができる。（思考・判断・表現）	・多様な民族と地域の文化を反映している世界語（global language）としての英語の基本的な特徴を理解することができる。（知識・理解） ・日本人としてどのように英語に取り組むべきかを考えることができる。（思考・判断・表現）
国際コミュニケーション論Ⅲ	国際学部 基礎科目	専門	2	1・2	人々の相互意思伝達において、文化に起因する要因がいかなる影響を及ぼしているのかを学習する。授業では、文化摩擦、異文化適応、異文化コンフリクト、カルチャーショック、自民族中心主義、文化変容、エティックとイーミック、アイデンティティ、自己開示、価値、ステレオタイプ、偏見、世界観といった重要概念を具体的な事例とともに理解する。さらに、言語や文化の異なる人間同士の相互交流の場としてビジネスを取り上げ、特にコミュニケーションの観点から、交渉、意思決定、リーダーシップ、異文化摩擦などについて各国間の具体的な事例をもとに学習する。	1. 認知言語学や言語人類学における異文化コミュニケーションの重要概念を包括的に理解し、具体的な事例を挙げながら説明することができる。（知識・理解） 2. これまでに自身が体験した国内外でのコミュニケーションの問題やその克服を、授業で学んだ重要概念に触れながら説明することができる。（思考・判断・表現） 3. 文化的背景が異なる人との関わりにおいて、より良い異文化コミュニケーションを実践することができる。（技能）	1. 認知言語学や言語人類学における異文化コミュニケーションの基本的な概念を理解し、具体的な事例を挙げながら説明することができる。（知識・理解） 2. これまでに自身が体験した国内外でのコミュニケーションの問題やその克服の例を、授業で学んだ基本的な概念に触れながら挙げることができる。（思考・判断・表現） 3. 文化的背景が異なる人との関わりにおいて、より良い異文化コミュニケーションを実践することができる。（技能）
世界経済入門Ⅰ	国際学部 基礎科目	専門	2	1	世界経済の仕組みを知り、理解するための最初の入門的学習として、まずは現代世界経済をめぐる諸事象への関心を高め、自らの問題意識を高めることを行う。グローバル化時代と呼ばれる今日、ヒト、モノ、カネ、（サービス）の経済活動の国際化・世界化が大きく進展している。国際労働力移動や国際観光、外国貿易、多国籍企業の事業展開、投機的資金の国際移動など、さまざまな経済現象が世界的規模で繰り広げられている。メディア報道でも接することの多いそうした国際的・世界的経済の現実を、背後にある歴史的諸要因・諸事情、それに関わるシステム、それらに伴う諸問題・諸課題を概観し、またその過程で、関連する経済学の基礎的知識やキーワードについても理解し、習得する。	・今日、世界でどのような経済的な動きが展開し、どのような問題が生じているかを概観して、現状への認識を高めることができる。（知識・理解） ・講義で議論する身近な話題を通して、世界経済を自分の問題として認識することができる。（関心・意欲・態度） ・世界経済に関連する経済学の基礎知識や専門用語について理解出来る。（知識・理解）	・今日、世界でどのような経済的な動きが展開し、どのような問題が生じているかを概観して、現状への認識を高めることができる。（知識・理解） ・世界経済に関連する経済学の基礎知識や専門用語について理解出来る。（知識・理解）
世界経済入門Ⅱ	国際学部 基礎科目	専門	2	1	現代世界経済の仕組みを知り、理解するためには、第2次世界大戦後、今日に至る世界経済の歴史的展開についての理解と基礎知識の修得が必要である。こうした観点から、戦後、制度化されたブレトンウッズ（IMF・GATT）体制、変動相場制への移行、ケインズ政策から新自由主義的政策への経済政策の路線転換、IT革命、金融資本主義の世界的展開とサブプライム問題・リーマンショックといった、アメリカを主軸とし、アメリカ主導で再編・構築されてきたグローバル化経済の基本的な歴史的変遷とその構造的諸問題、またその一方で、そうした動きとは対峙する形で進行してきたEUやASEANなど地域主義的な経済統合・連携の動向等について概観する。	・第二次世界大戦後、アメリカを中心に形成された国際金融制度の歴史的変遷と、各時代の制度が内包していた構造的諸問題を理解する。（知識・理解） ・アメリカ中心に世界を巻き込むグローバル化とは対峙する形で進行したEUやASEANなど地域主義的な経済統合・連携の動向を理解し、その背景や要因を考察出来るようになる。（知識・理解）（思考・判断・表現）	・第二次世界大戦後、アメリカを中心に形成された国際金融制度の歴史的変遷と、各時代の制度が内包していた構造的諸問題を理解する。（知識・理解） ・アメリカ中心に世界を巻き込むグローバル化とは対峙する形で進行したEUやASEANなど地域主義的な経済統合・連携の動向を理解する。（知識・理解）

科目名	科目区分	単位	学年	科目概要	到達目標（成績評価A）	単位修得目標（成績評価C）	
経済分析の基礎 I	国際学部 基礎科目	専門	2	1・2	ミクロ経済学とマクロ経済学は、経済学の研究が始まって以来経済学を代表する二大研究分野です。名前から想像出来るように、マクロ経済学は、GDP、失業率、インフレ率など経済全体の事象を議論するのに対し、ミクロ経済学は、ミクロの経済主体(1個人や1企業)の合理的な意思決定とミクロの経済主体同士の相互依存的な関わりを議論します。この講義では、全ての近代経済学の基礎となっているミクロ経済学の入門理論を「需要曲線と供給曲線を用いた市場分析」「企業の利潤最大化」「消費者の効用最大化」といった理論を学ぶことで、今後みなさんが経済学を学ぶための土台作りをすることを目的にします。	1. ミクロ経済学の基礎的な理論「需要曲線と供給曲線を用いた市場分析」「企業の利潤最大化」「消費者の効用最大化」を学び、これらの理論を理解し、応用問題まで解けるようになる。(知識・理解)(技能) 2. ミクロ経済学の入門理論の学びを通して、経済学に特有の思考や数式やグラフを用いての分析手法を身に付ける。(知識・理解)(技能) 3. 市場均衡・企業の利潤最大化・消費者の効用最大化といった実は身近に存在する問題を論理的に解く力を得ることで経済学のおもしろさを味わう。(知識・理解)(技能)(関心・態度)	1. ミクロ経済学の基礎的な理論「需要曲線と供給曲線を用いた市場分析」「企業の利潤最大化」「消費者の効用最大化」を学び、これらに関する基礎問題が解けるようになる。(知識・理解)(技能) 2. ミクロ経済学の入門理論の学びを通して、経済学に特有の思考を身に付ける。(知識・理解)(技能) 3. 市場均衡・企業の利潤最大化・消費者の効用最大化といった実は身近に存在する問題を論理的に解く力を得ることで経済学のおもしろさを味わう。(知識・理解)(技能)(関心・態度)
経済分析の基礎 II	国際学部 基礎科目	専門	2	1・2	ミクロ経済学とマクロ経済学は、経済学の研究が始まって以来経済学を代表する二大研究分野です。名前から想像出来るように、マクロ経済学は、GDP、失業率、インフレ率など経済全体の事象を議論するのに対し、ミクロ経済学は、ミクロの経済主体(1個人や1企業)の合理的な意思決定とミクロの経済主体同士の相互依存的な関わりを議論します。この講義では、全ての近代経済学の基礎となっているミクロ経済学の入門理論を「需要曲線と供給曲線を用いた市場分析」「企業の利潤最大化」「消費者の効用最大化」といった理論を学ぶことで、今後みなさんが経済学を学ぶための土台作りをすることを目的にします。	1. 経済全体が動く仕組み、財政政策や金融政策が経済に与える影響についての知識を得ることに加え、なぜそのような結論に至るのかという結論に至るまでの課程を論理的に証明・説明出来るようになる。(知識・理解)(思考・判断・表現) 2. マクロ経済を分析する上で必須のグラフや数式による分析手法を身に付ける。(知識・理解)(技能) 3. マクロ経済学の知識・分析手法を用いて、ニュースで取り上げられる時事問題や国会の議論が理解出来るようになることにより、経済学のおもしろさを実感する。(知識・理解)(技能)(関心・意欲・態度)	1. 経済全体が動く仕組み、財政政策や金融政策が経済に与える影響についての知識を身に付けている。(知識・理解)(思考・判断・表現) 2. マクロ経済を分析する上で必須のグラフによる分析手法を身に付ける。(知識・理解)(技能) 3. マクロ経済学の知識・分析手法を用いて、ニュースで取り上げられる時事問題や国会の議論が理解出来るようになることにより、経済学のおもしろさを実感する。(知識・理解)(技能)(関心・意欲・態度)
国際学入門 I	国際学部 基礎科目	専門	2	1	国際学入門は、国際学部で学ぶことができる17の専攻分野の入口として位置付けられおり、教員が輪講で授業を担当することによって、各専攻分野の学びが概観できるようになっている。この国際学入門 I では、エリア・スタディーズ・コースの専攻分野である「アジア研究」、「ヨーロッパ研究」、「アメリカ研究」、「移民・マイノリティ」、「都市・コミュニティ」を学ぶ。	エリア・スタディーズ・コースの専攻分野について、中心となるテーマや研究領域、研究方法を十分に理解することができる。(知識・理解)	エリア・スタディーズ・コースの専攻分野について、中心となるテーマや研究領域、研究方法の基礎を理解することができる。(知識・理解)
日本の歴史 II	国際学部 科目	専門	2	2・3	日本の近代(幕末～昭和戦前・戦時期)の政治・経済・国際関係を講義する。日本の近代はグローバリゼーションと戦争の時代であった。社会のなかで人々がどのように行動し、選択したのかを、資・史料の読解を重視し、様々な角度から複眼的に考察する。	日本の近代史の重要トピックについて、その経緯・背景・因果関係を十分に理解し、説明できる。(知識・理解・表現)	日本の近代史の重要トピックについて、その経緯・背景・因果関係を十分に理解し、説明できる。(知識・理解・表現)
中国の歴史 I	国際学部 科目	専門	2	2・3	前漢・司馬遷の『史記』は、一義的には歴史記録ですが、司馬遷は執筆に当たり、各地で伝えられている歴史上の人物・事件ゆかりの伝承や演芸の容も本書に取り入れました。それらも歴史の真実を表現している、と彼は考えたのです。その結果、本書は単なる歴史事実の羅列ではなく、人物の感情や性格がよく描写され、直接話法もしばしば現れ、“歴史小説”のような雰囲気を感じることになりました。この授業ではこのような『史記』の数々の名場面の中から、秦末の項羽と劉邦を中心とする“漢楚の抗争”の部分を読み進め、あわせて伝統中国特有の価値観・倫理観・気質の特色などについて、理解を深めてゆきます。	世界の古典のなかでも重要度の高い『史記』に触れることにより、 1. 漢文脈が今日の日本語にも重要な役割を果たしていることを実感することができる(知識・理解) 2. 現在も今後も日本文化にとって不可欠の“漢字文化”についての知識を増やし、感性を磨くことが期待できる。(関心・意欲・態度) 3. 司馬遷の執筆の姿勢から、歴史を理解するうえで大切なのは理論や思想ではなく、“歴史を作るのは人間である”という認識にもとづくことである、と実感することができる(思考・判断・表現)	世界の古典のなかでも重要度の高い『史記』に触れることにより、 1. 漢文脈が今日の日本語にも重要な役割を果たしていることを実感することができる(知識・理解) 2. 現在も今後も日本文化にとって不可欠の“漢字文化”について一定程度理解し、知識や感性を深めてゆくことが期待できる。(関心・意欲・態度) 3. 司馬遷の執筆の姿勢から、歴史を理解するうえで大切なのは理論や思想ではなく、“歴史を作るのは人間である”という認識にもとづくことである、と実感することができる(思考・判断・表現)
中国の歴史 II	国際学部 科目	専門	2	2・3	14世紀から20世紀にかけて中国を統治した明朝と清朝について講義する。漢民族の王朝である明朝と、異民族(満洲族)の王朝である清朝とを比較しながら、中国社会の特質について考えていく。北京にある広大な紫禁城(現在は故宮博物院)はいづ誰によって築かれたのか、万里の長城はどんな役割を果たしていたのか、満洲族と漢民族はどこが違うのか、官僚と宦官(かんがん)はどのような関係にあったのか、皇位をめぐるどのような争いが展開されたのか、などの点を考察する。個性あふれる皇帝たち、その妃たちのエピソードも交えて話していく。	・明代と清代の歴史について、十分に理解している。(知識・理解) ・明朝と清朝の共通点と相違点について、十分に理解している。(知識・理解) ・明代と清代の歴史について、先行研究を整理したうえで、自分の見解を述べる(思考・判断・表現)	・明代と清代の歴史について、基本的に理解している。(知識・理解) ・明朝と清朝の共通点と相違点について、基本的に理解している。(知識・理解) ・明代と清代の歴史について、自分の見解を述べる(思考・判断・表現)
日本の文学	国際学部 科目	専門	2	2・3	日本人が「国際」的になるには、日本のことをよく理解していなければならない。日本の美点や特質を知らなければ、外国の美点も特質も知り得ない。あるいは誤解したままのイメージを持ち続けてしまう。日本の美点や特質を如実に表すものの一つが「文学」である。「日本の文学」を知ることで国際社会に通じる道が開ける。	・日本の文学のリアリティや表現力を理解し、その美点や特質を認識できる。(知識・理解) ・文学が描く人間や社会背景の複雑なありようを抽出・分析することができる。(思考・判断・分析) ・適切な分析方法を使って日本の文学の特質についてのレポートを作成できる。(技能)	・日本の文学のリアリティや表現力を理解し、その美点や特質をある程度認識できる。(知識・理解) ・文学が描く人間や社会背景の複雑なありようを抽出・分析することがある程度できる。(思考・判断・分析) ・分析方法を使って日本文学の特質についての、基本レベルのレポートを作成できる。(技能)
中国の社会 II	国際学部 科目	専門	2	2・3	この講義では、中国の3つの側面に光をあててみたいと思う。第1は、少数民族の住む地域である。中国には漢民族のほかに55の少数民族が暮らしている。彼らにはそれぞれ独自の文化があるが、ここでは雲南省のハニ族とナシ族をとりあげる。第2に、香港とマカオである。かつて、香港はイギリス、マカオはポルトガルの植民地であったが、現在は「一国家二制度」という形で中華人民共和国の一部となっている。自らのアイデンティティと大陸との関係にゆれる香港の現在を考え、マカオの産業として観光業とカジノについてもふれてみたい。第3に、(広い意味での中華文化圏として)台湾をとりあげる。台湾と日本には、互いに親近感をもつ人が多い。半世紀にわたる日本統治時代とそれに続く中華民国時代に、台湾は大陸とは異なる社会を作りあげてきた。「一つの中国」をめぐる国際政治についてもふれる。このほか、白地図などを利用して、中国の地理についての基礎知識も身に付ける。	・中国の地方行政区の位置と名称をすべて記憶している。(知識・理解) ・中国の主要都市の位置と名称をすべて記憶している。(知識・理解) ・多民族国家としての中国の特徴と課題を十分に理解している。(知識・理解) ・「一国家二制度」の特徴と課題を十分に理解している。(知識・理解) ・特殊な地位におかれた台湾について、十分な知識を有している。(知識・理解) ・中国の社会について、自分の見解を述べる(思考・判断・表現)	・中国の地方行政区の位置と名称を基本的に記憶している。(知識・理解) ・中国の主要都市の位置と名称を基本的に記憶している。(知識・理解) ・多民族国家としての中国の特徴と課題を基本的に理解している。(知識・理解) ・「一国家二制度」の特徴と課題を基本的に理解している。(知識・理解) ・特殊な地位におかれた台湾について、基本的な知識を有している。(知識・理解)

科目名	科目区分	単位	学年	科目概要	到達目標（成績評価A）	単位修得目標（成績評価C）
アジア文化論 XVII（比較文化）	国際学部 専門科目	2	3・4	この授業は比較の視点からアジアの諸文化を考えようとするもので、アジアにおける漢字文化圏（主に日本と中国）の言語、文学を対象とする。漢字という共通項をもつ日本語と中国語は語彙、文字、表記など表面的には類似点が多く、日本語の中の大量の漢語や近代の中国語における西欧の文化概念を示す日本語からの借用語など相互の交流も深い。その一方、各言語における漢字の役割は異なり、発想、表現にも大きな相違がある。また、文学においても、日本の詩歌、小説への漢籍の影響、受容後の変化など共通点、相違点がみられる。これらの比較を通して各文化の特性を探っていく。	中国・日本・韓国をはじめとする漢字文化圏のそれぞれの民族による感性・価値観を比較しながら、おのおのの特色を具体例の考察を通して理解することができる。（知識・理解）	日本・中国・韓国をはじめとする漢字文化圏のそれぞれの民族による感性・価値観を比較しながら、おのおのの特色を理解することができる。（知識・理解）
世界の地誌 I（日本・中国）	国際学部 専門基礎科目	2	1・2	日本・アジアの全体像とそれを構成する個々の地域の地域性について、地誌学的に講義する。地誌学とは地域の様々な事象を総合的に捉えて記述する地理学の一分野であり、地域を理解するための基礎的な学問である。そうした視座に立脚したうえで、日本・アジアを総合的に論じると同時に、個々の地域の地域差とその成立要因を解説する。	1. アジアの全体像を一つの文化地域としての確に説明できる。（知識・理解） 2. 日本・アジアの各地の多様性とそれが形成された背景を、理論的かつ的確に説明できる。（知識・理解） 3. 授業中の課題や事前・事後学修に積極的に取り組み、日本・中国の地誌を主体的かつ積極的に理解しようとする日常的に心掛けている。（関心・意欲・態度）。	1. アジアの全体像を一つの文化地域としてある程度説明できる。（知識・理解） 2. 日本・アジアの各地の多様性とそれが形成された背景を、ある程度説明できる。（知識・理解） 3. 授業中の課題や事前・事後学修に積極的に取り組み、日本・中国の地誌を理解しようとする。（関心・意欲・態度）。
アジア地域論 I（東アジア）	国際学部 専門科目	2	2・3	紙文化史 中国文化が東アジアの諸民族に及ぼした影響は計りしれない。漢字の発明、儒教の成立、紙・印刷技術の発明や茶の文化等々のものが東アジアのみならず世界の文化の発展に影響を及ぼしたと言っても過言ではない。この講座では「紙」に力点を置き、紙の誕生の経緯や製紙技術発達とその後の国外への伝播（特に日本への影響）の歴史を探ることによって、より深く東アジアの文化を理解する。	「紙」の歴史を知ることで東アジアの文化をより深く理解できるようになる。（知識・理解）	「紙」の歴史を知ることで東アジアの文化を理解できるようになる。（知識・理解）
アジア地域論 III（東南アジアの社会と文化）	国際学部 専門科目	2	3・4	日本との関わりが深いベトナム・フィリピン・タイなどの諸国、諸地域について、その歴史をたどり、かつ現代の政治・経済・文化などについて理解させることを目標とする。近代、この地域はフランスの植民地となったベトナム、アメリカの植民地となったフィリピン、独立王政を維持したタイと、その歴史は大きく異なり、現代においても、その社会的・文化的影響をとどめている。そうした違いの一方で、共通する社会的・文化的側面も少なくない。こうした異質性と共通性に焦点を当て、理解を深める。	東南アジア地域における社会と文化の変容を、歴史的観点から考察することによって、国家・地域・社会のダイナミズムを十分に理解できるようになる。（知識・理解）	東南アジア地域における社会と文化の変容を、歴史的観点から考察することによって、国家・地域・社会のダイナミズムの基本を理解できるようになる。（知識・理解）
アジア地域論IV（南・西アジアの社会と文化）	国際学部 専門科目	2	3・4	グローバル化が進展する現在、日本企業のアジア地域への進出、経済連携協定に基づくアジア地域からの労働者の受け入れやアジア地域への開発援助等、様々な領域で日本とアジア社会との結びつきは深まりをみせている。この授業では、地域研究、比較研究、世界システム論の視座を学んだ上で、今日のアジア社会の動向を読み解くことを目的とする。具体的には、近年、急激な経済成長を遂げ世界の注目を集めるインドを中心とした南アジアの事例を取り上げ、アジアの人びとの生活を理解し、アジアの社会の構造と文化についての知識を深める。	南アジア社会の事例を中心にして、今日の変化するアジア社会の動向や人びとの生活・文化についての知識を十分に習得できるようになる。（知識・理解）	南アジア社会の事例を中心にして、今日の変化するアジア社会の動向や人びとの生活・文化についての基本的な知識を習得できるようになる。（知識・理解）
ヨーロッパ地域論VI（東欧・北欧）	国際学部 専門科目	2	3・4	北欧と東欧についての全体像を概観した上で、特に90年代以降のバルカン地域に焦点を当てて、同地域の現状と課題を紹介する。 バルカン地域は、ヨーロッパの火薬庫と呼ばれ、オスマントルコによる征服から解放された後、1914年の第一次世界大戦のきっかけとなったサラエボ事件、第二次世界大戦、1990年代前半のユーゴ紛争、1990年代後半のコソボ危機等、激動の時代を経てきた。現在は、EU加盟に向けて様々な改革に取り組んでいる一方で、ユーゴ紛争やコソボ危機に端を発する難民問題や、コソボの独立など、いまだに解決の目途が立っていない問題も多い。講義では、こうした複雑なバルカン地域の概況、ユーゴ紛争やコソボ危機の状況、その後の復興の様子や民族和解の状況を紹介するとともに、ヨーロッパ有数の観光地として名高い同地域の見所や世界遺産も紹介する。	・バルカン地域の現状と課題、ユーゴ紛争やコソボ危機の状況、その後の紛争終結国における復興の様子や民族和解の状況等について理解できるようになる。（知識・理解） ・バルカン地域の平和と安定に対する日本の貢献のあり方について考えられるようになる。（思考・判断・表現）	・バルカン地域の現状と課題、ユーゴ紛争やコソボ危機の状況、その後の紛争終結国における復興の様子や民族和解の状況等についての理解をある程度深めることができる。（知識・理解） ・バルカン地域の平和と安定に対する日本の貢献のあり方についてある程度考えられるようになる。（思考・判断・表現）
ヨーロッパの思想・宗教	国際学部 専門科目	2	3・4	ディルタイによれば、中世のヨーロッパを支配していた形而上学（神学）の内には、古代諸民族の宗教とギリシャの古典哲学とローマの統治の思想・能力という3つの動機が、いわば交響乐的全体に統一されていたのである。この中世形而上学に媒介されながらも、それを打破・克服したのが、まさに15・16世紀のルネッサンスと宗教改革である。彼に従って、前者をペトルルカ、マキアヴェリ、モンテーニュに即して、後者をエラスムス、ルター、ツヴィングリ、セバステリアン・フランクに即して思想的に考察し、さらに歴史的な社会状況や時代思想の背景との連関で理解を深める。	ヨーロッパ文化における思想と宗教との歴史的関連の探求を通して、現代に生きる人間にとっての比較思想的意義を理解できるようになる。	
ヨーロッパの政治経済	国際学部 専門科目	2	3・4	ヨーロッパ各国の政治制度の基礎知識を習得する。基本的に比較政治学のアプローチに従い、歴史と現状の両面から、ヨーロッパ各国の政治制度の共通性と多様性について考察する。さらに、各国の国内政治を検討する際にも、欧州統合による域内統治の発展に注目し、常にEUとの関係に配慮して考察する。	ヨーロッパ各国の政治制度の共通性と多様性について、その歴史的変遷と現状の両面から、比較政治学の理論を用いて、総合的に説明できる。（知識・理解）	ヨーロッパ各国の政治制度の共通性と多様性について、その歴史的変遷と現状の両面から、基本的な事項を説明できる。（知識・理解）

科目名	科目区分	単位	学年	科目概要	到達目標（成績評価A）	単位修得目標（成績評価C）
ヨーロッパの歴史Ⅱ	国際学部 専門科目	2	2・3	この講義では、対立と統合が織りなすヨーロッパの歴史のなかで、とりわけ近現代に焦点を当てる。フランス革命以降の国民国家と市民社会の形成、帝国主義と階級社会、二度にわたる世界大戦と安全保障の試み、民主主義の危機、そしてヨーロッパ統合をめぐる求心力と遠心力。現在のヨーロッパを理解するために不可欠な歴史のプロセスについて取り上げ、考察する。	現在のヨーロッパのあり方を歴史的経緯から理解し、その政治、社会的側面について、具体的な例に基づき正確に説明することができる。（知識・理解）	現在のヨーロッパのあり方を歴史的経緯から理解し、その政治、社会的側面について説明することができる。（知識・理解）
表象文化論Ⅴ（アメリカ）	国際学部 専門科目	2	2・3	多民族社会が生んだエスニック演劇、意識変革を追求したフェミニストやゲイ演劇、グローバル・ビジネス化するエンターテインメントを取り上げて、多民族国家アメリカが主流文化と対抗文化の衝突、共存、混合、混在の過程を繰り返しながらナショナル・アイデンティティを追求してきた様相を考察する。大衆文化とテクノロジーを活用し、新しい自由な芸術の概念を極端にまで実践し続けるアメリカの芸術の魅力と功罪も分析する。	・アメリカの様々な文化的事象を取り上げ、多民族社会アメリカの状況を検討することができる。（思考・判断・表現） ・アメリカの社会や文化に関する基礎的な知識を深めることができるようになる。（知識・理解）	・アメリカの様々な文化的事象を取り上げ、多民族社会アメリカの状況を検討することができる。（思考・判断・表現） ・アメリカの社会や文化に関する基礎的な知識を最低限得ることができるようになる。（知識・理解）
アメリカの文学	国際学部 専門科目	2	2・3	17世紀の植民地時代から現在にいたるアメリカ文学を通して、アメリカ社会や文化の流れや全体像を明らかにする。各時代を代表するテキストを歴史的、社会的文脈に即して読み解きながら、同時代の関連芸術や大衆文化との関連についても検討し、アメリカの歴史や思想など背景となる基礎的知識を深める。また、アフリカ系、アジア系、ヒスパニック系など様々なマイノリティ作家の作品も取り上げることで、アメリカ文学の多様性や現代性を探る。	アメリカ文学を通じて、各テキストに映し出された時代や社会の変化を探り、アメリカ社会に対する理解を深めることができるようになる。（知識・理解）	アメリカ文学を通じて、各テキストに映し出された時代や社会の変化を探り、アメリカ社会に対する理解を最低限得ることができるようになる。（知識・理解）
アメリカの社会Ⅰ	国際学部 専門科目	2	2・3	日本に住むわれわれにとって「アメリカ」は身近な存在である。コカコーラやマクドナルド、ディズニーやスタバまで、アメリカ文化はわれわれの日常生活に浸透している。さらに、かつて敵国として戦火を交えた国であるにもかかわらず、戦後の日本は先進国の中で最もアメリカに対する好感度が高い国でもある。しばしば日米関係は外交や貿易といった側面から語られるが、こうした現象は政治外交や経済上の関係だけでは理解することはできない。そのため、この授業では現在のわれわれにとっての「アメリカ」を考えるために、日本と米国の文化交流の歴史を学ぶ。その際、日本からのみの視点ではなく、アメリカ人が日本文化をどのように経験したのか、という点にも着目し、日本とアメリカがどのようにお互いを見て、理解し、付き合ってきたのか、考察する。	・現在の日米関係を文化交流の歴史という観点から理解できるようになる。（知識・理解） ・近代以降の日本とアメリカ合衆国の文化がいかに相互の影響のなかで形成されたかを理解できるようになる。（知識・理解）	・現在の日米関係を文化交流の歴史という観点から最低限理解できるようになる。（知識・理解） ・近代以降の日本とアメリカ合衆国の文化がいかに相互の影響のなかで形成されたかを最低限理解できるようになる。（知識・理解）
アメリカの社会Ⅱ	国際学部 専門科目	2	2・3	アメリカ合衆国を構成している様々な人種・民族集団（エスニック・グループ）とその文化、そうした集団間の関係、諸集団と国家との関係、多様性と統合という相反するベクトルと文化のダイナミズムなど、文化的側面からのアメリカ社会の理解を試みる。前半は通時的に、多様な人々がいつ頃どのようにアメリカ大陸にやってきたのかを概観し、後半では共時的に、エスニックな諸文化のありよう、諸文化間の関係、そうした下位文化と国民文化との対抗関係や相互関係などについて論じる。	アメリカ合衆国を、広く社会的、文化的側面から論じることで、より総合的でホリスティックな理解ができるようになる。（知識・理解）	アメリカ合衆国を、広く社会的、文化的側面から論じる姿勢を身につけ、より総合的でホリスティックな理解が最低限できるようになる。（知識・理解）
アメリカの社会Ⅲ	国際学部 専門科目	2	2・3	日本の政治や社会との比較も取り入れながら、現在のアメリカの政治や社会を考察するための基礎的な知識や枠組みを身につける。また、民主主義の制度がどのようなもので、民主主義が機能するためには政治や社会がどのようなものである必要があるかに関する理解も深める。	現在のアメリカの政治や社会、および民主主義の諸制度について、基礎的な知識を身につけ、理解できる。（知識・理解）	現在のアメリカの政治や社会、および民主主義の諸制度について、最低限の基礎的な知識を身につけ、考察することができる。（知識・理解）
アメリカの政治経済	国際学部 専門科目	2	2・3	アメリカの環境政策、特に自然保護政策は官僚でなく市民が牽引してきたことや、環境という現代的な課題について合衆国憲法が明記していないことの制約といった、アメリカ独特の政治過程の特色を理解する。政治主導のアメリカ型の政策決定のメリットと問題点を理解することにより、官僚主導から政治主導に転換しつつある今後の日本のあり方について考察する。	1. アメリカの環境政策、特に自然保護政策は官僚でなく市民が牽引してきたことや、環境という現代的な課題について合衆国憲法が明記していないことの制約といった、アメリカ独特の政治過程の特色を十分に説明できる。（知識・理解） 2. 政治主導のアメリカ型の政策決定のメリットと問題点を理解することにより、官僚主導から政治主導に転換しつつある今後の日本のあり方について、自分の考えを十分に説明できる。（思考・判断・表現）	1. アメリカの環境政策、特に自然保護政策は官僚でなく市民が牽引してきたことや、環境という現代的な課題について合衆国憲法が明記していないことの制約といった、アメリカ独特の政治過程の特色を最低限説明できる。（知識・理解） 2. 政治主導のアメリカ型の政策決定のメリットと問題点を理解することにより、官僚主導から政治主導に転換しつつある今後の日本のあり方について、自分の考えを最低限説明ができる。（思考・判断・表現）
アメリカ文化論Ⅹ（比較文化）	国際学部 専門科目	2	3・4	北アメリカに存在する二つの国家、カナダとアメリカ合衆国は、毎年多くの移民を受け入れ、多民族・多文化国家としての共通性を持つ。しかしながら、その社会的な統合形態には大きな違いが見られる。授業では、カナダとアメリカ合衆国の社会・文化論の系譜、および今日の社会的・文化的実態を学ぶ。その際、両国で社会的な統合形態の違いが生まれた理由を、それを形作った歴史との関係で理解する。	1. カナダとアメリカ合衆国における民族的・文化的多様性の実態を説明することができる。（知識・理解） 2. カナダとアメリカ合衆国における社会的な統合形態の違いを、両国の歴史的発展と関連づけて説明することができる。（知識・理解） 3. カナダとアメリカ合衆国を参考に、日本における民族的・文化的多様化への対応や共存のあり方について自身の考えを示すことができる。（思考・判断・表現）	1. カナダとアメリカ合衆国における民族的・文化的多様性の例を挙げることができる。（知識・理解） 2. カナダとアメリカ合衆国における社会的な統合形態の違いを説明することができる。（知識・理解） 3. カナダとアメリカ合衆国を参考に、日本における民族的・文化的多様化への対応や共存のあり方について自身の考えを示すことができる。（思考・判断・表現）
アメリカ地域論Ⅰ（北米）	国際学部 専門科目	2	2・3	アメリカ文化はわれわれにとって馴染み深く、時にそれをアメリカのものとして意識することさえなく日常の中で受容している。この授業は、アメリカ文化のさまざまなトピックをアメリカ合衆国の歴史的な文脈や社会的状況において考察することを通じて、それぞれのトピックが持つアメリカ的特質を明らかにすると共に、その背後にあるアメリカの歴史や社会への理解を深めることを目的とする。	・さまざまなトピックの考察を通じて、西洋や日本とは異なる歴史・社会的文脈の中で成立したアメリカ文化の特質を理解できるようになる。（知識・理解） ・アメリカ文化の成立を歴史的な観点から学ぶことによって、文化史的手法を用いてアメリカ文化を分析できるようになる。（思考・判断・表現） ・われわれの日常生活の中に溶け込んでいるアメリカ文化について、そのアメリカ的特質を学ぶことを通じてその自明性を相対化すると共に、日本におけるアメリカ文化の日本化についても意識することができるようになる。（思考・判断・表現）	・さまざまなトピックの考察を通じて、西洋や日本とは異なる歴史・社会的文脈の中で成立したアメリカ文化の特質を最低限理解できるようになる。（知識・理解） ・アメリカ文化の成立を歴史的な観点から学ぶことによって、文化史的手法を用いてアメリカ文化を最低限分析できるようになる。（思考・判断・表現） ・われわれの日常生活の中に溶け込んでいるアメリカ文化について、そのアメリカ的特質を学ぶことを通じてその自明性を相対化すると共に、日本におけるアメリカ文化の日本化についても最低限意識することができるようになる。（思考・判断・表現）

科目名	科目区分	単位	学年	科目概要	到達目標（成績評価A）	単位修得目標（成績評価C）
アメリカ地域論Ⅲ（中南米）	国際学部 専門科目	2	3・4	多様な歴史と文化を有する中南米地域を包括的に概観する。マヤ、アステカ、インカなどの古代文明から現代の中南米各国の政治、経済、社会および文化までを対象とする。政治、経済および文化において特に影響力を持つメキシコ、ブラジルおよびアルゼンチンに力点を置きつつ、特色ある政治経済や文化の事例につき周辺地域のそれも視野に入れる。宗教や言語を共有する国が多い一方で、国別および国内地域ごとに独特の文化を発展させてきたことの理解を目指す。	・中南米（ラテンアメリカおよびカリブ地域）の「現代史」を軸に、その社会の各側面を解説し、理解することができる。（知識・理解） ・同時に各テーマごとに行うプレゼンテーションとディスカッションを通じて、日本では必ずしも正確に伝わっているとは言い難いこの世界を正しく理解できるようになる。（思考・判断・表現）	・中南米（ラテンアメリカおよびカリブ地域）の「現代史」を軸に、その社会の各側面を解説を試み、最低限理解することができる。（知識・理解） ・同時に各テーマごとに行うプレゼンテーションとディスカッションを通じて、日本では必ずしも正確に伝わっているとは言い難いこの世界を最低限理解できるようになる。（思考・判断・表現）
国際特論Ⅱ	国際学部 専門科目	2	2・3・4	国際特論はコースの専攻分野に軸を置きながらも、より専門的なテーマをコース横断的な視点で取り上げる。この国際特論Ⅱでは、コミュニケーション・スタディーズ・コースの専攻分野を軸として、エリア・スタディーズあるいはグローバル・スタディーズの両コースの専攻分野と関連させながら、いくつかのテーマについて考察し、多角的な視点からの理解を深めていく。	コミュニケーション・スタディーズ・コースの専攻分野に関わるテーマについて、他コースの専攻分野との共通点や相違点など関連性を明確にしなが理解し、説明することができる。	コミュニケーション・スタディーズ・コースの専攻分野に関わるテーマについて、他コースの専攻分野との共通点や相違点など関連性を明確にしなが理解することができる。
国際特論Ⅲ	国際学部 専門科目	2	2・3・4	国際特論はコースの専攻分野に軸を置きながらも、より専門的なテーマをコース横断的な視点で取り上げる。この国際特論Ⅲでは、グローバル・スタディーズ・コースの専攻分野を軸として、エリア・スタディーズあるいはコミュニケーション・スタディーズの両コースの専攻分野と関連させながら、いくつかのテーマについて考察し、多角的な視点からの理解を深めていく。	グローバル・スタディーズ・コースの専攻分野に関わるテーマについて、他コースの専攻分野との共通点や相違点など関連性を明確にしなが理解し、説明することができる。	グローバル・スタディーズ・コースの専攻分野に関わるテーマについて、他コースの専攻分野との共通点や相違点など関連性を明確にしなが理解することができる。
第2言語習得論	国際学部 専門科目	2	1・2	人はどのようにして第二言語を学ぶのか、第二言語習得の代表的な理論を理解する。第一言語（母語）ではない言語（第二言語、外国語）を私たち（学習者）がどのような過程を経て習得（学習）するのかを、母語と第二言語の関係、学習者の年齢、認知力、言語適正などが言語習得に及ぼす影響、学習者の環境（目標言語が使用される環境下にいるかどうか）が言語習得に及ぼす影響などの観点から考察する。また、第二言語習得論の基礎的な知識をもとにして、実際の言語習得のプロセスやそれにかかわる具体的事象を分析する。	1. 学問の窓を通して〈ことばを学ぶ〉〈ことばを教える〉メカニズムを体系的に理解することができる。（知識・理解） 2. 様々な先行研究に触れながら、最終的には〈ことばを学ぶ〉〈ことばを教える〉スキルを身につけることができる。（技術） 3. 理論に裏付けされた英語学習・指導は着実な成果を上げることが出来る。（関心・意欲・態度）	1. 学問の窓を通して〈ことばを学ぶ〉〈ことばを教える〉基本的なメカニズムを理解することができる。（知識・理解） 2. 様々な先行研究に触れながら、最終的には〈ことばを学ぶ〉〈ことばを教える〉スキルを身につけることができる。（技術） 3. 理論に裏付けされた英語学習・指導は着実な成果を上げることが出来る。（関心・意欲・態度）
コミュニケーション論Ⅰ（ジェンダー）	国際学部 専門科目	2	2・3	世界のことばの中には男女差があることが知られている。本講では、ことばとジェンダーの研究に焦点を当て、1) 社会全般におけるフェミニズム運動に連動した研究、2) 社会言語学における性差研究、3) 人類学による民族誌学的研究のデータを言語学や社会言語学の立場から再構築した研究の3つの潮流について学習する。さらにテレビ、映画、新聞雑誌、広告、漫画や実際の会話を題材に、男女がどのように表現されているか、またどのようにことばを使用しているかを分析し、その背景となる文化・社会とのかかわりを考察する。	日英語における男女の言語使用の違いが社会の中の性役割をどのように反映しているかを解明できるようになる。（知識・理解）	日英語における男女の言語使用の違いを認識する。（知識・理解）
コミュニケーション論Ⅱ（通訳・翻訳）	国際学部 専門科目	2	3・4	原語と訳語を時を移さずに口頭で結びつける「通訳」と、文書に盛り込まれた伝達内容を時間的なゆとりを持ち、言語の壁を越えて運ぶ「翻訳」について学習する。通訳では、会議通訳、同時通訳、逐次通訳、ウィスパー通訳、リレー通訳、ビジネス通訳、放送通訳、法廷通訳、シャドウイング、リテンション、サイト・トランスレーションなどを、翻訳では、直訳、逐語訳、意訳、説明訳、音訳、重訳、聖書翻訳、字幕翻訳、等価性、創造的転換、解釈と翻訳などを理解し、実際に通訳・翻訳練習を行う。	1. 通訳における重要概念や手法を理解し、説明することができる。（知識・理解） 2. 翻訳における重要概念や手法を理解し、説明することができる。（知識・理解） 3. 実際の通訳・翻訳において、授業で学んだ知識やスキルを反映させることができる。（技能）	1. 通訳における重要概念や基礎的な手法を理解し、説明することができる。（知識・理解） 2. 翻訳における重要概念や基礎的な手法を理解し、説明することができる。（知識・理解） 3. 実際の通訳・翻訳において、授業で学んだ基礎的な知識やスキルを反映させることができる。（技能）
コミュニケーション論Ⅲ（映像メディアと情報）	国際学部 専門科目	2	3・4	従来の新聞やラジオ、テレビに加えて、インターネットやSNSといった新しいメディアの普及が、私たちのコミュニケーションのあり方をどのように変えたのかを学ぶ。従来のマスメディアは一方向的に情報を発信する傾向が強かったが、近年は「視聴者参加型」という双方向性を強調する傾向にある。他方、パーソナルメディアであるパソコンや携帯電話は、例えばホームページやブログを通してマスメディアの世界を創出している。授業では、マス/パーソナルの二分法を見直し、メディアと情報の関係について新たな理解を試みる。	1. メディアの歴史やその変遷について理解し、説明することができる。（知識・理解） 2. 新しいメディアの普及が、コミュニケーションに及ぼす影響を与えたのかについて、身近な具体例と結びつけながら説明することができる。（思考・判断・表現） 3. メディアと情報の関係について、従来の理論と今日的な理解を説明することができる。（知識・理解）	1. メディアの歴史やその変遷を表す基本的な事項を説明することができる。（知識・理解） 2. 新しいメディアの普及が、コミュニケーションに及ぼす影響を与えたのかを説明することができる。（知識・理解） 3. メディアと情報の関係について、従来の理論とその問題を説明することができる。（知識・理解）
コミュニケーション論Ⅳ（ジャーナリズム）	国際学部 専門科目	2	3・4	ジャーナリズムは、メディアの「知」を形成する。授業ではコミュニケーションの観点からメディアをとらえ、その方法、歴史、実践という3つの視点から社会との関わりを理解する。方法については、メディア理論、新聞学、メディア革命など、歴史については、新聞と近代ジャーナリズム、電話、映画の誕生、ラジオ、テレビ、そしてインターネットの誕生、実践については、パソコンや携帯電話と社会、グローバル・メディア、メディアを変革する知などについて学ぶ。	1. コミュニケーションの観点から、メディアの方法について包括的に理解し、説明することができる。（知識・理解） 2. コミュニケーションの観点から、メディアの歴史の変遷を包括的に理解し、説明することができる。（知識・理解） 3. コミュニケーションの観点から、メディアの実践を包括的に理解し、説明することができる。（知識・理解）	1. コミュニケーションの観点から、メディアの方法について基本的な事項を理解し、説明することができる。（知識・理解） 2. コミュニケーションの観点から、メディアの歴史の変遷について基本的な事項を理解し、説明することができる。（知識・理解） 3. コミュニケーションの観点から、メディアの実践について基本的な事項を理解し、説明することができる。（知識・理解）
コミュニケーション論Ⅴ（日本）	国際学部 専門科目	2	2・3	アジア諸国において、円滑なコミュニケーション関係を築いていくために、どのようなことが重要であるか、日本と諸外国の文化の比較しながら考える。円滑なコミュニケーションの方法として、言語に視点を置くだけでなく、表情・しぐさ・化粧や対人距離などを含む、非言語的要素との相補作用に着目し、理解を深める。	・コミュニケーションを成立させるために必要なさまざまな知見と配慮について理解し、説明することができる。（知識・理解） ・自己と他者との違いを自覚したうえで、より良いコミュニケーションの実現に主体的に取り組むことができる。（関心・意欲・態度）	・コミュニケーションを成立させるために必要な基本的な知見と配慮について理解し、説明することができる。（知識・理解） ・自己と他者との違いを自覚したうえで、より良いコミュニケーションの実現を目指すことができる。（関心・意欲・態度）

科目名	科目区分	単位	学年	科目概要	到達目標（成績評価A）	単位修得目標（成績評価C）
コミュニケーション論 VI（中国）	国際学部 専門科目	2	2・3	中国に行った日本人はよく中国或いは中国人を自分たちと同じ価値観で物事を判断する傾向がある。しかし、漢字を共に使用する日本人と中国人では、文化・発想・行動様式等においては大きな違いがある。この授業は中国・日本を座標軸として、「言語コミュニケーション」「非言語コミュニケーション」「異文化コミュニケーション」という三つのテーマに分けて比較的な視点で中国語と日本語または中国文化と日本文化の相違について学習していく。	日中の言語的または文化的な違いや特徴を習得し、漢字圏におけるコミュニケーションに関する知見を深め、社会に出て活躍する際、アジア諸国の人々との交流に役立つ人材としてのスキルが向上できるようになる。（知識・理解）	中国語と日本語または中国文化と日本文化の相違や特徴を最低限説明することができる。（知識・理解）
コミュニケーション論 VIII（アメリカ）	国際学部 専門科目	2	2・3	アメリカ英語をより効果的に使えるようになるためにはアメリカ英語の社会的、文化的背景を理解することが必須である。本講ではアメリカの文化的、社会的要素と言語の多様性との関係、地域方言、人種方言、黒人英語、男女差、敬語、比喩、擬声語、擬態語、広告英語、二言語教育、公用語化運動などについて理解する。	アメリカ英語の諸特徴を学ぶことで、その社会的、文化的背景をよりよく理解することができるようになる。（知識・理解）	アメリカ英語の諸特徴を理解する。（知識・理解）
ヨーロッパの国際関係 II	国際学部 専門科目	2	2・3	欧州の国際的地域法・行政共同体であり、「前例なき政体」と呼ばれるEU（欧州連合）の制度と政策決定過程の基礎知識を習得し、EUの法規形成、各分野の域内政策、グローバル・アクター、シヴィリアン・パワーとしての国際的影響力について考察する。また、EUとともに欧州および近隣地域の国際秩序形成に貢献しているNATO（北大西洋条約機構）、COE（欧州評議会）とEUの関係についても考察する。	EU（欧州連合）の制度と政策決定過程について、国際的地域法・行政共同体としての特性を指摘しつつ、総合的に説明できる。	EU（欧州連合）の制度と政策決定過程について、基本的な事項を説明できる。
アメリカと世界 I	国際学部 専門科目	2	2・3	20世紀のアメリカと国際社会との関わりを、アメリカ的な価値観や国際関係の枠組みの追求といった観点から概観するとともに、特に第二次世界大戦から1970年代にかけてのアメリカの対外政策と世界の他地域との政治経済的、軍事的な関係に関する理解を深める。	第二次世界大戦から1970年代にかけてのアメリカの対外政策と世界の他地域との政治経済的、軍事的な関係に関するさまざまな事実について理解できる。（知識・理解）	第二次世界大戦から1970年代にかけてのアメリカの対外政策と世界の他地域との政治経済的、軍事的な関係に関する基礎的な事実について最低限理解できる。（知識・理解）
アメリカと世界 II	国際学部 専門科目	2	2・3	「アメリカと世界II」で学んだ第二次世界大戦以降のアメリカの対外関係の特徴を踏まえ、1970年代から「冷戦」後のアメリカの対外政策と世界の他地域との政治経済的、軍事的な関係に関する理解を深める。	1970年代から「冷戦」後のアメリカの対外政策と世界の他地域との政治経済的、軍事的な関係に関するさまざまな事実について理解できる。（知識・理解）	1970年代から「冷戦」後のアメリカの対外政策と世界の他地域との政治経済的、軍事的な関係に関する基礎的な事実について最低限理解できる。（知識・理解）
イスラムと国際関係 I	国際学部 専門科目	2	3・4	イスラム教圏における国家と地域秩序のあり方について基礎的知識を身につけるとともに、とりわけ20世紀における中東地域とヨーロッパを中心とする国々とイスラム諸国との関係の歴史に力点を置いて概観する。こうした作業を通じて20世紀後半において多くの紛争や問題を抱えることとなった中東の国際関係の特質を、歴史的・文化的背景を踏まえて理解する力を養うことを目指す。	イスラム教圏における国家と地域秩序のあり方、20世紀のヨーロッパを中心とする国々とイスラム諸国との関係、そして20世紀後半における中東の紛争や国際関係の特質について理解できる。（知識・理解）	イスラム教圏における国家と地域秩序のあり方、20世紀のヨーロッパを中心とする国々とイスラム諸国との関係、そして20世紀後半における中東の紛争や国際関係の特質について最低限の知識を身につける。（知識・理解）
イスラムと国際関係 II	国際学部 専門科目	2	3・4	パレスチナ問題と中東和平の模索、イスラム原理主義をめぐる地域内および先進国との対立、中東をめぐる国際的な経済権益と湾岸戦争以降のイラク情勢を含む中東地域の様々な変化や中東地域への他国の関わり方の変遷を考察することにより、今日の国際社会が中東をめぐる抱える諸問題に関する理解を深める。	パレスチナ問題と中東和平の問題、イスラム原理主義をめぐる諸国家間の対立、中東をめぐる国際的な経済権益、湾岸戦争以降の中東をめぐる諸問題について理解できる。（知識・理解）	パレスチナ問題と中東和平の問題、イスラム原理主義をめぐる諸国家間の対立、中東をめぐる国際的な経済権益、湾岸戦争以降の中東をめぐる諸問題について最低限の知識を身につける。（知識・理解）
ミクロ経済学 I	国際学部 専門科目	2	2・3	ミクロ経済学とマクロ経済学は、経済学の研究が始まって以来経済学を代表する二大研究分野です。名前から想像出来るように、マクロ経済学は、GDP、失業率、インフレ率など経済全体の事象を議論するのに対し、ミクロ経済学は、ミクロの経済主体（個人や1企業）の合理的な意思決定とミクロの経済主体同士の相互依存的な関わりを議論します。このミクロ経済学Iでは、1. 企業の利潤最大化理論（ある企業が、既に持っている生産技術で、どれ位の製品を生産するのが最適か？）2. 消費者の効用最大化理論（ある人が、限られた予算の下、何をどれ位購入するのがその人にとって最も幸福をもたらす結果になるのか？）3. 市場の自由な競争に任せておいたのでは、望ましくない結果が起きてしまうという市場の失敗が起こる場合、いかにして社会的に望ましい状態に政府は導いていくべきなのか？といった事柄を取り上げます。これらの事柄を学ぶことによって、近代経済学の基礎となっているミクロ経済学の分析方法を習得し、他の経済学を学ぶ際の礎を築くことが出来るはずです。	1. 企業の利潤最大化理論、消費者の効用最大化理論など、生産技術や予算といった制約下での最適化理論を学び、自分で演習問題を解けるようになる。（知識・理解）(技能) 2. 生産者余剰・消費者余剰という概念を用いて、政府の政策の変化が経済に与える影響をグラフを用いて分析出来るようになる。（知識・理解）(技能) 3. 外部性・公共財といった財・サービスの場合、市場の自由な競争に任せておいたのでは、いかにして市場の失敗と呼ばれる社会的に望ましくない事態に陥るのか？政府は、この市場の失敗を政策を用いてどのように社会的に望ましい状態に導いていくべきかを理解し、知識を応用して、現実の問題を分析出来るようになる。（知識・理解）(技能)(思考・判断・表現) 4. この講義を通して、身近な問題を分析して最適解を導くことの出来る手法を身に付けることにより、経済学のおもしろさを味わう。	1. 企業の利潤最大化理論、消費者の効用最大化理論など、生産技術や予算といった制約下での最適化理論を学び、自分で演習問題を解けるようになる。（知識・理解）(技能) 2. 生産者余剰・消費者余剰という概念を用いて、政府の政策の変化が経済に与える影響を理解する（知識・理解）(技能) 3. 外部性・公共財といった財・サービスの場合、市場の自由な競争に任せておいたのでは、いかにして市場の失敗と呼ばれる社会的に望ましくない事態に陥るのか？政府は、この市場の失敗を政策を用いてどのように社会的に望ましい状態に導いていくべきかを理解し、説明出来るようになる。（知識・理解）(技能)(思考・判断・表現) 4. この講義を通して、身近な問題を分析して最適解を導くことの出来る手法を身に付けることにより、経済学のおもしろさを味わう。
マクロ経済学	国際学部 専門科目	2	2・3	マクロ経済学は、1企業や1個人の集合体である経済全体を分析する学問です。ミクロ経済学は、1企業や1個人の合理的な意思決定を考え、企業の利潤最大化・消費者の効用(幸せ)最大化理論を身につけるのに対し、マクロ経済学では、経済成長、失業、インフレなど国レベルの経済現象を取り上げ、その背後にある理論を学びます。それに加えて、政府の財政政策や中央銀行による金融政策がその国、及び外国に経済に与える影響についても議論します。これらの理論を学ぶと、世の中の動き・仕組みがよく理解できるようになるだけでなく、自分で世の中の出来事を経済学的に分析する力を身に付けるようになるはずです。	1. 失業・物価・経済成長の背後にある理論を理解する。（知識・理解） 2. 財政政策・金融政策が閉鎖経済と開放経済の下で与える効果を理解し、自ら説明出来る。（知識・理解）(思考・判断・表現)(技能) 3. この講義を通して、経済の動きや仕組みを理解することにより経済学のおもしろさを味わう。（思考・判断・表現） 4. 自分の力で世界の出来事を経済学的に分析出来るようになる。（思考・判断・表現）(技能)	1. 失業・物価・経済成長の背後にある理論を理解する。（知識・理解） 2. 財政政策・金融政策が閉鎖経済と開放経済の下で与える効果を理解し、自ら説明出来る。（知識・理解）(思考・判断・表現)(技能) 3. この講義を通して、経済の動きや仕組みを理解することにより経済学のおもしろさを味わう。（思考・判断・表現）
ヨーロッパの経済	国際学部 専門科目	2	2・3	今日、世界的には経済のグローバル化が急速に進展しているが、かたや各地域では、近隣諸国間の地域統合の試みが続いている。第二次世界大戦後、後者の先駆者であり最大の成功例として、後続する地域統合の模範となったのがEUである。ヨーロッパでは、EU統合が地域的な拡大と深化を続け、多様性を包摂しつつも、単一経済圏への収斂の歩みを進めている。講義では、その歴史的な歩みと現状、またその主要加盟諸国の経済動向、近年噴出した南欧諸国の財政危機・ユーロ危機問題、加えて近隣の中・東欧諸国の経済状況とEUとの関係、EUをめぐる様々な企業活動等についても概観する。講義を通してヨーロッパの経済とEU統合に関する幅広い知識の習得、並びに包括的理解を目指す。	・ 欧州経済について、EU統合の視点から、その歴史的経緯と現状、そして直面する諸問題、諸課題等について理解できるようになる。（知識・理解） ・ EU統合が進む欧州経済の、世界の他地域経済との違い・特徴などについて理解できるようになる。（知識・理解） ・ 講義内容を踏まえ、今後のEUの動向について自分なりの考えを確立し、講義後もEUの動向を注視するようになる。（思考・判断・表現）(関心・意欲・態度)	・ 欧州経済について、EU統合の視点から、その歴史的経緯と現状、そして直面する諸問題、諸課題等について理解できるようになる。（知識・理解） ・ EU統合が進む欧州経済の、世界の他地域経済との違い・特徴などについて理解できるようになる。（知識・理解）

科目名	科目区分	単位	学年	科目概要	到達目標（成績評価A）	単位修得目標（成績評価C）
国際マーケティング	国際学部 専門科目	2	2・3	企業が海外進出先固有の市場構造、政府と民間企業との関係などを踏まえた国際マーケティングの手法を、事例を参考としつつ学ぶ。まず国際マーケティング理論の基礎を習得し、企業の国際化、経営戦略やマーケティングに関する理論・概念を学び、理解する。そのうえで、企業の実際の国際マーケティングの事例を取り上げて、理論・概念の理解を深める。	1. 企業の国際化・経営戦略・マーケティングなどに関する国際マーケティング理論の基礎を習得し、海外に進出した企業が進出先固有の市場構造、政府との関係を所与としていかにマーケティングを行うのかというマーケティングの手法を身に付ける。（知識・理解）	1. 企業の国際化・経営戦略・マーケティングなどに関する国際マーケティング理論の基礎を身に付ける。（知識・理解）
国際文化交流論	国際学部 専門科目	2	3・4	国際協力に関する専門的知識を獲得し、体系的な理解を深める一環として、国際文化交流事業の現状と課題を理解する。日本外交において文化交流事業が果たす役割や当面の課題につき考察する。	1. 国際文化交流事業の現状と課題について十分な説明ができる。（知識・理解） 2. 日本外交において文化交流事業が果たす役割や当面の課題について、自分の考えを十分に説明できる。（思考・判断・表現）	1. 国際文化交流事業の現状と課題について最低限の説明ができる。（知識・理解） 2. 日本外交において文化交流事業が果たす役割や当面の課題に関する自分の考えについて、最低限の説明ができる。（思考・判断・表現）
国際環境協力論	国際学部 専門科目	2	3・4	国際協力に関する専門的知識と体系的な理解を深める一環として、国際環境協力・国際貢献の個別分野のポイントを理解する。国際環境協力・国際貢献の個別分野を掘り下げて、日本が何をすべきかについて考察する。今まで学んできた国際関係、国際経済、国際協力の知識に基づく広い視野で、授業で取り上げる環境国際協力の個別テーマにアプローチして、上級学年らしく、専門知識に基づいて自分なりに考察する。	1. 国際協力に関する専門的知識と体系的な理解を深める一環として、国際環境協力・国際貢献の個別分野のポイントを十分に説明できる。（知識・理解） 2. 国際環境協力・国際貢献の個別分野を掘り下げて、日本が何をすべきかについて、自分の考えを十分に説明できる。（思考・判断・表現） 3. 今まで学んできた国際関係、国際経済、国際協力の知識に基づく広い視野で、授業で取り上げる環境国際協力の個別テーマにアプローチして、上級学年らしく、専門知識に基づいて自分なりの考察を十分に説明できる。（思考・判断・表現）	1. 国際協力に関する専門的知識と体系的な理解を深める一環として、国際環境協力・国際貢献の個別分野のポイントについて最低限の説明ができる。（知識・理解） 2. 国際環境協力・国際貢献の個別分野を掘り下げて、日本が何をすべきかに関する自分の考えについて、最低限の説明ができる。（思考・判断・表現） 3. 今まで学んできた国際関係、国際経済、国際協力の知識に基づく広い視野で、授業で取り上げる環境国際協力の個別テーマにアプローチして、上級学年らしく、専門知識に基づいて自分なりの考察を最低限の説明ができる。（思考・判断・表現）
開発経済学	国際学部 専門科目	2	2・3	開発経済学は、生産資源の効率的配分と生産（所得）の持続的成長を課題とする先進国の主流派経済学（新古典派）や経済的意思決定における権力の役割から経済と制度・政治の関係を究明する政治経済学などの射程を超えて、貧困に喘ぐ多くの人々の生活水準の早急かつ大幅な向上を図るために必要な公共・民間の経済、社会、政治、文化、制度上のシステムを対象とする。本講義では開発政治経済論を含めて、開発経済学を体系的に解題する。	・世界人口の4分の3が住む、開発途上国を特徴付けている「貧困」（物質的・非物質的）の背景にある経済社会問題の本質を理解することができる。（知識・理解） ・開発のあるべき方途を考えることができるようになる。（思考・判断・表現）	・途上国の政治・経済・社会の特徴を説明できる。 ・戦後の開発政策の変遷を説明できる。 ・途上国と地球環境・資源問題の関わりを説明できる。 ・ODA, フェアトレード, BOP, マイクロファイナンスなどの効果と限界を考え、論じることができる
平和構築論	国際学部 専門科目	2	2・3	国連やPKOの活動、自衛隊による国際貢献、軍縮問題を概観したうえで、グッド・ガバナンスの概念や、民主化とガバナンス・汚職対策に対する支援の様々な方策について学び、その上で、中東和平や中東における民主化運動の事例を紹介する。	・国連やPKO、自衛隊の国際貢献、軍縮の枠組み、グッド・ガバナンスの考え方、開発途上国の持続可能な開発にとり必要不可欠な民主化とガバナンスに対する支援の方策や課題について理解できるようになる。（知識・理解） ・世界の平和と安定に対する国際社会や日本の国際貢献のあり方を考えられるようになる。（思考・判断・表現）	・国連やPKO、自衛隊の国際貢献、軍縮の枠組み、グッド・ガバナンスの考え方、開発途上国の持続可能な開発にとり必要不可欠な民主化とガバナンスに対する支援の方策や課題についての理解をある程度深めることができる。（知識・理解） ・世界の平和と安定に対する国際社会や日本の国際貢献のあり方をある程度考えられるようになる。（思考・判断・表現）
国際人権論	国際学部 専門科目	2	2・3	国際社会において、人権の保護という観点を重視するようになったのは、第二次大戦後のことである。この講義は、国際的な人権保護について取り扱う。すなわち、いかにして、国際的に人権の保護がおこなわれるようになったのかを学ぶ。難民や外国人労働者などのマイノリティに属する人々の人権保護の問題のみならず、女性、子ども等の人権保護について、国際的な規定や履行方法、および現代国際社会の持つ問題点について理解を深める。	国籍に関する各国の国内法状況について具体的に説明ができる。外国人に関する国際私法および国際公法上の保護について説明できる。難民をめぐる国際法規範について歴史的に関連付けて説明できる。国際人権条約の履行確保について、条約を解釈適用できる。国連や地域的機関による国際的な人権保障について総合的に比較し、一般化することができる。	国籍に関する基本的な原則を列挙できる。外国人に関する法規則について比較することができる。国際人権条約について例をあげることができ、その履行確保の基本的状況を説明できる。国連および地域機関による人権保障制度について基本事項を述べることができる。
国際協力特講Ⅲ（観光・文化財保護・まちづくり）	国際学部 専門科目	2	3・4	文化財や文化遺産保護と環境の問題、及び地域社会や観光開発との関係をめぐる様々な問題に関して知識を深め、この分野における国際協力のあり方や、地域主導の動きなどを理論や政策から実践まで包括的に理解する。	文化財や文化遺産保護と環境の問題、及び地域社会や観光開発との関係をめぐる様々な問題に関する十分な知識に基づき、この分野における国際協力のあり方や、地域主導の動きなどを理論や政策から実践まで包括的に説明できる。（知識・理解）	文化財や文化遺産保護と環境の問題、及び地域社会や観光開発との関係をめぐる様々な問題に関する知識に基づき、この分野における国際協力のあり方や、地域主導の動きなどを理論や政策について最低限の説明ができる。（知識・理解）
国際協力特講Ⅳ（社会協力）	国際学部 専門科目	2	3・4	国際協力機構（JICA）の実施しているプロジェクトの事例も参考にしつつ、政府開発援助（ODA）を中心とした国際協力の現状と課題について学ぶ。講義では、特に、難民問題、危機遺産、対人地雷問題、小型武器問題、環境問題、食料問題などの人間の安全保障に深く関わる課題への取り組みのあり方について考察する。	・人間の安全保障の考え方や、紛争、対人地雷、環境、小型武器等、人間に与える様々な脅威の概要、及び、これらの脅威に対する国際社会やJICAの対応について理解できるようになる。（知識・理解） ・人間の安全保障を推進するための日本の開発援助のあり方について考えられるようになる。（思考・判断・表現）	・人間の安全保障の考え方や、紛争、対人地雷、環境、小型武器等、人間に与える様々な脅威の概要、及び、これらの脅威に対する国際社会やJICAの対応についての理解をある程度深めることができる。（知識・理解） ・人間の安全保障を推進するための日本の開発援助のあり方についてある程度考えられるようになる。（思考・判断・表現）
政治学特論	国際学部 専門科目	2	2・3・4	国際社会が直面する時事的な政治課題を取り上げて概観する。具体的なテーマは、定期的にタイムリーなものを選定することとなるが、想定されるものの例は次のとおりである。平和・紛争研究、平和構築、開発途上国の民主化、家族やジェンダーをめぐる政治、経済のグローバル化をめぐる政治、環境と政治、情報技術と政治など。実務の第一線で活躍する専門家などの外部講師を活用することも視野に入れる。	国際関係論の理論や思想、現在の国際社会が直面する諸問題に関して理解できる。（知識・理解）	国際関係論の理論や思想、現在の国際社会が直面する諸問題に関する基礎的な事項を最低限理解できる。（知識・理解）
経済学特論	国際学部 専門科目	2	2・3・4	この講義では、皆さんの身近にそっと隠れている経済学の理論や、皆さんがこれから使うと役に立ちそうな経済学のトピックスを学びます。具体的に、価格差別論、就職の経済学、教育の経済学、結婚の経済学、といった身近に隠れている経済学の理論と共に、資産の運用、株式投資、年金制度、イスラムビジネス、BOPビジネスといったこれから社会に出ていく皆さんに有益であろう事柄を議論します。この講義を通じて、経済学を身近に感じ、経済学の楽しさを味わう第一歩を踏み出します。	1. 価格差別論や、オークション理論を学ぶことにより、身近に使われている経済学の理論を知り、分析手法を知ることにより、物事を論理的に分析する力を付ける。（知識・理解）（技能） 2. 社会保障制度や金融投資に関する知識を学び、学んだ知識を自分や、国の将来を設計するために使うことが出来るようになる。（知識・理解）（関心・意欲・態度） 3. イスラムビジネスやBOPビジネス等を学ぶことを通じて多様な社会の中での自らの在り方を考えると共に、経済学のおもしろさを味わう。（関心・意欲・態度）	1. 価格差別論や、オークション理論を学ぶことにより、身近に使われている経済学の理論を知り、分析手法を知ることにより、物事を論理的に分析する力を付ける。（知識・理解）（技能） 2. 社会保障制度や金融投資に関する知識を身に付け、説明できるようになる。（知識・理解）（関心・意欲・態度） 3. イスラムビジネスやBOPビジネス等を学ぶことを通じて多様な社会の中での自らの在り方を考えると共に、経済学のおもしろさを味わう。（関心・意欲・態度）

科目名	科目区分	単位	学年	科目概要	到達目標（成績評価A）	単位修得目標（成績評価C）
紛争解決論	国際学部 専門 科目	2	2・3・4	国際社会は中央集権化されていないことから、国際紛争の集権的・強力的解決は困難である。本講義では、戦争や武力行使をいかに国際社会が排除するために紛争の平和的解決について国際法を進展させてきたか、国際組織や制度を形成したかについて学習する。	武力行使の禁止がいかに成立したかを歴史的経緯に沿って説明できる。国際司法裁判所の裁判管轄権について、国際司法裁判所規程に基づきその問題点を含め総合的に説明できる。国際司法裁判所の手続について、総合的に理解し、説明できる。世界貿易機関などに代表される国連システム以外の紛争解決について説明できる。国際判例を踏まえて紛争解決についての手続的事項を理解できる。	戦争の違法化についての基本的経緯を説明できる。国際司法裁判所の裁判手続について基本的な事項を把握する。地域機関や他の国際組織の紛争解決手続の特徴について、列挙できる。
国際卒研演習	国際学部 専門 科目	2	4	大学における学問・研究の総仕上げとしての卒業研究に際し、各自テーマの設定、資料収集、調査方法、資料の整理とその分析や考察を行う。活発なディスカッションを通して、卒業研究の内容を充実させる。この演習と卒業研究を通して、研究テーマを科学的な方法によって分析・考察し、発表するという研究を実践する。	・関心のあるテーマに沿って、研究文献・資料を収集したり、調査を行ったりすることが十分にできる。（関心・意欲・態度） ・収集した研究文献・資料を十分に理解することができる。（知識・理解） ・文献・資料、調査結果を分析・整理し、考察し、卒業研究として適切にまとめることができるようになる。（思考・判断・表現）	・関心のあるテーマに沿って、最低限必要な研究文献・資料の収集をしたり、調査を行ったりすることができる。（関心・意欲・態度） ・収集した研究文献・資料の基本的な部分を理解することができる。（知識・理解） ・文献・資料、調査結果を分析・整理し、考察し、卒業研究としてまとめることができるようになる。（思考・判断・表現）
国際専門演習	国際学部 専門 科目	4	3	専門分野についてより高度な専門的文献や資料を講読し、分析、発表、討論を行う。研究テーマを絞り、4年次における卒業研究につなげていくために各分野における専門的な研究への方向付けを行う。	・4年次における卒業研究に備えるため、卒業研究に必要な基礎的知識、研究のテーマの設定の仕方、論文の構成方法などを十分に修得することができる。（知識・理解） ・論理的な考察が十分にできるようになる。（思考・判断・表現） ・問題意識を持って関心のあるテーマに積極的に取り組むことができる。（関心・意欲・態度）	・4年次における卒業研究に備えるため、卒業研究に必要な基礎的知識、研究のテーマの設定の仕方、論文の構成方法などの基礎を修得することができる。（知識・理解） ・論理的な考察ができるようになる。（思考・判断・表現） ・問題意識を持って関心のあるテーマに取り組むことができる。（関心・意欲・態度）
企業法務	国際学部 関連 科目	2	2・3	現代企業の実務において直面する諸課題に対応する際に役立つ民法、商法、労働法などのポイントについて、条文と関連付けて理解する。グローバル化に対応した企業法務のあり方と企業経営との関りについて理解する。代表的な企業における法務担当組織の業務内容と特徴を理解する。	・現代企業の実務において直面する諸課題に対応する際に役立つ民法、商法、労働法などのポイントについて、条文と関連付けて十分説明できる。（知識理解） ・グローバル化に対応した企業法務のあり方と企業経営との関りについて十分説明できる。（知識・理解） ・代表的な企業における法務担当組織の業務内容と特徴を十分説明できる。（知識・理解）	・グローバル化に対応した企業法務のあり方と企業経営との関りについて最低限の説明ができる。（知識・理解） ・代表的な企業における法務担当組織の業務内容と特徴について最低限の説明ができる。（知識・理解） ・グローバル人材に相応しいコミュニケーション能力の向上に向けた最低限の取り組みができる（関心・意欲・態度）
企業会計と財務	国際学部 関連 科目	2	2・3	貸借対照表、損益計算書など企業の会計情報分析に関する基本的な項目について十分説明あるいは処理できる。企業会計・財務と社会の様々な事象の係りやその現代的課題等について理解する。	・企業の会計情報分析に関する基本的な項目について十分説明あるいは処理できる。（知識・理解） ・企業会計・財務と社会の様々な事象の係りやその現代的課題等について十分説明あるいは処理できる。（知識・理解）	・企業の会計情報分析に関する基本的な項目について最低限の説明ができる。（知識・理解） ・企業会計・財務と社会の様々な事象の係りやその現代的課題等について最低限の説明ができる。（知識・理解）
法令の解釈と作成	国際学部 関連 科目	2	2・3	国の法令のみならず会社の定款や就業規則、団体の就業規則や定款などを含む社会の法規範の体系について理解する。実務や市民生活のニーズに対応した基礎的な条文解釈および法令作成について理解し応用する。	・国の法令のみならず会社の定款や就業規則、団体の就業規則や定款などを含む社会の法規範の体系について十分説明できる。（知識・理解） ・実務や市民生活のニーズに対応した基礎的な法令作成を十分できる。（知識・理解）	・国の法令のみならず会社の定款や就業規則、団体の就業規則や定款などを含む社会の法規範の体系について最低限の説明ができる。（知識・理解） ・実務や市民生活のニーズに対応した基礎的な条文解釈および法令作成を最低限できる。（知識・理解）
国際ビジネス事情 I	国際学部 専門 科目	2	3・4	近年、グローバル経済が急速に進展する中にあり、企業の国境を越えたビジネス活動が活発化している。今日の企業経営は、国際ビジネス抜きには語り得ない。本講義では、こうした企業の国際ビジネスについて、次のような三つのステップで学びを進め、国際ビジネスに関する基礎知識の習得と包括的理解をする。まず1.大まかに国際ビジネスに関する歴史的な流れと現状を把握した上で、2.国際（多国籍・グローバル）企業の戦略・組織のあり方（企業立地と生産配置、人的資源管理など）について、一般的な傾向並びに代表的な企業の特徴等を理解する。最後に3.最新版『業界地図』を合わせ用いることにより、日本企業の海外展開、外国企業の日本進出、といった日本をめぐる企業の国際ビジネス状況について概観し、その課題を考える。また(3)を就職活動に向けた企業研究としても役立てる。	・急速に進む経済グローバル化と企業経営の海外展開との関係について、基本的な理解が出来るようになる。（知識・理解） ・国際（多国籍・グローバル）企業の歴史と現状、戦略・組織のあり方等について、基本的な理解が出来るようになる。（知識・理解） ・日本をめぐる国際的な企業経営の状況と直面する今日的課題について、基本的な理解が出来るようになる。（知識・理解） ・講義で習得した知識を基に、個々の企業が抱える海外進出に関する課題・改善点を自分なりに分析することが出来るようになる。（思考・判断・表現）	・急速に進む経済グローバル化と企業経営の海外展開との関係について、基本的な理解が出来るようになる。（知識・理解） ・国際（多国籍・グローバル）企業の歴史と現状、戦略・組織のあり方等について、基本的な理解が出来るようになる。（知識・理解） ・日本をめぐる国際的な企業経営の状況と直面する今日的課題について、基本的な理解が出来るようになる。（知識・理解）
国際事情/フィールドワーク	国際学部 関連 科目	2	1・2・3・4	徹底的な事前学習を行い、充分な予備知識・問題意識を得て、目的地へ向かう。現地では、授業テーマに沿った見学、調査、交流を行う。帰国後は、報告書を作成する、または報告会で発表する。	・実際に海外へ出たときに体験する様々なこと—特に異なる社会や文化のあり方について、準備段階で学んだり考えたりしたことと突き合わせ、十分にその理解を定着させることができる。さらに特定分野に関して、実地調査に基づいた学問的知識を十分に深める。（知識・理解）（思考・判断・表現） ・現地の人々との会合等を持つなかで、異文化理解を深め、国際交流の在り方も学ぶことができるようになる。（技術）（思考・判断・表現）（関心・意欲・態度）	・実際に海外へ出たときに体験する様々なこと—特に異なる社会や文化のあり方について、準備段階で学んだり考えたりしたことと突き合わせ、最低限の理解を定着させることができる。さらに特定分野に関して、実地調査に基づいた学問的知識を定着させる。（知識・理解）（思考・判断・表現） ・現地の人々との会合等を持つなかで、異文化理解を深め、国際交流の在り方も学ぶことができるようになる。（技術）（思考・判断・表現）（関心・意欲・態度）
*Cross-Cultural Communication	国際学部 専門 基礎科目	2	1	国際社会で円滑なコミュニケーションを図るために必要な事項を英語で理解する。英語で正確に自分の意見を伝える力を身に付ける。	1. 国際社会で円滑なコミュニケーションを図るために必要な事項を英語で十分に説明する力を身に付ける。（知識・理解） 2. 正確な英語で自分の意見を十分に述べる力を身に付ける。（技能）	1. 国際社会で円滑なコミュニケーションを図るために必要な事項を英語で最低限説明することができる。（知識・理解） 2. 英語で自分の意見を最低限述べることができる。（技能）
*Communication in a Global Environment	国際学部 専門 基礎科目	2	1	さまざまな場面における対人コミュニケーションの方法について英語で理解する。具体的な場面で対人コミュニケーションの方法を活用する。	1. さまざまな場面における対人コミュニケーションの方法について英語で十分な説明ができる。（知識・理解） 2. 具体的な場面で英語での対人コミュニケーションの方法を活用できる十分な力を示せる。（技能）	1. さまざまな場面における対人コミュニケーションの方法について英語で最低限の説明ができる。（知識・理解） 2. 具体的な場面で英語での対人コミュニケーションの方法を活用できる最低限の力を示せる。（技能）
*Introduction to Global Issues I	国際学部 専門 基礎科目	2	1・2	世界経済の仕組みを英語で理解する。ビジネスの世界において活躍できるグローバル人材に必要な、幅広い国際教養を身に付ける。	1. 世界経済の仕組みを英語で十分に説明できる。（知識・理解） 2. ビジネスの世界において活躍できるグローバル人材に必要な、幅広い国際教養を示せる。（知識・理解）	1. 世界経済の仕組みについて英語で最低限の説明ができる。（知識・理解） 2. ビジネスの世界において活躍できるグローバル人材に必要な、最低限の国際教養を示せる。（知識・理解）

科目名	科目区分	単位	学年	科目概要	到達目標（成績評価A）	単位修得目標（成績評価C）
*Introduction to Global Issues II	国際学部 専門 基礎科目	2	1・2	経済の成長における起業家の役割について英語で理解する。ビジネスの世界において活躍できるグローバル人材に必要な、幅広い国際教養を身に付ける。	1. 起業家の役割について英語で十分説明できる。（知識・理解） 2. ビジネスの世界において活躍できるグローバル人材に必要な、幅広い国際教養を示せる。（知識・理解）	1. 起業家の役割について英語で最低限の説明できる。（知識・理解） 2. ビジネスの世界において活躍できるグローバル人材に必要な、最低限の国際教養を示せる。（知識・理解）
*Topics in Japanese Society	国際学部 専門 基礎科目	2	1・2	日本のさまざまな制度、考え方を英語で理解する。日本の様々な制度、考え方にに関する自分なりの考察を、英語で発信する力を身に付ける。	1. 日本のさまざまな制度、考え方について、英語で十分な説明ができる。（知識・理解） 2. 日本の様々な制度、考え方にに関する自分なりの考察を、英語で十分に説明できる。（思考・判断・表現）	1. 日本のさまざまな制度、考え方について、英語で最低限の説明ができる。（知識・理解） 2. 日本の様々な制度、考え方にに関する自分なりの考察について、英語で最低限の説明ができる。（思考・判断・表現）
*Topics in US Society	国際学部 専門 基礎科目	2	1・2	現在のアメリカ社会の状況や様々な人種・民族から成り立っているアメリカ人について英語で理解を深める。アメリカについての自分の考えを、英語でまとめて、発信する力を身に付ける。	1. 現在のアメリカ社会の状況や様々な人種・民族から成り立っているアメリカ人についての理解を英語で十分説明できる。（知識・理解） 2. アメリカについての自分の考えを、英語で十分説明できる。（思考・判断・表現）	1. 現在のアメリカ社会の状況や様々な人種・民族から成り立っているアメリカ人についての理解を英語で制提言説明できる。（知識・理解） 2. アメリカについての自分の考えを、英語で最低限説明できる。（思考・判断・表現）
*Topics in UK Society	国際学部 専門 基礎科目	2	1・2	現在のイギリス社会の状況やイングランド・スコットランド・ウェールズ・北アイルランドから成るイギリスの文化的多様性について英語で理解を深める。イギリスについて自分の考えを、英語でまとめ、表現する力を身に付ける。	1. 現在のイギリス社会の状況やイングランド・スコットランド・ウェールズ・北アイルランドから成るイギリスの文化的多様性についての理解を、英語で十分説明できる。（知識・理解） 2. イギリスについて自分の考えを、英語で十分説明できる（思考・判断・表現）。	1. 現在のイギリス社会の状況やイングランド・スコットランド・ウェールズ・北アイルランドから成るイギリスの文化的多様性についての理解を、英語で最低限説明できる。（知識・理解） 2. イギリスについて自分の考えを、英語で最低限説明できる（思考・判断・表現）。
*国際コミュニケーション論 I	国際学部 専門 基礎科目	2	1	国際的な場面において文化的背景が異なる人々がコミュニケーションをはかる際に生じる諸特徴について理解する。言語は単にコミュニケーションの道具ではなく、「物の見方」の道具でもあるという視点に立って、言語学の成果と方法をもとに、ことばを通して文化について学習する。	異文化コミュニケーションの諸理論について学習し、文化背景の異なる人々に対する開かれた心と態度、コミュニケーション方法を身に付けることができる。（技能）	異文化コミュニケーションの諸理論について学習し、文化背景の異なる人々に対する開かれた心と態度、コミュニケーション方法を身に付けることができる。（技能）
*国際関係論 II	国際学部 専門 基礎科目	2	1	国際社会の秩序を形成している原則や規範について歴史的、理論的に考察し、社会科学の用語の正しい使用法を学びつつ、国際関係論の基礎概念を習得する。「主権」のような基礎概念が歴史的にどのように形成されてきたかを理解することに注力し、そうした基礎概念を今日のグローバル化の進展で起こる新しい課題の考察に活用する思考法を習得する。	1. 国際関係論の基礎概念について、社会科学の用語を用いて正確に説明できる。（知識・理解） 2. グローバリゼーションの進展によって起こる課題を見出し、国際関係論の基礎概念を用いて考察することができる。（思考・判断・表現）	1. 国際関係論の基礎概念について、基本的な事項を説明できる。（知識・理解） 2. グローバリゼーションの進展によって起こる課題を見出すことができる。（思考・判断・表現）
*国際関係論 I	国際学部 専門 基礎科目	2	1	国際社会のなかで個々の国家などのアクター（行為主体）がとる対外政策（外交政策）の決定過程分析に必要な理論について理解し、具体的な事例でそれを用い、考察する。対外政策の主要理論であるリアリズム、リベラリズム、コンストラクティヴィズムの基本的な考え方を理解する。理論は実際に起こった歴史事象から析出されたものなので、授業ではビデオなども利用して、具体的な事例の分析を行ないながら考察する。	1. 対外政策の決定過程について理解し、国ごとの制度の違いを踏まえた説明ができる。（知識・理解） 2. 具体的な事例をもとに対外政策の決定過程について、主要な理論に従って分析を行い、レポートを作成することができる。（思考・判断・表現） 3. 対外政策の主要理論であるリアリズム、リベラリズム、コンストラクティヴィズムについて、代表的な論者をあげながら、それぞれの特徴を説明できる。（知識・理解）	1. 対外政策の決定過程について、基本的な事項を説明できる。（知識・理解） 2. 具体的な事例をもとに対外政策の決定過程について、レポートを作成することができる。（思考・判断・表現） 3. 対外政策の主要理論であるリアリズム、リベラリズム、コンストラクティヴィズムについて、基本的な事項を説明できる。（知識・理解）
*Contemporary Global Issues I	国際学部 専門 科目	2	2・3	グローバル経済・ビジネスの諸問題について英語で論理的に考察するとともに、実践に活かすことができる応用力を身に付ける。	1. グローバル経済・ビジネスの諸問題について英語による論理的な説明を、十分に行うことができる（思考・判断・表現）。 2. 実践に活かすことができる十分な応用力を示せる（思考・判断・表現）。	1. グローバル経済・ビジネスの諸問題について、英語による論理的な説明を、最低限行うことができる（思考・判断・表現）。 2. 実践に活かすことができる最低限の応用力を示せる（思考・判断・表現）。
*Contemporary Global Issues II	国際学部 専門 科目	2	2・3	「グローバル化」がもつ意味について英語でより深く理解する。	「グローバル化」がもつ意味について英語で十分な説明ができる（知識・理解）。	「グローバル化」がもつ意味について英語で最低限の説明ができる（知識・理解）。
*Contemporary Global Issues III	国際学部 専門 科目	2	2・3	アメリカ合衆国とイギリス両国について、比較的考察を英語で行う力を身に付ける。それぞれの国の特徴を英語で理解する。	1. アメリカ合衆国とイギリス両国の比較的考察を、英語で十分説明できる。（思考・判断・表現） 2. それぞれの国の特徴を英語で十分説明することができる。（知識・理解）	1. アメリカ合衆国とイギリス両国の比較的考察を、英語で最低限の説明ができる。（思考・判断・表現） 2. それぞれの国の特徴について、英語で最低限の説明ができる。（知識・理解）
*Readings in Global Business	国際学部 専門 科目	2	2・3	グローバル経済に関する英語の文献を講読し、理解する。これらの文献の内容について、自分の考えを英語で述べる力を身に付ける。	1. 講読したグローバル経済に関する英語の文献の内容を、英語で十分説明できる（知識・理解） 2. これらの文献の内容について、自分の考えを英語で十分に説明できる。（思考・判断・表現）	1. 講読したグローバル経済に関する英語の文献の内容を、英語で最低限説明できる（知識・理解） 2. これらの文献の内容について、自分の考えを英語で最低限説明できる。（思考・判断・表現）
*Readings in Global Issues	国際学部 専門 科目	2	2・3	グローバル社会に関する英語の文献を講読し、理解する。これらの文献の内容について、自分の考えを英語で述べる力を身に付ける。	1. 講読したグローバル社会に関する英語の文献の内容を、英語で十分説明できる（知識・理解） 2. これらの文献の内容について、自分の考えを英語で十分に説明できる。（思考・判断・表現）	1. 講読したグローバル社会に関する英語の文献の内容を、英語で最低限説明できる（知識・理解） 2. これらの文献の内容について、自分の考えを英語で最低限説明できる。（思考・判断・表現）
*International Business Communication I	国際学部 専門 科目	2	2・3	ビジネスの世界において活躍できるグローバル人材に必要な、異文化理解の力を英語で身に付ける。異文化理解を踏まえた英語コミュニケーション力を身に付ける。	1. ビジネスの世界において活躍できるグローバル人材に必要な異文化理解について、英語で十分な説明ができる。（知識・理解） 2. 異文化理解を踏まえた、十分な英語コミュニケーション力を示せる。（技術）	1. ビジネスの世界において活躍できるグローバル人材に必要な異文化理解について、英語で最低限の説明ができる。（知識・理解） 2. 異文化理解を踏まえた、最低限の英語コミュニケーション力を示せる。（技術）
*International Business Communication II	国際学部 専門 科目	2	2・3	ビジネスの世界において活躍できるグローバル人材に必要な、異文化理解の力を英語で身に付ける。異文化理解を踏まえた英語コミュニケーション力を身に付ける。	1. ビジネスの世界において活躍できるグローバル人材に必要な異文化理解について、英語で十分な説明ができる。（知識・理解） 2. 異文化理解を踏まえた、十分な英語コミュニケーション力を示せる。（技術）	1. ビジネスの世界において活躍できるグローバル人材に必要な異文化理解について、英語で最低限の説明ができる。（知識・理解） 2. 異文化理解を踏まえた、最低限の英語コミュニケーション力を示せる。（技術）
*Japanese Society from a Comparative Perspective	国際学部 専門 科目	2	2・3	日本が抱える問題とグローバルな問題の関係性について、英語で比較、参照し理解する。	日本が抱える問題とグローバルな問題の関係性についての比較や参照について、英語で十分な説明ができる（知識・理解）	日本が抱える問題とグローバルな問題の関係性についての比較や参照について、英語で最低限の説明ができる（知識・理解）
*Tourism in Japan	国際学部 専門 科目	2	2・3	日本の魅力を伝える重要なメディアとしての観光について英語で理解する。	日本の魅力を伝える重要なメディアとしての観光について、英語で十分な説明ができる。（知識・理解）	日本の魅力を伝える重要なメディアとしての観光について、英語で最低限の説明ができる。（知識・理解）

科目名	科目区分	単位	学年	科目概要	到達目標（成績評価A）	単位修得目標（成績評価C）
*Japan and the Japanese in Western Writings	国際学部 専門科目	2	2・3	英語圏における日本（人）について論じた文章を講読し、日本（人）像とそこに表れた自他意識を時代の文脈のなかで理解する。	英語圏における日本（人）について論じた文章の講読内容や、日本（人）像とそこに表れた自他意識を時代の文脈のなかでの理解を、英語で十分に説明できる。（知識・理解）	英語圏における日本（人）について論じた文章の講読内容や、日本（人）像とそこに表れた自他意識を時代の文脈のなかでの理解を、英語で最低限の説明ができる。（知識・理解）
*ヨーロッパ地域論Ⅰ（イギリス）	国際学部 専門科目	2	2・3	イギリスはヨーロッパの一部でありながらも大陸のヨーロッパ諸国とは異なる意識をもつとともに、イングランド以外にスコットランド、ウェールズ、北アイルランドといった政治的、文化的に多様な地域から成り立っている。この講義では、こうしたイギリスの特徴を、歴史的な経緯をふまえて、政治的、社会的、文化的な観点から考える。	この講義で扱う地域は、イギリスの4地域—イングランド、ウェールズ、スコットランド、北アイルランド—とアイルランド共和国である。地理的には小さい範囲ながら、その中で各地域が長い歴史と固有の文化的特性をもつ状況を理解できるようになる。	1. 現代イギリス社会の前提となる歴史的経緯について、対外関係や内部の多様性ととも理解し、具体的な例を挙げながら説明することができる。（知識・理解） 2. 1. で得られた理解をふまえ、日本との比較の視点から、具体的な事例を挙げて共通点と相違点を説明できるようになる。（思考・判断・表現）
*アメリカの社会Ⅰ	国際学部 専門科目	2	2・3	日本に住むわれわれにとって「アメリカ」は身近な存在である。コカコーラやマクドナルド、ディズニーやスタバまで、アメリカ文化はわれわれの日常生活に浸透している。さらに、かつて敵国として戦火を交えた国であるにもかかわらず、戦後の日本は先進国の中で最もアメリカに対する好感度が高い国でもある。しばしば日米関係は外交や貿易といった側面から語られるが、こうした現象は政治外交や経済上の関係だけでは理解することはできない。そのため、この授業では現在のわれわれにとっての「アメリカ」を考えるために、日本と米国の文化交流の歴史を学ぶ。その際、日本からのみの視点ではなく、アメリカ人が日本文化をどのように経験したのか、という点にも着目し、日本とアメリカがどのようにお互いを見て、理解し、付き合ってきたのか、考察する。	・現在の日米関係を文化交流の歴史という観点から理解できるようになる。（知識・理解） ・近代以降の日本とアメリカ合衆国の文化がいかに相互の影響のなかで形成されたかを理解できるようになる。（知識・理解）	・現在の日米関係を文化交流の歴史という観点から最低限理解できるようになる。（知識・理解） ・近代以降の日本とアメリカ合衆国の文化がいかに相互の影響のなかで形成されたかを最低限理解できるようになる。（知識・理解）
卒業研究	国際学部 専門科目	6	4	1年次から3年次において修得した基礎的・専門的知識や学問的手法をもとに、教員の指導を受けながら「国際卒研演習」での研究成果を形にしていく。	・関心のあるテーマに沿って、研究文献・資料を収集したり、調査を行ったりすることが十分にできる。（関心・意欲・態度） ・収集した研究文献・資料を十分に理解することができる。（知識・理解） ・文献・資料、調査結果を分析し・整理し、考察し、卒業研究として適切にまとめることができるようになる。（思考・判断・表現） ・研究成果を形にするだけでなく、発表や口頭試問によって研究成果についてわかりやすく明確に説明できるようになる。（思考・判断・表現）	・関心のあるテーマに沿って、最低限必要な研究文献・資料を収集したり、調査を行ったりすることができる。（関心・意欲・態度） ・収集した研究文献・資料の基本的な部分を理解することができる。（知識・理解） ・文献・資料、調査結果を分析し・整理し、考察し、卒業研究としてまとめることができるようになる。（思考・判断・表現） ・研究成果を形にするだけでなく、発表や口頭試問によって研究成果についてわかりやすく明確に説明できるようになる。（思考・判断・表現）
日本語教育研究Ⅰ	国際学部 諸資格に関する科目	4	2・3・4	日本語教育について概観する。まず、日本語の教授法に関して、これまでの教授法の歴史をたどりながらそれぞれの教授法の特徴を把握するとともに、教授法について理解を深めるために簡単な模擬授業も行う。また、言語教育における重要な課題のひとつである第二言語習得理論や、言語教育と密接な関わりをもつ異文化理解についても考察する。さらに、地域の日本語教育、現代日本語教育事情、海外の日本語教育事情、日本語教育史など、現代の日本語教育を取り巻くいくつかのテーマをとりあげ、日本語教育全般についての基礎的な知識を養う。	・日本語教育の歴史や現状、さらに外国語教授法、評価法、また、海外での日本語教育の現状などを十分に理解し、説明できる。（知識・理解） ・また、模擬授業に備えて、適切な教案や副教材を作ることができる。（技術）	・日本語教育の歴史や現状、さらに外国語教授法、評価法、また、海外での日本語教育の現状などの基本的な知識を理解することができる。（知識・理解） ・また、模擬授業に備えて、教案や副教材を作ることができる。（技術）
日本語教育研究Ⅱ	国際学部 諸資格に関する科目	4	2・3・4	日本語教育の教授法について具体的に学ぶ。どのような学習者が日本語を学ぶのか、学習者によってどのようなコースデザインが考えられるのかを考える。まず、マルチメディア教材を含む市販の教材分析をとおして、多様な学習者に応じた市販の教材・教具の長所と短所、想定される学習者、学習目標やそれに対応したシラバス、教材の使用法について考察する。また、コミュニケーションを重視した教材、4技能別教材、漢字教材、視聴覚教材など学習目標にあわせた教材の作成も行う。さらに、言語テストの作成方法、結果の分析方法についても考察する。	・外国語教授法の理論を十分に理解し、説明することができる。（知識・理解） ・学習者の立場を重視した適切な日本語の教授の仕方を考えることができる。（思考・判断・表現）	・基本的な外国語教授法の理論を理解することができる。（知識・理解） ・学習者の立場を重視した日本語の教授の仕方を考えることができる。（思考・判断・表現）
日本語教育実習	国際学部 諸資格に関する科目	1	4	模擬授業と実習を行う。模擬授業では、テキストの学習項目を的確に把握し、60分の授業計画を立てる。授業案を作成し（必要なら補助教材等も作成する）、授業を行う。模擬授業後に学習者役の学生と意見交換をしながら、よりよい授業のあり方について考える。実習では、ボランティア等の日本語教室に参加し、日本語教育の現場を体験する。計画的に進められる教室での授業とはさまざまな面で異なっている現場を体験することによって、日本語教育の多様性や問題点、今後のあり方等について考える。	・テキストの学習目標を十分に理解することができる。（知識・理解） ・学習目標に沿った適切な教案や副教材を作成し、模擬授業を行うことができる。（思考・判断・表現） ・また、実習を通して、現場の日本語教育に必要なものを十分に理解することができる。（関心・意欲・態度）	・テキストの最低限の学習目標を理解することができる。（知識・理解） ・学習目標に沿った教案や副教材を作成し、模擬授業を行うことができる。（思考・判断・表現） ・また、実習を通して、現場の日本語教育に必要なものを理解することができる。（関心・意欲・態度）